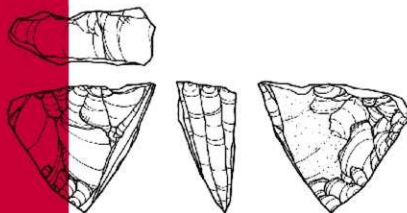


ユーラシア東部における 細石刃石器群の出現と拡散

— 中国北部クロスロード仮説の検証 —

Emergence and Diffusion of Microblade industries in Eastern Eurasia
— Verification of the Northern China Crossroads Hypothesis —



研究課題番号: 20H01361

研究代表者: 加藤 真二

(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 副所長)

令和6(2024)年3月

ユーラシア東部における 細石刃石器群の出現と拡散

— 中国北部クロスロード仮説の検証 —

例 言

1. 本書は、2020年度～2023年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証」(研究代表者：加藤真二・独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 副所長 研究課題番20H01361)の研究成果報告書である。
2. 本書第2章は、加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の展開」『細石刃石器群発見70周年記念 日本列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の展開 予稿集』, 55-59, 明治大学黒曜石研究センター(長和)を全面的に加筆・修正した。
第3章は、加藤真二(2023)「二道梁—林富事件について」『九州旧石器』27, 143-152, 九州旧石器文化研究会を同研究会の同意を得て、一部修正・加筆のうえ、転載した。
3. 本書にみえる放射性炭素年代の暦年較正年代ならびに中央値は、特に断らない限り、IntCal20データベースを組み込んだCalib.Rev.8.0.1較正プログラムを用いて算出したものである。誤差は 2σ 。
4. 本書図5～7、9、12、14、16、23は、Google Earth Proを用いて作成した。
5. 第3章をのぞき、各章の本文中に付した引用・参考文献の番号は、巻末の文献一覧の番号に一致する。
6. 以下の各機関・各位にご指導・ご鞭撻・ご協力を賜った。あつく御礼申し上げます
(*は研究協力者ならびに海外研究協力者)。
中国科学院古脊椎動物与古人類研究所、中国社会科学院考古研究所、黒龍江省文物考古研究所、吉林省文物考古研究所、河北省文物考古研究院、山東省文物考古研究院、河南省文物考古研究院、北京大学、北京師範大学、中国人民大学、山東大学、河北師範大学
人類古生物研究所(IPH)、フランス人類博物館(Musée de l'Homme)
北海道埋蔵文化財センター、遠軽町埋蔵文化財センター、福井洞窟ミュージアム、東京大学、東北大学、北海道大学、名古屋大学、札幌学院大学、明治大学、東北日本の旧石器文化を語る会、九州旧石器文化研究会、旧石器文化談話会
杜水生、高 星、関 豊*、李 鋒、李 浩、李 罡*、李有蕓*、李占揚、馬歎歎、馬 寧、梅惠傑*、宋曉花、王法崗*、王 皓、王幼平、魏 堅、謝 飛、徐 廷*、岳健平*、趙海龍*、趙清坡、周振宇*
Henry de Lumley, Yan Axel Gómez Coutouly
稲田孝司、大谷 薫、小野 昭、門脇誠二、鹿又喜隆、小原俊行*、佐川正敏、佐藤宏之、芝康次郎*、杉原敏之、高倉 純*、竹花和晴*、堤 隆、中川和哉、長沼 孝、西秋良宏、麻柄一志、松藤和人、松村倫文、柳田裕三

表紙は、河北省蔚箕灘遺跡出土細石核(原寸大)

目次

序章

1. 研究の学術的背景	1
2. 研究の目的	2
3. 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか	3
4. 研究期間中の研究成果	3
5. その他	6

第1章 中国北部の細石刃石器群

1. 中国北部の地理区分と自然環境	7
2. 中国北部の細石刃石器群	10

第2章 中国北部における細石刃石器群の展開

1. 中国細石刃調査研究史 —2013-2023年—	17
2. 対象石器群の提示	17
3. 細石刃石器群の展開	21
4. 細石刃石器群の展開の背景 —自然環境・石器群荷担集団—	33
5. ユーラシア東部の細石刃石器群	37
6. おわりに	39

第3章 二道梁—林富事件について

1. はじめに	41
2. 中国における舟底形細石核を主体とする石器群	41
3. 舟底形細石核石器群の動向	43
4. 舟底形細石核石器群の特性と広域拡散の理由	46
5. 舟底形細石核石器群の広がりとそれが意味すること	49
6. まとめ	50

付 編 中国細石刃石器群関連文献	55
------------------	----

序 章

1. 研究の学術的背景

細石刃は、後期旧石器時代から中石器時代にかけて、ほぼ汎世界的に出現する極小型の剥片石器である細石刃のうち、ユーラシア東部で顕著に発達し、当該地域での特徴となっている、幅12mm以下の剃刀の刃のような極小の石刃である。単独で用いるものではなく、骨角や木で製作された軸に数枚を植刃して、槍、鉞などの刺突具やナイフなどの切削具として用いた。細石刃を押圧剥離で生産する極小の石核が細石核であり、細石刃核から細石刃を生産する技術を細石刃技術と呼ぶ。

細石刃石器群を指標に、ユーラシア東部各地の細石刃石器群荷担集団の動向を考察する調査研究が、世界の旧石器研究の主要な研究課題の1つとして、多くの研究者によって積極的に進められている。その結果、現在、この地域の細石刃石器群に関して、アルタイ・モンゴルの資料をもとに立論された「アルタイ・モンゴル起源、寒冷化拡散起因説」と東シベリアの資料にもとづく「リフュージア起源、寒冷弛緩拡散起因説」の2つの有力な学説が対立する状況が生まれてきている。また、中国の研究者を中心として、「華北起源説」も根強く主張されてきている。

このうち、「アルタイ・モンゴル起源、寒冷化拡散起因説」は、ユーラシア東部の細石刃技術は、約3.7-3.8万年前のアルタイ地域、モンゴル高原の後期旧石器時代前葉石器群(EUP)にみられる小石刃技術を細石刃技術とし、その後の石器群荷担集団の移動や拡散とともに、各地に伝播したものであり、細石刃技術の拡散を引き起こした荷担集団の移動や拡散は、最終氷期極寒期(LGM)の進行による環境変化を背景とするという学説である^(470-622など)。

また、「リフュージア起源、寒冷弛緩拡散起因説」は、3万年前以降のLGMの進行に伴い、東シベリアの石器群の荷担集団が避寒のために移動した地域(リフュージア:モンゴル高原や北海道に仮託)で細石刃技術が発明され、2.2万年前以降のLGMの寒冷・乾燥環境の弛緩にともなう荷担集団の回帰・拡散により、細石刃石器群がユーラシア東部の各地に伝播するという学説である^(623など)。

こうした中、加藤は、「中国細石刃文化の基礎的研究」(2010-2013年度)、「東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究」(2015-2018年度)で、中国細石刃石器群研究を集中しておこなうとともに、古脊椎動物与古人類研究所、黒龍江省文物考古研究所、吉林大学、山東省文物考古研究院などで、河北省西沙河、黒龍江省西山頭、吉林省大洞などの新たな出現期の細石刃石器群を観察してきた。この過程で、現在有力な「アルタイ・モンゴル起源、寒冷化拡散起因説」、「リフュージア起源、寒冷弛緩拡散起因説」ともに、中国の資料、特に、蓄積が著しい最近のものを反映しておらず、妥当性に欠くと考えるようになった。そこで、これらを取り込んだユーラシア東部の旧石器世界の枠組みの構築を構想、次のような仮説を提示した^(624-462など)。

①LGM(2.9~1.6万年前)下に広がった草原を経由して中央アジアから小石刃技術の特徴とする後期旧石器前半期石器群(EUP)が伝播する中、OIS3末からOIS2初頭の2.7-2.8万年前に中国東北部で小石刃技術が角錐状細石核による細石刃技術に変容し、細石刃石器群が成立する。

②これとほぼ同時(約2.7万年前)に、中国東北部の細石刃石器群の荷担集団が中国東北部に広がった草原環境下の地域を南下し、中国東北部の草原環境と華北の森林草原環境の境界線付近で華北の集団と接触し、細石刃技術が後者に摂取され、華北にも角錐状細石核を特徴とする細石刃石器群が拡散する。

③中国東北部においては、長白山周辺の黒曜石地帯で約2.5万年前に楔形細石核による細石刃技術をもついわゆる北方系細石刃石器群が成立し、拡散を開始する。特に、約1.6万年前以降は、華北、日本列島の古本州島北半部、それに北アメリカといった広い範囲に拡散・浸透する。

④大陸とは遅れて出現する西南日本の細石刃石器群の特徴である角錐状細石核による細石刃技術は、華北の細石刃技術と類似するものであり、華北の細石刃技術が、LGMに陸化した東シナ海・渤海湾・黄海を經由して、西南日本に伝播したものである。

以上のような加藤の仮説は、中国北部地域(中国東北部・華北地域)をユーラシア東部における中核地域=クロスロードとしてとらえ、細石刃技術・細石刃石器群が、その東西、南北に拡散したとする「中国北部地域クロスロード仮説」と呼べるものといえる。

そして、研究の次のステップとしては、この仮説を資料にもとづいて検証・修正するとともに、細石刃技術・細石刃石器群の伝播・変容・拡散という事象を石器群荷担集団の形成・移動・拡散、接触という視点から考察し、最終氷期(OIS3~2)下でのユーラシア東部の旧石器世界の形成過程の復元に昇華することが求められている。また、これと同時に、そうした事象がおこっていった背景を考察する必要もある。

2. 研究の目的

本研究は、EUPの小石刃石器群を受容し、細石刃技術石器群の起源地となったと想定する中国東北部、日本列島にもっとも近く、細石刃石器群の東方拡散の状況を記録していると考えられる華北東部の旧石器群の詳細な分析を行って、「中国北部地域クロスロード仮説」を検証し、ユーラシア東部で細石刃技術・細石刃石器群が広く拡散した過程を復元することを第1の目的とする。

次いで、この「中国北部地域クロスロード仮説」にみられる細石刃技術、細石刃石器群の伝播・変容・拡散という事象を石器群荷担集団間の形成・移動・拡散、接触という視点から考察し、約3.0万~1.2万年前の最終氷期下でのユーラシア東部の旧石器世界の形成過程を復元することを第2の目的とする。

また、そうした拡散の背景を環境変化とそれへの適応という観点から考察を進めることを第3の目的とする。

本研究は、中国北部地域だけでなく、モンゴル、ロシア、韓国、そして日本、北米という周辺地域での細石刃石器群研究とリンクするものであり、その影響は極めて広範囲に及ぶことが期待される。また、こうした研究の過程では、中国側研究者との緊密かつ高度な学術交流が生じることが期待され、この地域の旧石器研究の学術的水準の底上げにもつながることになる。

3. 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

①中国北部(華北・中国東北部)を中心とした地域における石器群の詳細観察、計測・実測、写真撮影を行い、資料化する。主要な対象石器群としては、黒龍江省の西山頭、樺陽、林富、山東省の鳳凰嶺など臨沂地区周辺の諸石器群を考えている。

これには、加藤のほか、研究協力者の芝康次郎(文化庁)、高倉純(北海道大学)が、ゆるやかな協力関係をもってあたるとともに、海外研究協力者として、李有蹇(黒龍江省文物考古研究所)、李 罡(山東省文物考古研究院)、岳健平(安徽大学)の内諾をとっている。

なお、詳細観察にあたっては、研究協力者の高倉純の協力を得て、細石刃、細石刃核のフラクチャリング分析を行い、押圧剥離の有無を客観的に判断する。

このほか、関連資料として、古脊椎動物古人類研究所所蔵の河北省西沙河(古脊椎動物古人類研究所所蔵)、同省油房(河北師範大学所蔵)、山西省下川(北京師範大学所蔵)の石器群の調査も念頭に置いている。

②関連資料のAMS年代測定などの理化学的分析を行う。

③最終氷期の古環境復元研究の成果を収集する。

以上の作業・分析をもとに、

i)各地域の細石刃石器群の詳しい内容や年代的位置づけを把握し、上記の仮説の検証と充実・修正を図るとともに、細石刃石器群の動向に関して、ユーラシア東部全体というグローバルな視野での1000年から数百年単位の様相の詳細復元をおこなう。

ii)次いで、それをもとに約3.0万～1.2万年前の最終氷期下でのユーラシア東部の旧石器世界の形成過程を復元する。

iii)以上のような細石刃石器群とその荷担集団の動向の背景を環境変化とそれへの適応という観点から考察を進める。

4. 研究期間中の研究成果

本研究は、上記のような目的・研究計画を掲げて2020年度に着手した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を大きく受け、長い間、主な調査地域としていた中国などでの調査をおこなうことができなかった。このため、中国をはじめとする各地における最新資料の実見ができず、文献を中心とする資料や海外の研究協力者からの情報をもとに、研究を進めざるを得なかった。

研究期間中(2020年4月～2024年3月)にあげることができた主な成果は以下のとおりである。

4-1. 書籍等出版物

Shinji Kato 2023. Chapter 11. East Asia. In Yoshihiro Nishiaki, Yasuhisa Kondo (eds). *Middle and Upper Paleolithic Sites in the Eastern Hemisphere*. 89-96, Springer, New York.

4-2. 論文

岳健平, 王 哈, 加藤真二(2020)「日本北海道地区細石葉技術研究概述」『人類学学報』39(3), 392-403。

Shinji Kato 2021. The cultural sequence of the Middle and Upper Palaeolithic in northern China. *Quaternary International* 596, 54-64.

Shinji Kato 2021. Quelques considérations sur la relation entre le Paléolithique chinois et le Paléolithique japonais. *L'Anthropologie* 125(5), 102963-102971.

加藤真二(2023)「下川遺跡群の石器群について —中国北部のEUP石器群—」『文化財論叢』V, 673-690, 奈良文化財研究所(奈良)。

加藤真二(2023)「二道梁—林富事件について」『九州旧石器』27, 143-152, 九州旧石器文化研究会。

加藤真二(2023)「旧石器時代晩期人類在欧亜東部地区的拡散と文化伝播(Upper Paleolithic human dispersals and cultural diffusions in Eastern Eurasia)」『人類学学報』42(6), 842-856。

4-3. MISC

加藤真二(2021)「水洞溝遺跡群と中国の初期石刃石器群」『岩宿フォーラム2021 シンポジウム 日本列島における石刃石器群の出現 予稿集』, 56-65, 岩宿博物館(みどり)。

加藤真二(2022)「中国北部の後期旧石器時代前葉に関する近年の調査研究について」『日本旧石器学会 第20回研究発表シンポジウム予稿集』, 17-20, 日本旧石器学会(東京)。

加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の動向」『第22回北アジア調査研究報告会要旨集』, 13-16, 北アジア調査研究報告会実行委員会(江別)。

Shinji Kato 2023. The use of obsidian of Paleolithic period in North China. *International Obsidian Conference Engaru 2023*, 50p, The Local Organizing Committee for IOC Engaru 2023, Engaru.

加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の展開」『細石刃石器群発見70周年記念 日本列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の展開 予稿集』, 55-59, 明治大学黒耀石研究センター(長和)。

加藤真二(2024)「中国東北部の楔形細石核について」『第23回北アジア調査研究報告会要旨集』, 2-5, 北アジア調査研究報告会実行委員会(東京)。

4-4. 研究発表

加藤真二(2021)「水洞溝石器群と中国の初期石刃石器群」岩宿フォーラム2021 シンポジウム「日本列島における石刃石器群の出現」, 2021年11月7日, 岩宿博物館(みどり)。

加藤真二(2022)「中国北部の後期旧石器時代前葉に関する近年の調査研究について」日本旧石器学会 第20回大会 研究発表, 2022年6月4日, 東京都埋蔵文化財センター(多摩)。

加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の動向」第22回北アジア調査研究報告会, 2023年2月11日, 北海道大学(札幌)。

Shinji Kato 2023. The Use of Obsidian of the Paleolithic Period in North China. International Obsidian Conference Engaru2023, 2023年7月4日, 遠軽町芸術文化交流プラザ(遠軽)。

加藤真二(2023)「細石刃石器群期の中国と日本」国際ワークショップ「マイクロブレイド 2万年以上前に東アジアで生まれた押圧剥離技術」, 2023年7月8日, インターメディアテク(東京)。

Shinji Kato 2023. Salawusu Again. International Conference on the 100th Anniversary of the Discovery of “Ordos Tooth”, 2023年8月15日, 烏審旗勇泰朗景酒店(オルドス)

加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の展開」資源環境と人類2023シンポジウム「日本列島およびユーラシアにおける細石刃石器群の展開」, 2023年11月12日, 明治大学(東京)。

加藤真二(2024)「中国東北部の楔形細石核について」第23回北アジア調査研究報告会, 2024年3月2日, 東京大学(東京)。

4-5. おもな国内調査

*北海道大学埋蔵文化財調査センター、北海道埋蔵文化財センター、遠軽町埋蔵文化財センターにおける細石刃関連資料の顕微鏡観察

加藤真二(2021年11月16日～11月20日)

*佐世保市福井洞窟ミュージアムにおける福井洞窟出土資料の顕微鏡観察

加藤真二(2021年11月30日～12月2日)

4-6. 海外調査

*フランス・パリ(IPH、人類博物館ほか)における水洞溝・シヤラオソゴル石器群の調査ならびにオーリニャック期における細石刃・小石刃技術に関する調査。

加藤真二(2023年2月15日～2月23日)

高倉 純(2023年2月14日～2月23日)

竹花和晴(2023年2月14日～2月24日)

*中国・北京(IVPP)における資料調査、水洞溝遺跡・シヤラオソ遺跡オルドス人発見100周年国際考古フォーラム(銀川・オルドス烏審旗)、アジア旧石器協会韓国大会(韓国・順天)への参加(竹花は韓国のみ)。

加藤真二(2023年8月8日～8月22日)

竹花和晴(2023年8月17日～8月23日)

*中国・ハルビン(黒龍江省文物考古研究所)、長春(吉林省文物考古研究所ほか)における細石刃関連資料の調査。

加藤真二(2024年1月30日～2月4日)

高倉 純(2024年1月29日～2月4日)

Aleksandr Ulanov(2024年1月29日～2月4日)

4-7. 外国人研究者招聘(肩書は招聘当時のもの)

*2023年6月30日～7月9日(細石刃関連資料の調査、黒曜石国際会議遠軽大会への招聘、北海道大学・東京大学での細石刃関連シンポジウムへの参加)

梅恵傑(河北師範大学 副教授)

岳健平(安徽大学 副教授)

徐 廷(浙大城市学院 副研究館員)

李 罡(山東省文物考古研究院 研究館員)

*2023年11月10日～11月14日(明治大学での国際シンポジウム「日本列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の展開」への招聘)

張龍俊(韓国国立大邱博物館 学芸研究室長)

*2024年1月21日3月1日～3月8日(カザフスタンにおける後期旧石器の調査研究に関する学術交流)

タイマガンベトフ・コジャフメトビッチ・ジャケン(ユーラシア国立大学 教授・カザフスタン科学アカデミー 院士)

5. その他

*北海道大学考古学研究室主催のSeminar on hunter-gatherer behavior and adaptation in Northeast Asia and Alaska during the late Pleistocene and early Holocene (2023年7月1日、北海道大学(札幌)にて開催)を共催。

第1章 中国北部の細石刃石器群

1. 中国北部の地理区分と自然環境

本研究の主な対象地域は、中国北部であり、現在の中国東北部と華北・中国西北部東部（以下、華北と記述する）をあわせた中国北半部のことを指すこととしたい。地理的には、淮河—秦嶺山脈を結んだ線（淮河—秦嶺線）を南限とし、アムール河（黒龍江）（中露国境）、ゴビ砂漠（中蒙国境）を北限とする。また、東限は、北半部がウスリー河（中露国境）や長白山ならびに図們江、鴨緑江（中朝国境）、南半部が渤海、黄海、東シナ海の沿岸であり、西限は、六盤山・賀蘭山などの山系となっている。現在の行政区分でいえば、中国東北部は、黒龍江省、吉林省、遼寧省、内蒙古自治区東部、また、華北は、河北省、北京市、天津市、山東省、山西省、河南省、寧夏回族自治区、甘肅省、陝西省、内蒙古自治区西部が、それぞれ該当する（図1）。

自然環境的には、中国北部は積算温度4500度の線で、その南の地域である中国南部と区分される。中国北部自体は、東北区、華北区、内蒙古区に分けられ、積算温度3000度の線で、華北区と東北区・内蒙古区が、また、東北区と内蒙古区は、張宝瑩による乾燥指数（ $0.16 \times \text{日平均気温} 10^\circ\text{C}$ 以上の安定期の積算温度 / 日平均気温 10°C 以上の安定持続期の降水量、 1.0 以下が湿潤気候とされる） 1.2 の線で区分される。華北と中国東北部の境界は、概ね長城（長城線）と重なる。そして、本来であれば、寒冷湿潤気候で針葉樹林が発達する中国東北部の北部や、乾燥気候で草原地帯の内蒙古西部などを除くと、華北から中国東北部



図1 中国北部の地理区分（二宮書店 新デジタル地図帳Ninomapをもとに作成、二宮書店転載許可済）

の西部にかけては、比較的乾燥した暖温帯から温帯環境下で落葉広葉樹林と森林草原が、また、中国東北部の東部では潤湿温帯下で針葉・落葉広葉混交林が、それぞれ広がるとされる⁽⁶²⁰⁾。ただし、現在の中国では、長きにわたる人間の活動の結果、原生の植生はほとんど残されていない。

後期更新世、温暖期の植生は、現在のものに近かったとみられる。一方、氷期には、中国北部では寒冷乾燥化が進む。例えば、最終氷期極寒期(LGM)には、現在は中国東北部の北部、概ね北緯五〇度以北のホロンバイル高原—大興安嶺山脈北半部—小興安嶺山脈西半部にみられる永久凍土が、沿海部を除く中国東北部全域から華北の燕山山脈—太行山脈北半部—呂梁山脈北半部—オールドス高原南縁部を結んだ線まで南下する(図2)⁽⁵³⁰⁾。その結果、華北から中国東部の南部では森林草原・草原、中国東部の東部では針葉樹林、中国東部の西部から内蒙古東半部でステップや砂漠、中国東部の北部では乾燥した周氷期環境下での荒野が、それぞれ広がった(図3)。

これに合わせて、中国北部では、サイゴハイエナ(*Crocota ultima*)、アジアノロバ(*Equus hemionus*)、モウコノウマ(*Equus przewalskii*)、アカシカ(*Cervus canadensis*)、オーロックス(*Bos primigenius*)、ブルジュワルスキーガゼル(*Procapra przewalskii*)、ケサイ(*Coelodonta antiquitatis*)などの黄土動物群が繁栄するとともに、中国東北部にはマンモス(*Mammuthus primigenius*, *M. sungari*)、ケサイ、バイソン(*Bison priscus*)、

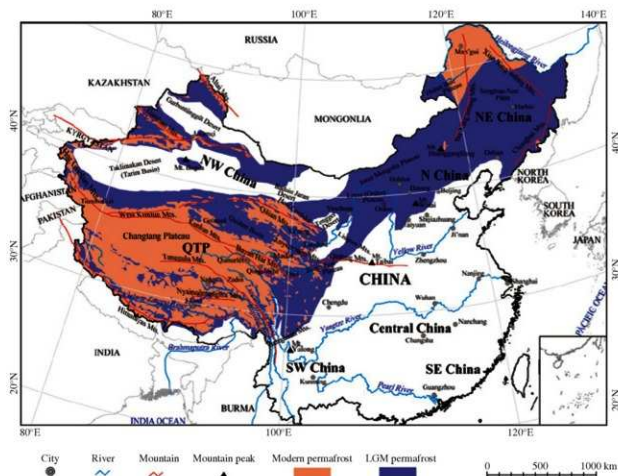


図2 現在(暖色部)とLGM(寒色部)の永久凍土帯(文献530 Fig.1)



図3 LGMにおける中国北部の植生(文献613 図5.12)

ヘラジカ(*Alces alces*)などのマンモス動物群が南下した(図4)。

そして、現在の中国北部は、生物地理区的には、長江から淮河-秦嶺線の間を東洋区に属する中国南部との過渡的地帯としながら、旧北区に区分されている(621)。

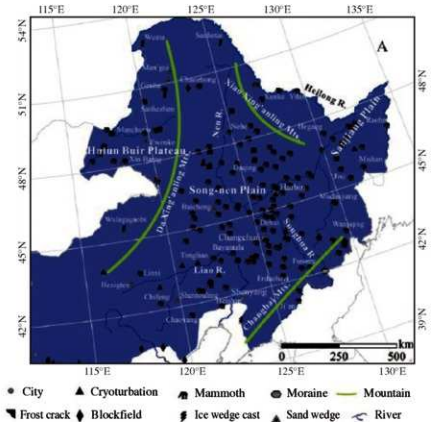


図4 中国東北部における寒冷化にともなう諸現象(文献530 Fig. 2)マンモスに代表される北方の動物群の南下を顕著に確認できる。



図5 中国東北部の細石刃遺跡分布図(図中の番号は、表1の遺跡No.と同じ)

表2-3 華北の細石刃石器群一覧表(3)

編	県	市	鎮	村	遺跡名	北緯	東経	地形図(1:50,000)	遺跡出 土層	遺跡 年代	石器 種類	数量	年代(1950)		年代(1950)	年代(1950)	年代(1950)																																																																																								
													1950年	1950年																																																																																											
195	河北省	邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																																																																																								
196													邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																																																																													
197																								邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																																																																		
198																																			邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																																																							
199																																														邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																																												
200																																																									邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																																	
201																																																																				邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00																						
202																																																																															邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00											
203																																																																																										邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00	11, 78.00
204																																																																																																					邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N
205	邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																																																																																													
206												邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																																																																																		
207																							邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																																																																							
208																																		邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																																																												
209																																													邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																																																	
210																																																								邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																																						
211																																																																			邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																											
212																																																																														邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00																
213																																																																																									邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1	11, 78.00					
214																																																																																																				邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E
215	邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1																																																																																														
216												邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1																																																																																			
217																							邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1																																																																								
218																																		邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1																																																													
219																																													邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1																																																		
220																																																								邯郸市	邯山区	北平	北平	36° 21' N	114° 00' E	1:50,000	I	-	-	1																																							

石器群類型については、21頁参照。

表2-4 華北の細石刃石器群一覧表(4)

緯度	経度	所在	遺跡名	時期	緯度	経度	面積	遺物	出土層	年代	出土品	備考	
176	111	河北省 邢台市 南和県	大寨二遺跡	北周	40° 05' 02" N	113° 28' 26" E	2	0	3	14130	-	-	0.1
177	110		大寨三遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08
178	110		大寨四遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08
179	110		大寨五遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08
179	110		大寨六遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08
179	110		大寨七遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08
179	110	大寨八遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
179	110	大寨九遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
179	110	大寨十遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十一遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十二遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十三遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十四遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十五遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十六遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十七遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十八遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨十九遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十一遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十二遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十三遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十四遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十五遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十六遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十七遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十八遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨二十九遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	
181	110	大寨三十遺跡	北周	40° 08' 13" N	113° 28' 24" E	2	0	3	1374	-	-	0.08	

石器群類型については、21頁参照。



図6-1 華北の細石刃遺跡分布図 (図中の番号は、表2の遺跡No.と同じ)

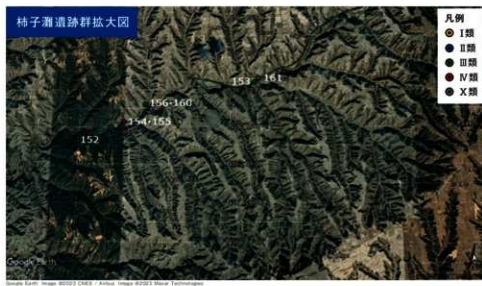


圖6-2
柿子灘遺跡群擴大圖

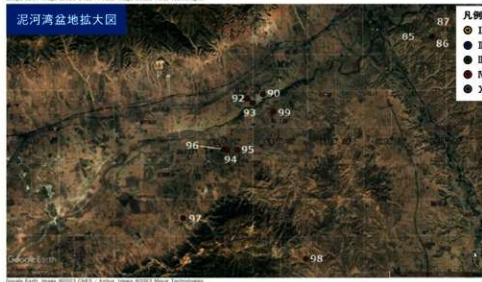


圖6-3
泥河灣盆地擴大圖



圖6-4
馬陵山遺跡群擴大圖

第2章 中国北部における細石刃石器群の展開

本論考は、これまでおこなわれてきた中国北部(中国東北部、華北)の細石刃石器群とそれに関連する調査研究の成果をもとに、当該地域の細石刃石器群の展開を述べるとともに、派生する問題について、私見を示すものである。

この際、細石刃石器群がみられる細石刃期を初期(ca.28-25 calka)、前期(ca.25-18 calka)、後期(ca.18 calka-)に分けて記述する。なお、筆者の区分では、初期・前期は、中国北部の後期旧石器時代中葉(MUP)、後期は、後期旧石器時代後葉(LUP)にそれぞれ対応する。

1. 中国細石刃調査研究史 —2013-2023年—

この10年、中国東北部、華北北部の泥河湾盆地、山西省南部の下川遺跡群、柿子灘遺跡群などで、数多くの細石刃石器群の調査が行われるとともに、それらの石器群の分析が進んだ。また、そうした成果をまとめた、細石刃遺跡の発掘調査報告書も刊行された⁽⁴²³⁻⁴²⁴⁾。その結果、現在(2023年12月1日)のところ、管見によれば、中国北部においては、中国東北部で68地点78石器群、華北で121地点163石器群、合計188地点241石器群が把握されるに至っている。また、近年では、年代測定^(197-408・489など)も進んできており、61地点で年代測定が実施された結果、細石刃石器群の基本的な動向が判明しつつある⁽⁵⁶²⁻⁵⁶⁴⁾。

このような調査研究の進展を受け、地域的な編年研究^(177・183・218など)とともに、中国北部の細石刃石器群の出現と拡散、在地化などの事象を環境変化や人類集団の移動などに関連付けた総合的な研究が発表されている^(318-516・520-521など)。それとともに、従来からおこなわれてきた細石刃技術の技術論的研究に加え、使用痕研究^(96・305など)、黒曜石の産地同定分析を含む使用石材研究^(206・463・514など)、実験考古学的研究^(271・404など)などもおこなわれており、多岐にわたる細石刃石器群研究が展開されるようになってきた。

2. 対象石器群の提示

2-1. 対象となる石器群

本論考では、中国北部で理化学的な年代測定ならびに文化層のレス・古土壌堆積サイクルへの適用で、年代値が示されている、以下の細石刃石器群を対象とする(表3・図7)。また、必要に応じ、年代値をもたない石器群についても言及する。

中国東北部

黒龍江流域 黒龍江省 十八站

三江平原 黒龍江省 小南山1期

黒龍江中部山地・小興安嶺

黒龍江省 桃山3層・4層、樺陽2層・3層、小龍頭山、大龍頭山

長白山区 吉林省 和龍大洞3層・4層・5層、楓林東区、西区、新興第1地点

嫩江流域	黑龍江省 大興屯, 林富, 西山頭 吉林省 ホウトオムガH-1
內蒙古高原	內蒙古自治區 チンスタイ洞3層, 4層, 5層
華 北	
燕山南麓	北京市 轉年 河北省 孟家泉, 爪村上層
河北北部	河北省 興隆新/旧石器過渡期, 四台第1組遺存
泥河灣盆地	河北省 二道梁, 油房, 西沙河3A層, 虎頭梁, 于家溝3a層·3b層上部·3b層下部·4層上部·4層下部·5層上部·6層·7層, 馬鞍山, 馬鞍山II區3層·4層, 籍箕灘第1地点, 籍箕灘第2地点, 籍箕灘第3地点5b層·6層, 下莊上文化層·下文化層, 白洗溝
太行山脈西麓	山西省 趙王村, 孟家莊
中條山脈,	山西省 下川1978·1996·2016, 下川富益河圪梁2層上部, 下川流水腰上文化層, 下川小白樺圪梁2層, 下川水井背2①·3③, 下川牛路上文化層, 舜王坪大腰3A層·3B層
沂河·沭河流域/山東丘陵	山東省 鳳凰嶺 江蘇省 將軍崖4層
汾河流域	山西省 丁村77:01
黃河中流部	山西省 薛閭, 柿子灘S1 1980·中區L1·中區L2·中區L3·中區L4·中區L5·中區L6·東區L3, 柿子灘S5第1文化層·第2文化層·第3文化層·第4文化層, 柿子灘S9, 柿子灘S14第2文化層·第3文化層·第4文化層, 柿子灘S12A, 柿子灘S12C, 柿子灘S12G, 柿子灘S29第1文化層·第2文化層·第3文化層·第4文化層·第5文化層·第6文化層·第7文化層, 馮家坡 陝西省 龍王辿第4層·第5層·第6層
黃淮平原	河南省 李家溝北區6層, 南區6層, 雲井5層, 大崗, 裴李崗
嵩山山麓	河南省 西施西區2c層
オルドス高原	寧夏回族自治區 水洞溝12 地点第1水平層·第2水平層·第3水平層·第4水平層·第5水平層
賀蘭山南麓	寧夏回族自治區 鴿子山四眼泉(QG3)D層·E層·E/F層·F層·G2層
六盤山東麓	寧夏回族自治區 彭陽PY03, 彭陽PY05
六盤山西麓	甘肅省 石峽口1号地点(SXK1)CL1·CL2, 大地灣4層·5層

表3 中国北部細石刃石器群測定年代一覧表(その2)

No.	地区	省・自治体	遺跡名	位置		標高		石器の種類(点数)	石器出土数	埋藏層	年代推定("COP")	年代推定(1σ)	年代推定(2σ)	参考文献																																																																																																																																																																										
				北緯	東経	地表	地下																																																																																																																																																																																	
151	冀北 河北省	保定	徐家	38° 27' N 111° 00' E	115	53	19	477	IV		13,170±130	15,340-16,236 (15,800)	05. 04. 209																																																																																																																																																																											
152														保定	徐家	38° 02' N 110° 33' E	110	2	0	1	102	IV	10,490±140	12,800±190	13,780-15,096 (14,400)	368																																																																																																																																																														
																											153	保定	徐家	38° 02' 30" N 110° 35' 15" E	110	5	0	757	III	早	18,715±41	20,054-20,372 (20,217)	236																																																																																																																																																	
																																								154	保定	徐家	38° 02' 11" N 110° 33' 40" E	110	6	0	1652	IV	早	8,240±130	9,024-9,534 (9,331)	253. 461																																																																																																																																				
																																																					155	保定	徐家	38° 02' 11" N 110° 33' 40" E	110	0	0	206	III	早	17,210±200	18,250-19,270 (18,740)	252. 254																																																																																																																							
																																																																		156	保定	徐家	38° 02' 28" N 110° 33' 04" E	110	0	8	134	III	早	18,375±60	19,371-19,424 (19,331)	407																																																																																																										
																																																																															157	保定	徐家	38° 02' 28" N 110° 33' 04" E	110	0	0	1120	IV	早	59.4±0.6	60.2±0.6	235																																																																																													
																																																																																												161	保定	徐家	38° 02' 54" N 110° 25' 22" E	110	0	129	0	10691	III	早	22,835±284 (22,456)	236. 457. 486. 497																																																																																
																																																																																																									162	保定	徐家	38° 15' 00" N 110° 28' 33" E	110	0	42228	I	早	11,890±80	12,882-13,894 (13,438)	806																																																																				
																																																																																																																					163	陕西	魏王山	38° 08' 45" N 110° 28' 15" E	110	84	12	0	10236	I	早	20,895±70	22,142-23,605 (23,327)	182																																																						
																																																																																																																																			169	冀北	李家营	34° 33' 55" N 113° 31' 25" E	113	2	8	0	725	II	早	9,170±90	9,890-10,677 (10,283)	9. 10. 324. 382. 411. 412																																								
																																																																																																																																																	170	冀北	李家营	34° 04' 11" N 113° 40' 23" E	113	7	3	0	2495	II	早	11,570±80	12,389-13,491 (13,444)	129. 192. 194. 406. 426. 505. 598. 587																										
																																																																																																																																																															171	冀北	李家营	33° 49' N 113° 45' E	113	0	19	327	II	早	22,095±80	23,674-24,684 (24,381)	368													
																																																																																																																																																																												172	冀北	李家营	34° 28' 14" N 113° 38' 52" E	113	0	-	-	-	早	22,095±80	23,674-24,684 (24,381)	368
	178	冀北	李家营	38° 18' 40" N 108° 26' 48" E	108	3	0	284	III	早	11,710±107	12,823-13,556 (13,178)	223. 381																																																																																																																																																																											
180														冀北	李家营	38° 03' N 105° 51' E	105	8	0	126	III	早	10,080±80	11,172-11,790 (11,532)	287. 420																																																																																																																																																															
																										184	冀北	李家营	35° 17' 50" N 106° 34' 42" E	106	1	0	0	23	早	18,360±70	19,137-19,432 (19,287)	147																																																																																																																																																		
																																							188	甘肃	石峡口1号	35° 03' 58" N 108° 10' 33" E	108	5	2	2	200	早	14,690±90	15,411-16,123 (15,765)	232																																																																																																																																					
																																																				189	甘肃	石峡口1号	35° 06' 54" N 105° 04' 14" E	105	0	0	0	847	早	14,690±90	15,411-16,123 (15,765)	232																																																																																																																								

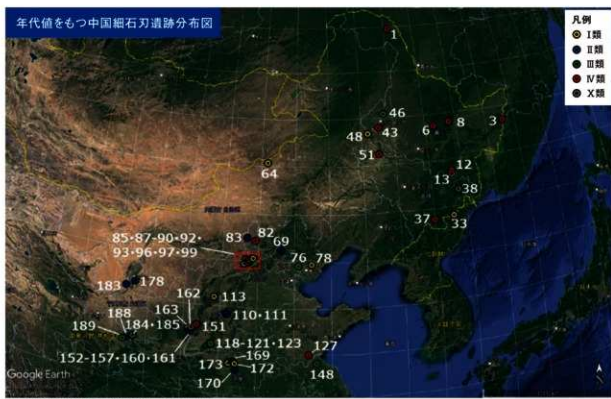


図7 年代値をもつ中国細石刃遺跡分布図(図中の番号は、表1-表3の遺跡No.と同じ)

2-2. 石器群の分類

細石刃石器群を以下のように分類して記述する。

- I類:初期細石刃石器群 (細石刃初期 (ca.28-25 calka)の細石刃石器群)
- II類:角錐状細石核石器群 (角錐状細石核を主な細石核とする細石刃石器群)
- III類:舟底形細石核石器群 (舟底形細石核を主な細石核とする細石刃石器群)
- IV類:北方系細石刃石器群 (楔形細石核による細石刃技術と周縁調整斜-横刃型彫器を特徴とする細石刃石器群)
- X類:その他・内容不明の石器群

3. 細石刃石器群の展開

3-1. 細石刃初期

最古の細石刃石器群 現在のところ、中国北部最古の細石刃石器群は、嫩江流域の黒龍江省西山頭(27.8 calka)である(図9の48)⁽¹⁴²⁾。出土石器10,231点中に細石核1点、細石刃6点が含まれる。細石核(図8の8)は、流紋岩の剥片を素材とし、平坦剥離面打面で小口面に作業面を設ける。打面や下縁の調整、打面の転位・再生などはみられない。流紋岩製細石刃(同図5・7・16)は、長さ2.3cm、幅0.6cm程度。微細剥離による細石刃素材の付けき尖頭器2点(同図6・7)や石錐1点(同図5)がある。このほか、長さ4.7cm、幅0.7cm程度の凝灰岩製細石刃2点(図8の3・4)があるが、これらには稜形成剥離が確認できるので、

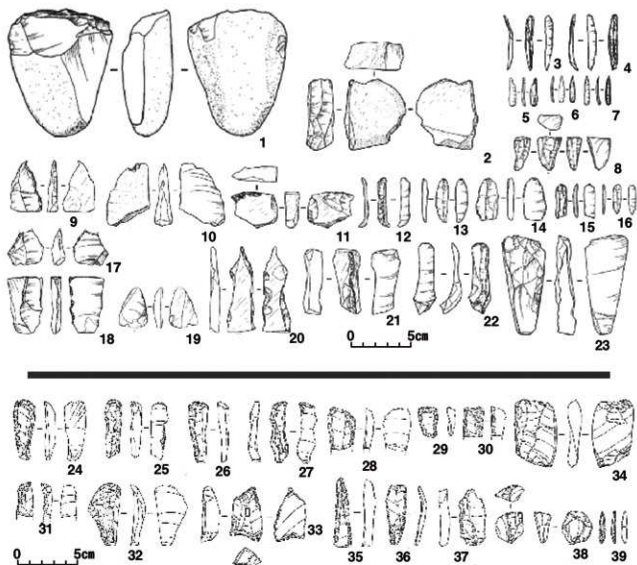


図8 西山頭(上)とイゲチェイスキー・ログI(下)の石器群(文献142・625より)

細石刃剥離に際して石核調整があった可能性がある。

石器群は、凝灰岩製小口面型石核(同図2)から幅2~3cmの石刃(同図14・21・22)を剥離する石刃技術を中核とする。石刃素材の削器2点(同図10・18)、彫器1点(同図9)、石錐1点(同図20)、剥片素材のノッチ(同図19)、石錐(同図17)各1点などのツール(細石刃素材のものは除く)のほか、石英岩の扁平礫片の一端に刃部をもつ小型のチョッパー1点(同図1)が存在する。

石刃技術を中核とする西山頭石器群の構造は、多面体石核から不定形剥片を剥離する剥片剥離技術の中核とする中国北部の主要な石器群である鋸歯緑石器群とは異なり、外来的である。また、扁平礫を素材とするチョッパーは、北方地域に常見される“スクレイブロ”の一部に類似する。この時期(MUP)の石刃石器としては、シベリアのバイカル湖西方のアンガラ川流域のマリタ、ブレチ、イゲチェイスキー・ログ1第4層(石

器群Ⅱ、図8の24-39)の石器群が知られているが、石刃技術(同図34)を中核とし、石錐(同図33)が発達している点(628)などは、西山頭石器群と共通する。さらに、これらの石器群を含むシベリアのMUP石器群には、小口面型を含む小石刃石核(Microbladelet core、図8の38)と小石刃を素材とする背付尖頭器(同図39)や石錐がともなう⁽⁶¹¹⁾が、それらは西山頭の細石刃のあり方と共通する。このため、西山頭石器群は、北方地域のMUP石器群に起源をもち、その小石刃技術を細石刃技術に置換したものと推定できる。現在、シベリアを含む周辺地域では、西山頭と同時期もしくは、それ以前の細石刃技術を確認できない。このため、細石刃技術は、中国東北部で小石刃技術と押圧剥離技術が結合して発明されたと考えられる。

中国東北部 初期のものとしては、西山頭のほかに、内蒙古高原東部の内蒙古自治区チンスタイ5層(27.4 calka、図9の64)⁽³⁰¹⁾、後述する長白山西麓の吉林省和龍大洞5層(27.1 calka、図9の33)⁽³⁴⁹⁾の石器群がある。このうち、前者では、鋸歯縁石器群にまじって、角錐状細石核1点、細石刃数点が確認されたという。この2遺跡は中国東北部の東西端に所在することから、細石刃初期の間に、細石刃石器群は中国東北部に広く拡散したようである。

華北 目下のところ、泥河湾盆地の河北省西沙河(27.2 calka、図9の88)が華北最古の細石刃石器群である⁽⁴⁵⁸⁾。図示された細石核には西山頭のものと同類似する分厚い剥片素材の木口面型のもの(図10の1・3・4)が多いが、角錐状のものもみられる(同図2・4)。打面や下縁の調整や稜形成(同図19)なども施工されるようだ。さらに、幅1.5cm前後の石刃(同図21-25)やそれと同規模の石刃を剥離した石刃石核(同図28)が存在する。ツールは、石刃に加えて、幅広の縦長剥片を素材とする。器種は、削器(同図13)11点、搔器(同図8-12)12点を中心に、尖頭器(同図14・16)・石錐(同図15)各2点、彫器(同図17)1点がみられる。

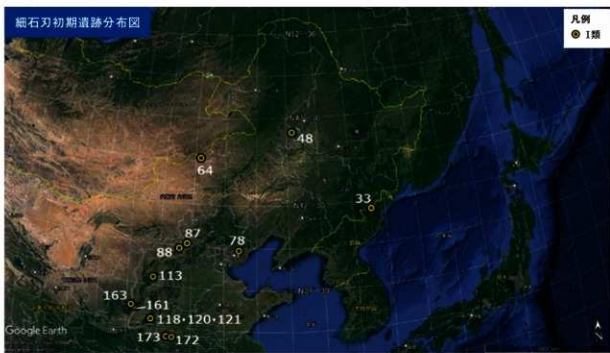


図9 細石刃初期遺跡分布(図中の番号は、表1-表3の遺跡No.と同じ)

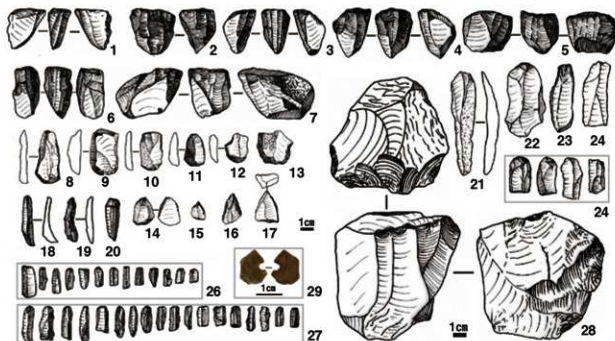


図10 西沙河の細石刃石器群(文献458より) 29はダチョウの卵殻製ビーズ

西沙河の後、河北省油房(ca.27oslka、図9の87)、爪村上層(27.6-26.6 calka、同図78)、陝西省龍王迪(6層、5層:26.3 calka、4層:25.2 calka、同図163)、山西省柿子灘S29地点(第7文化層:25.9 calka、同図161)、下川遺跡群(富益河圪梁2層上部:ca.27-25 calka、小白圪梁2層:ca.27-25 calka、水井背2①-3③層:ca.26-25 calka、同図118・120・121)、河南省西施(西区2c層:26.2 calka、同図173)、東施、裴李崗下層(26.3 calka、同図172)の石器群が展開する。これらは、細石刃石器群が華北大平原や山東丘陵などの華北東部を除く、華北の広い範囲に拡散したことを示している。

華北の細石刃初期の細石刃技術は、木口面型や扁平のものを含めた角錐状細石核を用いるもので、打面の調整や再生、細石刃剥離時の稜形成などの石核調整を確認できる。また、石刃石器群である油房をのぞけば、いずれも石核調整をしない単設～複設打面石核を用いる剥片剥離技術を中核とし、剥離される長幅比が1:1程度の剥片がツールの主な素材となっている。ツールは、削器、搔器、ノッチ、彫器、背付き石器のほか、磨盤、刃部磨製のものを含む斧形石器などがある。このうち、短型搔器(thumbnail scraper)が比較的多数存在する。西施、東施などでは石刃技術がみられるが、技術基盤に占める割合は低い。

3-2. 細石刃前期

中国東北部 —北方系細石刃石器群の成立過程— 徐廷(2022)⁽³⁴⁹⁾によれば、和龍大洞(図12の37)の細石刃石器群は、基本的に長白山産黒曜石を石器素材とする。そして、5層(27.1 calka)で、彫器(彫器石核を含む)5点、疑似細石核1点、4層(25.7-24.3 calka)で彫器37点、細石刃44点が出土したという。徐は、5層・4層を一つの文化層(CL2:27.1-24.3 calka)と把握し、そこにみられる大型石刃を素材とし、上端に細かな調整剥離で打面を形成、素材石刃の側縁から狭長な細石刃を剥離する技術を大洞技法、

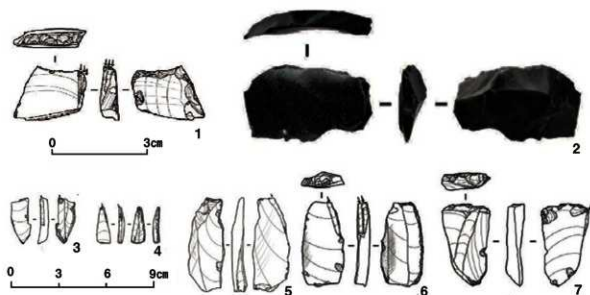


図11 和龍大洞の大洞型細石核と「峠下型細石核」(文献349・351より)

広霧型細石核やアルタイIUPの彫器石核(burin-core)と類似する石核を大洞型細石核(図11の3-7)とよび、長白山西麓における最初期の細石刃技術とした。また、徐は、5層出土の石刃を横位に用い、側縁部に素材腹面からの二次加工状の剥離で打面形成したのち、素材石刃の打面側木口面(打面?)から細石刃を剥離する「疑似細石核」(図11の2)を彫器石核の一種とした。

一方、岳建平も、徐同様、5層・4層をCL2としつつ、徐が「修直辺刃彫器」とした、剥片を横位に用い、剥片側縁に急角度のインバースリタッチで打面を形成し、素材剥片遠端側の小口面から石核側面に湾曲した

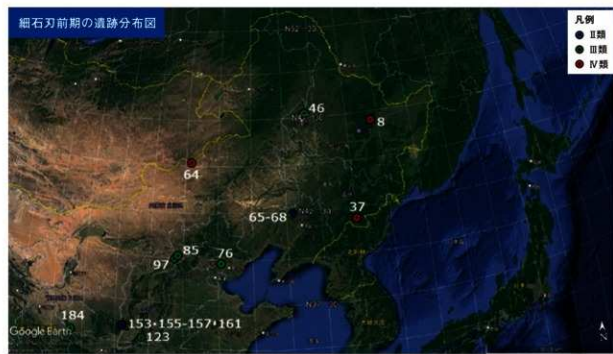


図12 細石刃前期遺跡分布図(図中の番号は、表1-表3の遺跡No.と同じ)

削片(細石刃)を剥離する資料(図11の1)を峠下型細石核とみなし、長白山西麓を北方系細石刃石器群の起源地の1つとした⁽⁵¹⁷⁾。徐の「疑似細石核」は、この「峠下型細石核」と共通点をもつことから、同型かもしれない。

徐と岳の間では、初期から前期初頭の細石刃技術に関する見解の相違はあるものの、和龍大洞CL2、なかんずく4層には、細石刃、周縁調整斜刃型彫器とともに、非削片系楔形石核を用いる細石刃技術が存在するという点では一致する。これらの「楔形細石核」は、後代の楔形細石核とは形状が異なる非典型的なものである。このため、これらの石器群を祖型の北方系細石刃石器群と評価したい。

和龍大洞CL2に後続するものとしては、吉林省楓林西区(ca.24-18 osika)、黒龍江省林富(20.6calka)、樺陽3層(18.3 calka)、それにチンスタイ4層(ca.27-18 calka)がある。

田川ほか(2019)⁽²⁶⁸⁾によれば、楓林西区(図12の37)には、削片系楔形細石核21点(表採品11点、出土品10点)と非削片系楔形石核4点(表採品・出土品各2点)がある。削片系、非削片系いずれも、両面(片面)調整ブランクによるものに加え、浅短な剥離で調整し、その両面に素材剥片・石刃の未加工の背面・腹面を大きく残す楔形細石核が目立つ(図13の1-11)。削片系楔形細石核は、湧別技法(河套技法)による札滑型細石核、また、非削片系の場合は、側方連続剥離によって打面を形成する虎頭梁技法⁽¹⁰⁴⁾、もしくは西海技法による福井型細石核に分類されよう(同図9)。このほか、周縁調整斜刃型彫器が表採されている⁽¹⁷²⁾。



図13. 細石刃前期の楔形細石核

楓林西区(1-11)⁽²⁶⁸⁾、チンスタイ4層(12:魏堅提供)、林富(13:李有蹇提供)、樺陽3層(14)⁽⁵¹³⁾

なお、楓林(北緯41度57分58秒、東経127度31分57秒)は、中国東北部の北方系細石刃石器群では、最も南に位置するものである。

黒龍江省林富(20.7calka、図12の46)では、多数の小型舟底形細石核、周縁調整斜刃型彫器に混じって、両面調整のブランクから短い縦長スポールを削出して打面形成をした小型の楔形細石核(図13の13)が1点出土している(179)。

前期末の樺陽3層(18.3 calka、図12の8)では、浅短剥離で調整された剥片素材の削片系楔形細石核1点(図13の14)が周縁調整斜刃型彫器をともなって出土した。

チンスタイ4層(ca.27-18 calka、図12の64)の石器群に関する詳細は未報告である。加藤の観察(2014年2月)によれば、4層出土品には、多数の楔形細石核がみられた。打面形成は、側方剥離によるものほか、忍路子型に類似する短い縦長スポールの削出によるもの(桑乾技法)(499)がある(図13の12)。また、周縁調整横刃型彫器も出土している。

このほか、素材剥片・石刃を浅短な剥離で調整し、その側面に素材の未加工の背面・腹面を大きく残す楔形細石核を特徴とする長白山西麓の吉林省柳洞(22-26)、石人溝(33)などの石器群も楓林や樺陽3層との比較から、細石刃前期に位置付けられる可能性がある。

以上、中国東北部では、ca.24calka以降、楔形細石核による細石刃技術と周縁調整横・斜刃型彫器の共伴が確認できることから、細石刃前期に北方系細石刃石器群が、その祖型をもとに成立し、おおむね北緯42度以北の地域に普及したと考えられる。

華北 一角錐状細石核石器群と舟底形細石核石器群— 初期以降、華北においては、次のような特徴をもつ角錐状細石核石器群が分布する。①角錐状細石核による細石刃技術、②その割合には多希が

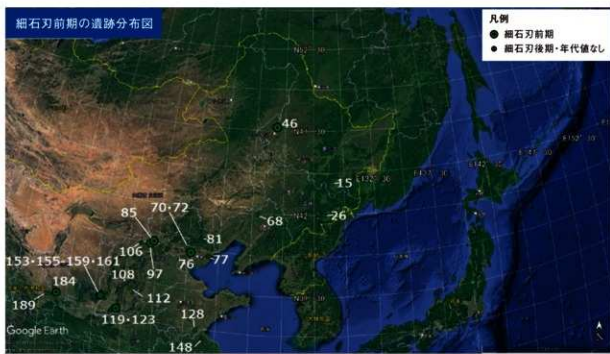


図14 Ⅲ類遺跡分布図(図中の番号は、表1-表3の遺跡No.と同じ)



図15 Ⅲ類石器群(舟底形細石核石器群) 河北省二道梁石器群

あるものの舟底形細石核を保持する、③技術基盤中で石刃技術の占める割合が低い、④多数の短型搔器の保持、⑤石器の大きさが比較的小さく、石器群の規模も比較的小さい、⑥石器群の分布が、中国東北部南部の遼河流域南部(遼寧省五里山、后大屯二嶺山、葦子溝白虎山、図12の65-67)を除けば、基本的に華北に限定される。なお、これら遼河流域南部の角錐状細石核石器群については年代測定値がないので確定的なこととは言えないが、後述する簡略化された楔形細石核や小型両面調整尖頭器などの後期の細石刃石器群の必要要素をもたないことから、前期のものとして推測される。

こうした角錐状細石核石器群の特徴の多くは、華北の初期の細石刃石器群にすでに見出すことができる。このため、角錐状細石核石器群の形成は、華北に細石刃技術が伝播した当初から開始されていたと考

えられる。

ついで、ca.23calka前後の時期に、山西省南部において柿子灘S29 第5文化層(23.8 calka)、S12C(23.3 calka)、S14第4文化層(23.0 calka)(図14の153・155-161)や下川遺跡群の舜王坪大腰3層(23.0 calka、同図123)など、角錐状・楔形細石核の数量が極めて少なく、舟底形細石核を専ら利用する細石刃技術を特徴とする舟底形細石核石器群が出現する。

舟底形細石核石器群は、ca.22calka前後までに、華北北部の泥河湾盆地の河北省二道梁(22.0 calka、同図85、同15)や西部の六盤山東麓の寧夏回族自治区(以下、寧夏)彭陽PY03地点(22.3 calka、同図14の184)など、華北の広い範囲に分布を広げた。そして、ca.20 calka前後には、燕山南麓の河北省孟家泉(20.6 calka、同図76)のほか、中国東北部(嫩江流域)の黒龍江省林富(20.8 calka、同図46)にまで分布を拡大する。これらの石器群は、①周縁調整斜・横刃型彫器(図15の4-8)、背付矢頭器(同図2)などの器種、②作業面が木口面から両側面にまでみられる小型舟底形細石核(同図10)といった特徴を共有する。燕山南麓の河北省涿涓涓、長白山西麓の吉林省沙金溝もこうした特徴をもつことから、上記石器群と並行するca.22~20 calkaの年代をもつと推定できる。この前期後半のca.22~20 calkaの時期に、特徴を共有する舟底形細石核石器群が、華北から北方に拡散する現象を加藤は代表的な遺跡名をとり、「二道梁—林富事件」と呼ぶ⁵⁶⁵⁾。

3-3. 細石刃後期

中国東北部 一北方系細石刃石器群の盛行一 後期の石器群には、黒龍江省十八站(10.3±0.6 oska、同図16の1)、小南山F1期(13.9 calka、同図3)、桃山(3層:14.4 calka、4層:16.8 calka、同図6)、樺陽2層(14.2 calka、同図8)、小龍頭山(15.8 calka、同図12)、大龍頭山(17.4 calka、同図13)、吉林省和龍大洞3層(CL1:15.7 calka、同図33)、楓林東区(ca.17 calka、同図37)、新興第1地点(16.0 calka、同図38)、大興屯(13.3 calka、同図43)、ホウタオムガ H-1(ca.13-11 calka、同図51)、内蒙古自治区チンスタイ3層(<18.1 calka、同図64)がある。これらは、多数の円錐形細石核が出土したチンスタイ3層を除けば、湧別技法(河套技法)を主要な細石刃技術とする北方系細石刃石器群である。前期に比べ、遺跡数が増加し(図17)、前期には遺跡群が形成されていた可能性がある長白山西麓に加えて、嫩江流域、長白山北麓、小興安嶺など、遺跡の密な分布を示す地区が複数顕在化する。

小南山F1期、桃山3層、樺陽2層、ホウタオムガH-1で土器が共伴する。中国東北部では、ca.14 calka以降の土器の出現・普及、ca.13 calka以降の楔形細石核から円錐状細石核への転換による北方系細石刃石器群の終結を経て、新石器時代へ移行していくと考えられる。

華北 一北方系細石刃石器群の南下と細石刃石器群の盛行・衰退一 中国東北部で盛行する北方系細石刃石器群が華北に南下する。華北の北方系細石刃石器群としては、河北省興隆(ca.16.0-8.9 oska、同図16の82)、虎頭梁(12.6 calka)、馬鞍山(I区:15.7 calka、II区4層:16.3 calka)、籍箕灘第3地点(5b層:14.2 calka、6層:15.7 calka)、于家溝(3a層:10.2-7層:16.2 calka)、下荘上層(ca.16.0 calka)、白洗溝(17.3 calka)(同図89-99)、山西省薛園(15.8 calka、同図151)、柿子灘S9(9.3 calka、同図154)、山

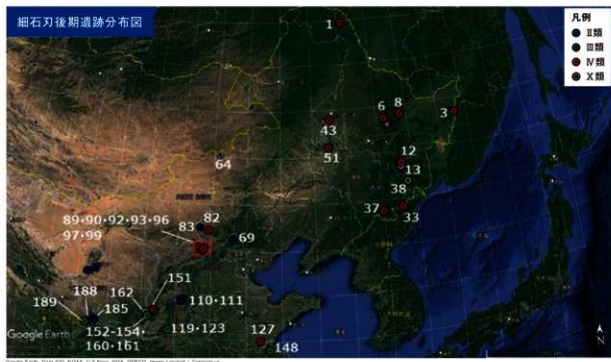


図16 細石刃後期遺跡分布図(図中の番号は、表1-表3の遺跡No.と同じ)

東省鳳凰嶺 (ca.19-13 oska, 同図127) などがある。これらによれば、北方系細石刃石器群は、ca.17 calka 前後以降に確認でき、山東丘陵 (鳳凰嶺)、関中盆地 (陝西省沙苑)、オルドス高原 (寧夏小口子) に至る華北の広範囲な地域に分布する。このうち、泥河湾盆地などの華北北部では、他地域で優勢な角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群がほとんどない一方、多くの北方系細石刃石器群が検出されている。

これらの北方系細石刃石器群は、削片系を中心とする各種楔形細石核を用いる「虎頭梁細石刃技術複合」、周縁調整横-斜刃型彫器、両面調整尖頭器、三角形筈状石器などを特徴とする。また、泥河湾盆地の于家溝では、4層 (ca.15 calka) 以降、各層で土器がみられる。泥河湾盆地を含む華北北部では、于家溝3a層 (10.2 calka)、興隆新/田石器過渡期 (13.4±1.8-10.7±0.9 oska) まで北方系細石刃石器群が継続するが、華北北部の四台第1組遺存 (ca.10.4-10.0 calka, 図16の83) では多数の円錐形細石核のみがみられる。

北方系細石刃石器群以外の細石刃後期の石器群としては、北京市轉年 (10.1 calka, 図16の69)、河北省下土莊下層 (ca.18 calka, 同図97)、山西省下川流水腰 (2層: 17.2 calka, 3層: 16.7 calka, 同図119)、柿子灘S29第1文化層 (13.2 calka, 同図152)、江蘇省將軍崖 (ca.12¹⁴ Cka, 同図148)、河南省雲井 (13.4 calka, 図7の170)、李家溝 (北区6層: 10.1 calka, 南区6層: 10.3 calka, 同図169)、寧夏水洞溝12地点 (13.2 calka, 同図178)、鴿子山 (D層: 11.6 calka~E/F層: 13.5 calka, 同183)、彭陽PY05地点 (17.2 calka, 図16の185)、甘肅省石峽口1号地点 (CL1: 17.6 calka, 同図188)、大地湾 (ca.20-7 calka, 同図189) がある。これらの石器群は、角錐状、舟底形の細石核をもち、その多希によって、角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群に分類される。細石刃後期の華北では、これら華北の地域的な細石刃石器群と北方系細石刃石器群が共存したことになる。角錐状、舟底形細石核石器群には簡略化された楔形細石核がしばしばみられるが、それらは、北方系細石刃石器群から受容した楔形細石核をもとに生み出されたものと考

えられる。山東丘陵などに多数存在する年代未測定のもの種の細石刃石器群は、細石刃後期、華北での北方系細石刃石器群の出現以降のものとして推定される。

太行山脈以東の地域では、完新世(11.7 calka~)開始前後の時期から、角錐状細石核石器群の轉年、李家溝、靈井(土器はca.9.8 calka)で土器の共伴が確認されている。同時期、河北省南莊頭(11.5-11.0 calka)、山東省趙家徐姚(ca.13.2 calka)、扁扁洞(9.7 calka)など、細石刃技術をもたない遺跡もみられる。そして、ca.10 calka後ほどなくして、北部を除き、この地域の細石刃石器群は姿を消す。その一方、太行山脈以西の地域では、更新世終結後もいまだしくは無土器の細石刃石器群が継続することになる(558-619)。

3-4. 小結 一中国北部における細石刃石器群の展開一

細石刃初期 シベリア方面から中国北部に南下してきたMUP石器群において、技術基盤を構成していた小石刃技術が新発明の細石刃技術に置換され、ca.28 calkaには、中国東北部で細石刃石器群が成立する。その後の細石刃技術の普及と影響などを考えると、細石刃技術の発明とは、旧石器におけるイノベーションであったと評価できる。

細石刃石器群は、成立後、速やかに中国東北部内に拡散したようで、細石刃初期(ca.28-25calka)の間に、東北部西端の内蒙古高原(チンスタイ5層)、中部の嫩江流域(西山頭)、東端の長白山西麓(和龍大洞5層)で検出されている。このうち、和龍大洞では、非典型的な楔形細石核(図6)を使った細石刃技術をもつ祖型の北方系細石刃石器群を確認できる。この細石刃技術は、細石刃技術と黒曜石が結びついた結果、成立したものと考えられる。

また、華北北部、泥河湾盆地に所在する華北最古の細石刃石器群である西沙河(図10)には、西山頭と同様、石刃技術がみられるとともに、西山頭のものと同様に類似する木口面型細石核や彫器がみられる一方、細石刃技術に石核調整が存在し、多数の掻器を保持するなど、後代、華北で盛行する角錐状細石核石器群の特徴と通じる点を見ることが出来る。このことから、華北の細石刃石器群は、ca.27 calka前後に、華北の細石刃技術をもたないEUP石器群の荷担集団が、細石刃初期の間に中国東北部に拡散した細石刃石器群の荷担集団と中国東北部/華北の境界付近で接触し、細石刃技術などを受容した結果、成立したものと考えられる。その後、華北では、ca.25 calkaまでに、細石刃石器群が地域的な技術伝統である角錐状細石核石器群的な色彩を強めながら、華北各地に拡散する。

以上のように、細石刃初期、中国北部で細石刃石器群が成立すると、石器群の拡散とともに連鎖的に各地で地域的な細石刃石器群が出来上がる。中国東北部での細石刃石器群の拡散の結果、27.3 calkaには華北にも細石刃技術が伝播すると、後代の角錐状細石核石器群につながる地域的な石器群が各地に出現する。

細石刃前期 中国東北部では、典型的な楔形細石核と周縁調整斜・横刃型彫器を特徴とする北方系細石刃石器群が祖型をもとに確立する。前期の北方系細石刃石器群の楔形細石核には、両面(片面)調整のブランクのものとともに、浅短な剥離によって調整され、側面に素材剥片(石刃)の未加工の背面・腹面が大きく残るものが存在する。また、打面の形成は、縦長スボールを剥離によるものと、側方連続剥離によるものがある。

一方、華北では、角錐状細石核石器群が盛行するとともに、ca.23 calkaに舟底形細石核石器群が山西省南部で出現する。以後、華北では、基本的に角錐状細石核石器群と舟底形細石核石器群が並立することになる。また、舟底形細石核石器群は分布域を広げ、ca.22-20 calkaには、中国東北部の嫩江流域（林富）や長白山西麓（沙金溝）にまでみることができ。

以上のように、細石刃前期において、北緯42度よりも北の中国東北部：北方系細石刃石器群、華北ならびに中国東北部南部の遼河流域：角錐状細石核石器群・舟底形細石核石器群という中国北部における細石刃石器群の基本的な分布が確立する。そして、前期末のca.22-20 calkaには、華北の舟底形細石核石器群が北方へ拡散し、中国東北部においても確認することができる。

細石刃後期 北緯42度以北の中国東北部では、湧別技法（河套技法）を主要な細石刃技術とする北方系細石刃石器群が増加する。一方、華北においても角錐状細石核石器群を中心に細石刃石器群が増加する（図17）。

ca.17 calkaを前後する時期には、中国東北部の北方系細石刃石器群と華北の角錐状細石核石器群の分布域の境界線が、北緯40度付近まで下りてくるとともに、北方系細石刃石器群が華北の広い範囲に拡散する。この結果、後期の華北では、角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群、北方系細石刃石器群が並立することになる。

ca.15 calka以降、北緯40度よりも北の地域では、北方系細石刃石器群に土器が共伴するとともに、ca.13 calka以降には、円錐形細石核が主流になるなどの現象を経ながら、新石器化が進行していく。

北緯40度よりも南かつ太行山脈以東の燕山南麓から華北大平原、黄淮平原、山東丘陵などの華北東部では、それよりもやや遅れるca.13 calka以降、土器が出現し、角錐状細石核石器群にも共伴するようになる。そして、ca.10 calka以降、華北東部では、燕山南麓などを除いて、細石刃石器群は姿を消す。一方、華北の太行山脈以西の地域では、無土器の細石刃石器群が継続する。

石器群数

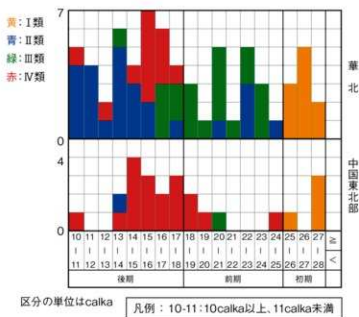


図17 中国北部の細石刃石器群数の増減

4. 細石刃石器群の展開の背景 —自然環境・石器群荷担集団—

4-1. LGM下での中国北部の環境 —LGMの進行による環境変化—

図18は、江蘇省の葫蘆洞(Hulu Cave)の石筍とグリーンランドの水床コア(GISP2)の酸素同位体比($\delta^{18}O$)時系列データならびに北緯25度における夏の日射量変動曲線をしめたものである(上: 葫蘆洞, 下: GISP2) (503)。これによれば、ca.32 calkaのハインリッヒイベント3(Heinrich event3:H3)に対応する寒冷乾燥化イベントの後にみられるグリーンランド亜間水期4(Greenland Interstadial 4:GI-4:ca.29 calka)に対応する温暖湿潤期以降、最終水期極寒期(Last Glacial Maximum:LGM)に入り、日射量の減少とともに寒冷乾燥化が進行し、ca.20 calkaを前後する時期に底をつく。そして、約19 calkaに日射量の増加とともに温暖湿潤化に転じ、LGMが終結する。LGM終結後の晩水期(Late Glacial:LG)には、温暖湿潤化が進むが、H1(ca.16 calka)を極点とするca.17.5-15 calkaの寒冷乾燥期 / その後の温暖期であるベーリング/アレロード(Bolling-Allerod:BA)期 / 12.9-11.7 calkaの寒の戻りであるヤングドリアス(Younger Dryas:YD)期と環境変遷が進む。そして、11.7kaに開始される急速な温暖化を契機に、完新世:後水期(Post Glacial:PG)に移行する。LGM期には、中国北部では年平均気温(-5.5~15℃)が現在より-6.3±1.0℃、最寒月平均気温が現在より-12.0±1.7℃、年降水量は、現在(400-800mm)よりも-51.2±21.4mmであり、夏季の降水量の減少率が-21%に及ぶと推定されている(612)。

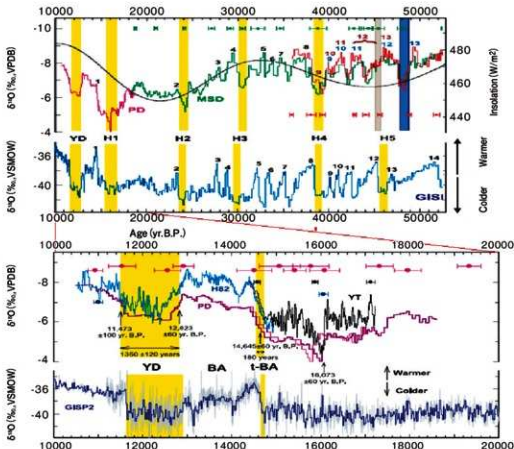


図18 酸素同位体比による上部更新世の環境変化(文献503 Fig.1,2)

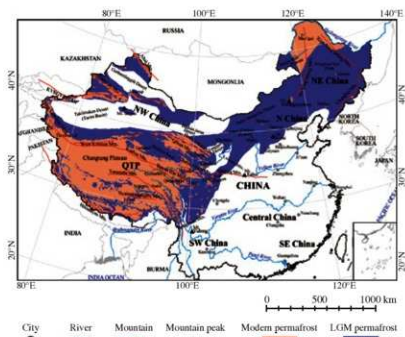


図19 現在(暖色部)とLGM(寒色部)の永久凍土帯 (文献530 Fig.1)

松嫩平原などでは砂漠もみられた。一方、華北の非永久凍土帯には、その南部に温帯森林草原が東西に延びるほかは、温帯草原が広がった。このほか、海水面が最大120m低下したため、渤海、黄海、東シナ海が陸化し、出現した平原(三海平原)は乾燥した草原ないし荒漠草原となっていた(図20)(613-614)。この結果、中国北部の動物相もLGM以前にみられたシカ類などの森林棲動物や水牛などの温暖な気候を好む動物は減少・絶滅し、ウマ類、ガゼル、各種齧歯類などの草原棲動物やオーロックスや毛サイなどの広範囲な環境に適応した動物が繁殖した。また、中国東北部には、北方からマンモス、バイソン、トナカイなどのステップ環境に適応した動物群が南下してきた。



図20 LGMにおける中国北部の植生(文献613 図5.12)

LGMにおける寒冷化により、寒冷環境下にあることを示す永久凍土帯は南下し、その南限は、中国東北部の南部(北緯40~41度30分)、華北北部(北緯37~40度)を経て、華北西部のオルドス高原南縁(北緯36~36度30分)に達していた(図19)(530)。

植生・動物相の変化 中国北部全域の草原化が進み、中国東北部から華北北部の永久凍土帯は、東から亜寒帯森林草原、亜寒帯草原、亜寒帯荒漠草原となり、オルドス高原や

石材環境の変化 LGMの寒冷化、降水量の減少は、石材環境にも影響をもたらす。寒冷化の進行は、凍結破砕作用による露頭等での多量の岩屑生産と山裾や山間の谷部への供給を促すものの、降水量の減少は、浸食作用・河川運搬力を低下させるので、河川流域への石材の供給は減少し、石材サイズも小さくなったとみることができる。このため、遺跡周辺の河床等で採取できる石材の量や大きさも限定されることになった。中国東北部の小興安嶺や長白山区、華北の泥河湾盆地、中条山脈など石材原産地を抱える地区をのぞく、中国東北部の嫩江流域、華北の大半の地域など、河川河床で採集できる石材に依存している地区は大きな影響を受けたと考えられる。

この寒冷化・降水量の減少による石材環境の変化に関して、北方系細石刃石器群では、長白山産黒曜石や小興安嶺の流紋岩などの良質である程度の大きさを確保できる石材と結びつく傾向があることから、地域によっては、影響は限定的であった可能性もある。しかし、華北の角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群は、チャートや石英などの河床で採取される小礫を主な石材としており⁽⁴⁶³⁾、強く影響を受けたことが推定される。

4-2. 細石刃石器群と環境変化

LGMの乾燥寒冷化 細石刃初期・前期はLGMに対応することから、中国北部の細石刃石器群は、LGMでの環境変化への技術適応として導入されたと推定される。そして、その展開は、LGMの進行にともなう環境変遷と同期していることが判明する。

細石刃初期における細石刃石器群の出現と各地への拡散、細石刃前期における中国北部の2つの基本的な地域的石器群(中国東北部の北方系細石刃石器群、華北の角錐状細石核石器群)の成立は、LGMが開始され、寒冷・乾燥化が進行する時期に当たっている。また、細石刃前期末における舟底形細石核石器群の確立とその北方拡散である二道梁—林富事件は、LGM末の寒冷乾燥化が最も進んだ時期に発生している。

晩氷期での環境回復 LGM終結後、晩氷期における環境回復とともに、中国北部の細石刃石器群は、細石刃後期に入り、北緯42度以北の中国東北部では、湧別技法(河套技法)を主要な細石刃技術とする北方系細石刃石器群が増加する一方、華北では、角錐状細石核石器群が増加する(図17)。

H1 (ca.16 calka)前後の寒冷期間(ca.17.5-15 calka)中のca.17 calka以降、中国東北部の北方系細石刃石器群と華北の角錐状細石核石器群の分布域の境界線が、細石刃前期における北緯42度から北緯40度付近まで南下するとともに、北方系細石刃石器群が華北の広い範囲に拡散する。この結果、細石刃後期の華北では、角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群、北方系細石刃石器群が並立して存在することになった。そして、互いの接触の中で、楔形細石核などの技術的要素が、北方系細石刃石器群から角錐状、舟底形細石核石器群に受容され、簡略化された楔形細石核が後者にみられるようになる。

中国北部での土器の出現は、H1後、急激に環境が回復するペーリング/アレレード(Bolling-Allerod: BA)期を背景とするとともに、中国東北部では、ヤングドリアス(Younger Dryas: YD:12.9-11.7 calka)期にあっても土器は使い続けられる一方、華北では、YD期には土器は見られなくなり、土器の普及、華北

東部での細石刃石器群の衰退・消失は、最終氷期終結後の環境の温暖湿潤化にともなうものになっている(図18)。

中国北部の細石刃石器群が分布した範囲は、おもに荒漠草原や森林草原をふくむ草原地帯であり、細石刃石器群は、そうした開けた景観に適応したものであったことが理解される。このため、細石刃石器群の分布の南限が淮河であるのも、淮河以南には温帯広葉混合樹林がLGMであっても広がっていたことが要因と考えられる(図20)。

また、LGMやH1などでの北方系細石刃石器群の主な分布範囲は、中国東北部、華北北部・西部に広がる永久凍土帯、角錐状細石核石器群の分布範囲は、その南の非永久凍土帯に、それぞれほぼ重なっている(図19)。このため、主に、北方系細石刃石器群は亜寒帯の草原・荒漠草原に、角錐状細石核石器群は温帯草原・森林草原に、それぞれ適応して展開していたことを読み取ることができる。ただし、後期の北方系細石刃石器群は、温帯森林草原帯にあった山東丘陵や中条山脈などにもみることができるので、温帯下の環境にも対応できる高い適応力を備えていたと考えられる。

4-3. 石器群の荷担集団

図21は、中国北部における主な細石刃初期、後期旧石器時代前葉(Early Upper Paleolithic: EUP)、後期旧石器時代初頭(Initial Upper Paleolithic: IUP)の遺跡の分布図である。これによれば、中国東北部では、EUPの遺跡は比較的少数であり、活動する石器群荷担集団が希薄であったことをうかがわせる。一方、華北においてはEUP石器群が多数存在することから、細石刃石器群の出現に先立ち、EUP石器群の荷担集団が活発に活動していたことがわかる。

このため、細石刃初期において、細石刃石器群が中国東北部で出現・拡散するのは、既存の在地集団が希薄であったため、石器群の荷担集団が抵抗なく、中国東北部へ進出でき、新たな在地集団の形成に寄与した結果と考えられる。一方、華北においては、角錐状細石核石器群化が進む。これは、華北に多数分布していた既存の在地集団が、南下してきた初期の細石刃石器群荷担集団と両者の領域の境界付近で接触することで、細石刃技術を受容した結果と推測できる。

細石刃前期末の二道梁-林富事件では、派生的な石器群をともないながら、非常に類似した舟底形細石核石器群が華北から中国東北部に拡散する。石器群全体が類似するという特徴から、この二道梁-林富事件は、荷担集団の拡散による直接移動伝播の結果とみることができる。中国東北部では、細石刃初期以降、前期/後期の過渡期(ca.18 calka前後)まで遺跡数も少なく、北方系細石刃石器群とその荷担集団は、前期においては形成過程にあったと推定される。この荷担集団・遺跡数の希薄さが要因の1つとなって、ca.20 calkaに華北の舟底形細石核石器群の荷担集団は中国東北部に拡散することができ、その過程にあった北方系細石刃石器群の荷担集団の形成に寄与したと推定できる。

細石刃前期/後期の過渡期(ca.18 calka前後)以降、中国東北部の北緯42°以北の地域において、北方系細石刃石器群の数は増えることから、その荷担集団が、この地域において成立し、増加したと考えられる。H1前後の乾燥寒冷化が起こると、華北では、それ以前のLGMで形成された永久凍土帯に沿った範囲

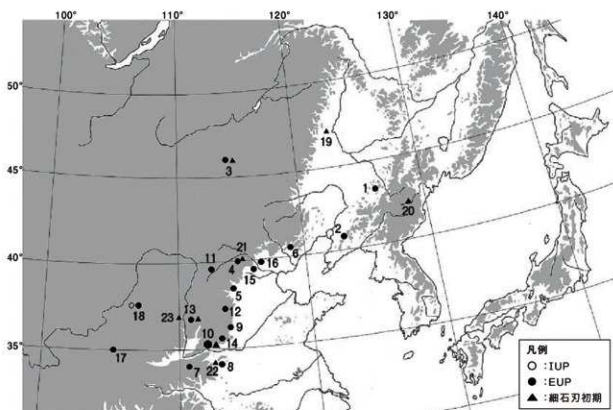


図21 中国北部の主なIUP・EUP・細石刃初期の遺跡

- 1.寿山仙人洞, 2.小孤山仙人洞, 3.チンスタイ, 4.下馬碑, 5.水簾洞, 6.四方洞, 7.龍泉洞, 8.趙荘・黃帝口, 9.小南海, 10.下川遺跡群, 11.峙峪, 12.青窩湾洞, 13.柿子灘遺跡群, 14.塔水河, 15.山頂洞, 16.王府井東方廣場, 17.徐家城, 18.水洞溝遺跡群, 19.西山頭, 20.和龍大洞, 21.西沙河, 22.西施, 23.龍王辿

で北方系細石刃石器群が見られるようになる。おそらく、H1でも、LGMと同様な範囲に寒冷乾燥化した地域が広がり、永久凍土帯が形成され、そこに北方系細石刃石器群が南下したと推測される。石器群が互いに類似することから、北方系細石刃石器群の荷担集団が華北に移動したことにより、石器群が華北へ移動伝播したものと考えられる。同時に、華北では限定的ながら、山東丘陵などの永久凍土帯がみられない地域にまで北方系細石刃石器群がみられることから、北方系細石刃石器群の荷担集団は温帯の草原・森林草原環境にまで進出した。また、山東丘陵などの在地の角錐状細石核石器群・舟底形細石核石器群には、簡略化された楔形細石核などがみられる。これらの技術的要素は新来の集団と在地の石器群の荷担集団間の接触の中で後者が前者から受領したものと考えられる。

5. ユーラシア東部の細石刃石器群

ca.28 calkaに中国東北部において細石刃石器群が出現した後、北緯42~40度の南北で、華北の角錐状細石核石器群と中国東北部の北方系細石刃石器群が分かれて分布し、それぞれで細石刃石器群の発展、衰退の過程を追うことができる中国北部は、ユーラシア東部における細石刃石器群のセンターの1つということができる。

このうち、北方系細石刃石器群は、中国東北部東部の長白山西麓において長白山産黒曜石と結びついた形でca.27 calka頃から形成が開始される。ユーラシア東部では、中国北部での北方系細石刃石器群の形成と並行して、朝鮮半島(三海平原東縁部):ca.26 calka(好坪洞)、ロシア極東地方:ca.23 calka(ウスチ・ウリマ)、北海道半島:ca.24 calka(柏台I)、トランスバイカルca.23.7 calka(Studnoe-2)と同時多発的に出現する。おそらく、朝鮮半島の初期の細石刃石器群が白頭山(長白山)産黒曜石を用いていることが示すように、各地域間に物資・情報の伝達ネットワークが存在し、各地域で中国東北部が発信元となる北方系細石刃石器群に関するものを含む様々な情報が各地で共有されていたところに、LGMの進行にともなうグローバルな乾燥寒冷化がトリガーとなって、ユーラシア東部の各地で一斉に北方系細石刃石器群が形成・出現したと考えられる。

細石刃後期にみられる北方系細石刃石器群の拡散は、LGM終結(ca.19 calka)後の環境変動に対応したものとみることができる。LGM終結後、温暖化が進むと、中国東北部(図17)、シベリア⁽⁶¹⁵⁾、朝鮮半島⁽⁵³⁵⁾、古北海道半島⁽⁶¹⁶⁾では剥別技法を主な細石刃技術とする北方系細石刃石器群の検出例が増加する。同時に、北方系細石刃石器群の分布範囲の拡大もみられ、古本州島の日本海側を中心とする地域では、山形県角二山(ca.18 calka)を嚆矢に、剥別技法を持った石器群が検出されている。角二山では白滝産黒曜石も出土しており、古本州島の北方系細石刃石器は、古北海道半島のものに由来することが確認された⁽⁴⁶¹⁾。

一方、中国北部についてみれば、ca.17 calkaに開始される中国東北部から華北への虎頭梁細石刃技術複合による北方系細石刃石器群の拡散は、H1(ca.17.5~14.6 calka)による寒冷乾燥化を契機に発生し、当初は、永久凍土帯が広がった地域にそって華北に拡散した状況のみみることができる(図18)。ユーラシア東部におけるH1と同時期の拡散としては、このほか、ヤクーチアのジクタイ文化の出現(ca.17 calka)があげられる⁽⁶¹⁷⁾。また、新潟県荒屋遺跡の北方系細石刃石器群の年代もほぼ同時期に当たる点は注目される。佐久間光平は、この時期に本州で北方系細石刃石器群がみられるのは、H1の寒冷化に起因すると指摘している⁽⁵⁷⁶⁾。

華北において成立した角錐状細石核石器群は、北緯42~40度の南で盛行するが、東方の古本州島でも同様の状況を確認できる。このため、古本州島の状況は、中国北部、ことに華北の状況と一体のものとしてとらえることができるうえに、現在の朝鮮半島では、角錐状細石核石器群がほとんどみられないことから、古本州島の細石刃技術の起源は、華北に求めることができると推定している。これについては、筆者は、古本州島の細石刃石器群の出現年代(長崎県福井洞窟第13層:18.7 calka、神奈川県吉岡遺跡群:20.0 calka)がLGM末の海水準最低位期にあたることから、大規模な海退によって東シナ海、黄海、渤海が陸化したことで出現した三海平原を舞台に華北の角錐状細石核石器群の荷担集団と九州北部の集団が接触した結果、前者から後者へ細石刃技術が伝播したという仮説を提唱している⁽⁵⁶⁶⁾。

同じく、華北において角錐状細石核石器群から成立した舟底形細石核石器群では、ca.22-20 calkaに華北から中国東北部に拡散する二道梁-林富事件がみられるが、この舟底形細石核石器群の拡散の影響は、中国北部にとどまらなかったようで、舟底形細石核による技術を主要な細石刃技術とする石器群が、

中国北部に隣するロシア沿海州(ウスチノフカI上・下層、イリスタヤI)やロシア極東地方アムール河中流域のセレムジャ遺跡群(バルカスナヤ・ソープカIII第1文化層、ズメンナヤ・ソープカ第1文化層、ヴェジャギンスカヤ・ソープカ第1・第2文化層)などでも見出すことができる(448-618)。

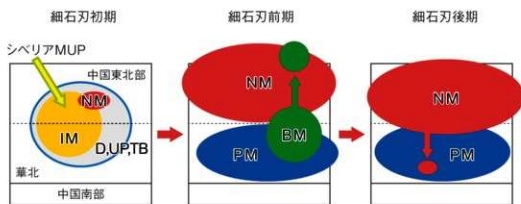
ca.14 calka以降、中国東北部の小興安嶺、三江平原、嫩江流域では、北方系細石刃石器群に土器がともなうようになる。これらは、石器群の類似性、土器の形状(平底の深鉢)、施文様式、年代などから、アムール中・下流域のオシボフカ文化との関わりが指摘されている(184・318)。また、華北における北方系細石刃石器群と土器の伴例である泥河湾の于家溝も中国東北部の状況に連動したものと考えられる。

華北最古の土器は、山東丘陵の趙家徐姚(ca.13.2 calka)のもの⁽⁶¹⁹⁾。細石刃技術はみられない。土器は、浅鉢のみみられるなど、北方系細石刃石器群にともなうものは差異が大きい。YD期には土器の検出例はなく、轉年、李家溝など、後水期に入って確認できるものとの関係も定かではない。このため、華北の土器の起源と拡散については、さらなる資料の蓄積が必要といえる。

6. おわりに

2020年から続いた新型コロナウイルスによる感染症の拡大のため、中国の最新資料の実見をおこなえない中、得られる資料をもとに、中国細石刃石器群の展開に関する考察を進めた。

この結果、中国北部における細石刃石器群の変遷と展開は、図22の模式図のように復元できた。そして、その背景には以下のようなことが想定された。



IM:初期細石刃石器群 NM:北方系細石刃石器群 PM:角錐状細石核石器群 BM:舟底形細石核石器群

図22 中国北部における細石刃石器群の変遷と展開模式図

細石刃初期 中国細石刃石器群は、LGMにおける環境変化への技術適応として、北方地域のMUP石器群をもとに、中国東北部で生み出された。押圧剥離を利用した細石刃技術の発明は、まさに技術革新といえるものであり、細石刃初期には、華北の各地にまで拡散した。

細石刃前期 石材環境を含む、中国東北部、華北の環境に適応して、北方系細石刃石器群、角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群が形成された。このうち、北方系細石刃石器群の形成は、周辺地域で

の北方系細石刃石器群の出現とはほぼ同時期であり、中国北部と周辺各地の間で情報・物資の伝達ネットワークが存在し、情報・物資が共有されていたことが想定された。

前期末には、華北の角錐状細石核石器群が、古本州島に接触伝播し、その細石刃石器群が形成されるとした。また、同時期、角錐状細石核石器群をもとに山西省南部で成立した舟底形細石核石器群が、華北ばかりでなく、中国東北部に拡散し、一部はロシア極東地区にまで到達した可能性があるとともに、アムール河流域の石器群荷担集団の形成に寄与したと考えられた。

細石刃後期 細石刃石器群は、LGM終結後の晩水期での新たな環境への適応に成功し、遺跡数・石器群数が増加した。また、H1前後の寒冷化では、虎頭梁細石刃技術複合をもつ北方系細石刃石器群の分布域が北緯40度付近まで南下するとともに、華北各地に拡散した。その結果、華北では、角錐状細石核石器群、舟底形細石核石器群、北方系細石刃石器群が共存し、石器群間で情報・技術がやり取りされた。

BA期の温暖期には、中国東北部、華北ともに細石刃石器群に土器がともなうようになる。このうち、北方系細石刃石器群の土器群は、アムール流域のオシボフカ文化などとの関係の中で出現したと考えられた。

最後に、上述したように本論考は、主に文献資料などをもとにしたものであり、多分に今後の論証が必要な仮説的な要素も持っている。このため、これからも実物資料の実見と新たな資料の収集を進め、確度をあげる努力を続けたい。

謝 辞

本論考の執筆にあたって、魏 堅(中国人民大学)、岳健平(安徽大学・中国科学院古脊椎動物与古人類研究所)、李有蹇(黒龍江省文物考古研究所)、徐 廷(遼寧大学)、梅惠傑・徐海龍(河北師範大学)、李 翌(山東省文物考古研究院)、周振宇(中国社会科学院考古研究所)、関 登(中国科学院古脊椎動物与古人類研究所)、王 略(東北大学大学院)、高倉純(北海道大学)ほかの各位にご指導・資料提供を受けた。厚く感謝いたします。

註

2024年になって河北省馬鞍山遺跡I区について、AMS年代を含む詳細が報告された。文献630を参照されたい。

第3章 二道梁—林富事件について

1. はじめに

舟底形細石核による細石刃技術を特徴とする石器群(以下、舟底形細石核石器群と呼ぼう)が、約2万年前を前後する時期、淮河以北の華北・中国東北部(以下、中国北部と呼ぶ)に広く分布する。筆者は、これを代表的な石器群である河北省二道梁石器群(李ほか2016)、黒龍江省林富石器群(李2015)の名前をとって二道梁—林富事件と呼ぶ(加藤2023)。

李有慶は、林富の石器群を紹介した際に、二道梁石器群やロシア極東地方のセレムジャ文化後半期の石器群との類似性を指摘した(李2015)。また、王幼平は、本論考で小型舟底形細石核石器群と呼ぶ石器群がca.25calka以降、山西省柿子灘遺跡群などに代表される山西省南部で出現・盛行する過程で、華北北部(二道梁)や西部(甘肅省石峽口第1地点〔任ほか2017〕)、東部(山東省黒龍潭など〔沈ほか2003〕)、南部(河南省大崗〔張・李1996〕)に拡散したばかりか、陸化した渤海・黄海・東シナ海を經由して日本列島西南部に伝播した可能性を指摘した(王2018)。

今回は、これまで蓄積された調査研究成果をもとに、中国北部を中心に舟底形細石核石器群の動向を確認するとともに、二道梁—林富事件の背景、意義を述べてみたい。

2. 中国における舟底形細石核を主体とする石器群

角錐状・楔形細石核の出土数が極めて少なく、舟底形細石核が主体を占める石器群を本稿では舟底

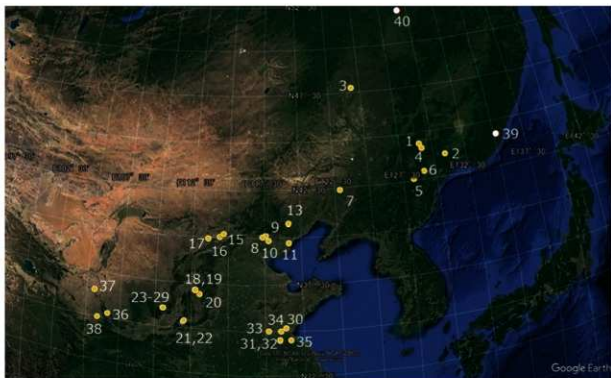


図23 舟底形細石核石器群関連遺跡分布図

図中の番号は、表4、本文中の遺跡番号と同じ。39、ウステノフカI、40、セレムジャ遺跡群

形細石核石器群と呼ぶこととする。こうした特徴をもつ石器群として以下のようなものがあげられる(表4)。

これをもとにすれば、舟底形細石核石器群は、中国東北部、華北を問わず、中国北部に広く分布することがわかる(図23)。このことは、中国東北部を中心に分布がみられる北方系細石刃石器群ならびに華北に分布する角錐状細石核石器群とは異なる特徴といえる。

2-1. 中国東北部

黒龍江省 ①双豊(李有壽私信)、②太平溝Ⅱ地点(陳ほか2020)、③林富、④紅岩北山(陳ほか2018)

吉林省 ⑤沙金溝(陳ほか2008)、⑥井泉村(吉林省文物考古研究所・吉林大学考古学院2021)

遼寧省 ⑦石棒子北山(瀋陽市文物考古研究所・吉林大学辺疆考古研究中心編2015)

2-2. 華北

天津市 ⑧閻子峪(王・盛2012)、⑨丈烟台(天津市文化遺産保護中心・吉林大学辺疆考古研究中心2012)

河北省 ⑩孟家泉(河北省文物研究所ほか1991)、⑪淳酒澗(河北省文物研究所ほか1992、王恩霖1997)、⑫所各莊(河北省文物研究所にて観察)、⑬化子洞(李・劉2001)、⑭官序(謝1996)、⑮二道梁、⑯下卜莊下文化層(趙ほか2021)

山西省 ⑰南坡(山西大学歴史文化学院・大同市考古研究所2018、石・李2020)、⑱東彤彰(陳・王1998)、
⑲南窰村(陳・王1998)、⑳嵐峪(賈ほか1989)、㉑下川流水腰上文化層(申ほか2020)、
㉒舜王坪大腰3層(中国社会科学院考古研究所・山西省考古研究所2016)、㉓柿子灘S5地点第2文化層(柿子灘考古隊2016)、㉔柿子灘S14地点第2文化層、第3文化層、
第4文化層(柿子灘考古隊2002)、㉕柿子灘S12A地点(趙2008)、㉖柿子灘S12C地点(趙2008)、
㉗柿子灘S12D地点(趙2008)、㉘柿子灘S12E地点(趙2008)、㉙柿子灘S29地点第1文化層、第2文化層、第3文化層、第4文化層、第5文化層(山西大学歴史文化学院・山西省考古研究所2017)

山東省 ㉚九頂蓮花山(員ほか1989)、㉛馬陵山19地点(山東省文物考古研究所ほか1987)、
㉜馬陵山26地点(山東省文物考古研究所ほか1987)、㉝馬窩(李ほか2020)、
㉞青峰嶺(沈ほか2003)

江蘇省 ㉟將軍崖4層(房ほか2008)

寧夏回族自治区

甘肅省 ㊱彭陽PY03(吉ほか2005)、㊲海原南華山5地点(寧夏文物考古研究所・海原縣文物管理所編2022)

㊳甘肅省大地灣4層、5層(Bettinger et al. 2011)

表4 舟底形細石核石器群一覧表(その1)

No.	省・市 自治区	遺跡名	位置		細石核形状(点)		石器出土 総数	石器型 数種	共存動物化石	年代値 (¹⁴ CBP)	暦年較正年代 (cal BP) (中間値 (2σ))	
			北緯	東経	角錐	舟底						
1		双墩	44° 24' 43" N	129° 00' 43" E	0	4	0	528	-			
2	黑龙江	太平溝遺址	43° 41' 20" N	130° 51' 57" E	0	2	0	57	-			
3		神堂	47° 45' 15" N	124° 19' 55" E	0	60	1	2109	○	ウシ科	17,192±70	
4		紅廟志山	44° 09' 32" N	129° 09' 32" E	0	1	0	49	-		20,549-20,907(20,745)	
5	吉林	沙参溝	42° 36' 09" N	128° 18' 03" E	0	2	0	82	-			
6		井農村	42° 57' 02" N	129° 05' 54" E	0	1	0	36	-			
7	遼寧	石橋子北山	42° 24' 34" N	122° 52' 34" E	0	1	0	71	-			
8	天津	関子橋	40° 03' 08" N	117° 22' 29" E	0	1	0	18	-			
9		文廟台	40° 08' 50" N	117° 35' 23" E	1	2	0	62	○			
10		孟家泉	39° 52' N	117° 47' E	1	1	0	23000	○	ナマディクスゾウ・オーロックス・ モウコウウマ・各種シカ類が最多、 鳥類・魚類を含む23種	17,540±250	19,903-21,204(20,570)
11	河北	淨泉園	39° 44' N	119° 10' E	0	19	0	699	○			
12		所各庄	-	-	○	○	○	-	-			
13		化子洞	40° 46' N	118° 35' E	○	○	○	-	-	鳥類、哺乳類、魚類など		
14		官庁	-	-	-	0	8	0	-			
15		二道梁	40° 13' 28" N	114° 39' 11" E	1	6	0	1915	○	モウコガゼル・シカ科・鳥類	18,085±235	21,290-22,465(21,950)
16		下下庄	40° 03' N	114° 22' E	-	○	-	-	-		ca.18 ca/14	
17		南坡	39° 56' 34" N	113° 35' 04" E	0	3	0	119	-			
18		東陽村	37° 09' 18" N	112° 48' 46" E	3	33	2	648	-			
19		南園村	37° 09' N	112° 45' E	1	○	1	26	○			
20		風船	36° 57' 24" N	113° 04' 30" E	1	○	0	80	-	ウマ科・シカ科		
21	山西	下川 流水溝	35° 23' 13" N	111° 56' 46" E	3	19	0	1182	-		2層 14,180±65 3層 13,790±60	17,067-17,391(17,225) 16,509-16,973(16,725)
22		興王坪大塚3層	35° 27' N	112° 02' E	1	20	4	70	-		19,950±600 13,510±300	21,640-24,305(22,015) 15,404-17,102(16,304)

年代値は孟家泉(半減期:5730年)を除いて半減期5568年・暦年較正はCalib.ver.8.0.1でおこなった。

No.は、図23、本文中の遺跡番号と一致する。

3. 舟底形細石核石器群の動向

3-1. 舟底形細石核石器群の出現

舟底形細石核石器群の出現過程は、王幼平(2018)が指摘するように、柿子灘S29地点(山西大学歴史文化学院・山西省考古研究所2017)で確認できる。華北での細石刃出現期にあたる第7文化層(ca.25.9 calka)では角錐状細石核23点、舟底形細石核0点であり、続く、第6文化層(ca.24.2 calka)では、舟底形細石核の出土点数が増加し、角錐状細石核14点、舟底形細石核40点となる。そして、第5文化層(ca.23.8 calka)に至り、角錐状細石核0点、舟底形細石核85点となり、舟底形細石核石器群が成立する。ちなみに、S29地点では、第5文化層以降、第1文化層(ca.13.2 calka)に至るまで、いずれも舟底形細石核石器群が継続する(表4)。ca.23 calka前後になると、柿子灘遺跡群では、S29地点第5文化層以外にも、柿子灘S12C(ca.23.3 calka)、S14第4文化層(ca.23.0 calka)などで、舟底形細石核石器群が顕在化する。

このような舟底形細石核石器群の出現過程は、下川遺跡群でも観察される。下川遺跡群では、華北の細石刃出現期である下川小白樺圪梁地点2層(ca.25-27 calka)で角錐状細石核8点、舟底形細石核14点、楔形細石核6点(北京師範大学歴史学院・山西省考古研究所2019)、下川水井背地点2層第1水平層~3層第3水平層(ca.25-26 calka)で角錐状細石核0点、舟底形細石核5点、楔形細石核4点であった

表4 舟底形細石核石器群一覧表(その2)

No.	県・市 自治体	遺跡名	位置		細石核形状 (点)			石器出土 総数	石器 種類	共存動物化石	年代値 (¹⁴ CBP)	暦年較正年代 (Cal BP) (中誤差) (2σ)
			北緯	東経	角筒	舟底	楔形					
23		種子園51	36° 02' 50" N	110° 35' 17" E	1	5	0	757	-	シカ科	16,580±50	18,878-20,206(20,631)
					0	0	0	278	○	ウマ科・シカ科	16,960±70	20,338-20,757(20,511)
					0	3	0	377	-	シカ科	17,940±90	21,456-22,052 (21,840)
					0	20	0	919	-		15,030±150	18,040-18,703(18,412)
24		種子園314	35° 02' 11" N	110° 32' 40" E	0	4	0	326	-	ヒツジ属(多い)・シカ科・ウマ 科・ウシ科・齧歯類(多い)・ドブ ガイの仲間	17,210±290	20,078-21,520(20,797) (20,797)
					1	2	0	390	-		19,050±90	22,797-23,168(22,982) (22,982)
					0	16	0	2364	-	ウマ科・シカ科・ウシ科・イノシシ 科・齧歯類・鳥類・バイガイ・ダ チュウ類群(ウマ・小型齧歯類が 多)	16,050±180	18,941-19,648(19,254) (19,254)
					0	8	0	134	-	ヒツジ属・シカ科	18,180±270	21,259-22,708(22,060)
25		種子園512A			0	16	0	2364	-	ヒツジ属・シカ科	19,375±60	23,071-23,424(23,331) (23,331)
26		種子園512C	35° 02' 28" N	110° 33' 06" E	0	8	0	134	-			
27		種子園512D			0	1	0	37	-	ヒツジ属・シカ科		
28		種子園512E			0	1	0	231	-	小型齧歯類・齧歯類・鳥類		
29	山西	種子園521	35° 02' 54" N	110° 35' 22" E	0	7	0	3410	-	シカ科(78.95%)・ウマ科・ウシ 科(モウコノウマ・アジアノロバ ・オーロックス・モウコガゼル・ジャ コウウシ) 少数	11,175±60	12,922-13178(13,102) (13,102)
					0	7	0	3410	-		11,360±50	13,164-13,356(13,260) (13,260)
					0	64	0	2612	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ ダチュウ類群・ドブガイ	11,111-13,252(13,192) (13,192)	17,720-18,209(17,970) (17,970)
					0	24	0	2120	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ ダチュウ類群・ドブガイ	14,650±70	18,841-19,155(18,998) (18,998)
					0	24	0	2120	-		15,390±70	18,424-18,845(18,723) (18,723)
					0	24	0	2120	-		15,215±42	18,284-18,526(18,439) (18,439)
					0	24	0	2120	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ ダチュウ類群・ドブガイ	17,200±50	20,575-20,897(20,764) (20,764)
					0	24	0	2120	-		17,360±60	20,792-21,125(20,932) (20,932)
					0	24	0	2120	-		17,266±38	20,687-20,967(20,851) (20,851)
					0	24	0	2120	-		17,500±70	20,922-21,371(21,126) (21,126)
30	山梨	大瀬原花山	35° 12' N	118° 50' E	0	2	0	151	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ ドブガイ	16,170±50	19,366-19,624(19,516) (19,516)
					0	129	0	10691	-		16,930±50	20,314-20,568(20,458) (20,458)
					0	129	0	10691	-		18,750±90	20,015-20,468(20,257) (20,257)
					0	129	0	10691	-		18,570±60	22,333-22,647(22,490) (22,490)
31	山梨	高尾山19	34° 30' N	118° 25' E	0	2	0	151	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ ドブガイ	19,210±80	22,844-23,345(23,110) (23,110)
					0	85	0	7153	-		17,040±60	20,444-20,794(20,584) (20,584)
					0	85	0	7153	-		17,265±23	20,754-20,941(20,850) (20,850)
					0	85	0	7153	-		19,510±70	23,735-24,195(23,870) (23,870)
32	山梨	高尾山26	34° 33' N	118° 25' E	0	7	0	151	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ ドブガイ	19,940±70	23,258-23,773(23,515) (23,515)
					0	85	0	7153	-		19,940±70	22,827-23,334(23,054) (23,054)
					0	85	0	7153	-		19,710±80	23,700-23,880(23,758) (23,758)
					0	85	0	7153	-		19,860±70	23,759-24,099(23,868) (23,868)
33	山梨	高尾山34	35° 02' 01" N	117° 42' 03" E	0	1	0	151	-	ウマ科・ウシ科(モウコノウマ・ア ジアノロバ・オーロックス・モウコ ガゼル・ジャコウウシ) 絶対優勢・ シカ属(20%)	19,768±34	23,745-23,865(23,806) (23,806)
					0	1	0	151	-		20,185±45	23,749-24,345(24,177) (24,177)
					0	1	0	151	-		20,500±100	24,287-24,992(24,674) (24,674)
					0	1	0	151	-		20,380±90	24,171-24,742(24,444) (24,444)
34	山梨	青峰池	35° 01' 45" N	118° 30' 09" E	少	少	少	3173	○			
					少	少	少	3173	○			
35	江蘇	將軍崖	4層 34° 21' 54" N	119° 07' 51" E	0	2	0	13	-		ca. 12ka	
36	江蘇	彭祖廟P02	35° 17' 50" N	108° 38' 42" E	0	1	0	23	-		18,350±70	
37	宁夏	海原南塬山B	36° 30' 53" N	109° 35' 11" E	0	1	0	3	-			
38	甘肅	大地湾	4層 35° 00' 54" N	105° 54' 14" E	0	3	0	251	-			20-13 ca/ka
					0	9	0	947	-			13-7 ca/ka

年代値は半減期5568年、暦年較正はCalib.ver.8.0.1でおこなった。

No.は、図23、本文中の遺跡番号と一致する。

(社2021)のが、舜王坪大腰3層(ca.23.0 calka)において舟底形細石核石器群が出現する(角錐状細石核1点、舟底形細石核20点、楔形細石核4点)。

柿子灘遺跡群、下川遺跡群で顕在化したこれらの舟底形細石核石器群は、中国北部ならびに周辺地域でも最古のものといえる。このため、舟底形細石核石器群は、柿子灘、下川が所在する山西省中・南部において、ca.23 calka前後に各種細石核を保有する角錐状細石核石器群を母体に成立したといえることができる。

3-2. 舟底形細石核石器群の拡散

出現期(ca.23 calka前後)に次ぐ年代をもつ舟底形細石核石器群としては、寧夏回族自治区彭陽PY03地点(ca.22.3 calka)、河北省二道梁(ca.22.0 calka)、山西省柿子灘S5第4文化層(ca.21.8 calka)の石器群があげられる。華北北部の泥河湾盆地(二道梁)や西部の六盤山東麓(彭陽PY03地点)にまで分布がみられることから、山西省南部で顕在化した舟底形細石核石器群がca.22 calka前後までに華北の広い範囲に分布を広げたことを確認できる。

彭陽PY03、二道梁に次ぐ年代をもつ舟底形細石核石器群としては、河北省孟家泉(ca.20.6 calka)、山西省柿子灘S5第2文化層(ca.20.2 calka)・第3文化層(ca.20.2-21.8 calka)、同12A(ca.19.4-22.1 calka)、同S14第3文化層(ca.20.8 calka)、同S29第3・4文化層(ともにca.20.9 calka)、黒龍江省林富(ca.20.8 calka)の石器群があげられる。これらの石器群は、柿子灘S29第3・4文化層を除き、前掲した二道梁石器群と類似した、①周縁調整斜・横刃型彫器(図24の4-8、図25の10-13)、背付き尖頭器(図24の2)などの器種、②舟底形細石核の木口面から側面にかけてで細石刃剥離をおこなう手法(図24の10、図25の6)などの技術的特徴を共有する。また、こうした技術的特徴は、河北省涇河、吉林省沙金溝の石器群にも見出すことができる。このため、この2石器群も上記石器群と並行するca.20 calkaの年代をもつと推定できる。

このca.22~20 calkaの時期に、周縁調整斜・横刃型彫器、背付き尖頭器、舟底形細石核の木口面から両側面で細石刃剥離をおこなう手法といった技術的特徴を共有する舟底形細石核石器群が、華北から中国東北部に拡散、中国北部に広く分布するようになる現象が、二道梁—林富事件である。

3-3. その後の舟底形細石核石器群

中国東北部では、現在のところ、年代測定値をもつ石器群がなく、二道梁—林富事件後の舟底形細石核石器群の様相は明確ではない。一方、華北では、河北省下卜莊(ca.18.0 calka)、山西省下川流水腰上文化層(ca.17.2 calka)、柿子灘S14第2文化層(ca.18.4 calka)、同S29第2文化層(ca.18.4 calka)・第1文化層(ca.13.2 calka)、江蘇省將軍崖(ca.12¹⁴ Cka)、甘肅省大地湾(20-7 oslka)などの石器群があり、二道梁—林富事件後も広い範囲で存続していたことが判明する。



図24 二道梁の石器群

4. 舟底形細石核石器群の特性と広域拡散の理由

4-1. 舟底形細石核の特徴

山西省柿子灘S29地点の細石刃技術の変化を技術機能学的に分析したグリマルディらによれば、細石刃出現期の扁平な半円錐状細石核が細石核を最大限に利用するためのものであったのに対して、舟底形細石核は、石核尾端を固定具に埋め込む固定法、細石刃剥離の手法（作業面の左側、右側交互に細

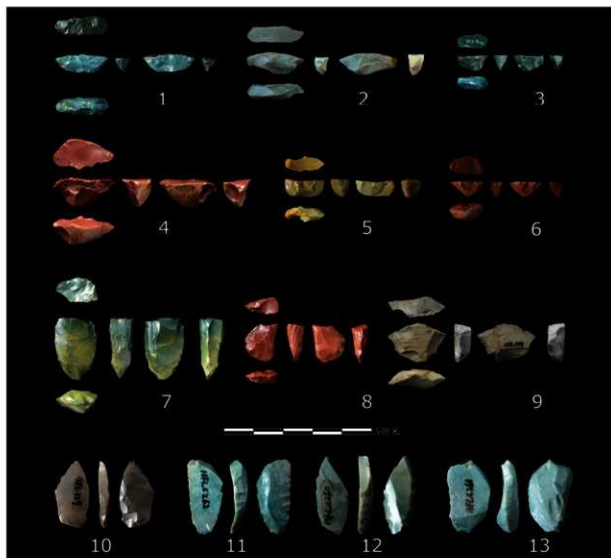


図25 林富の石器群 (李有憲提供)

石刃剥離を進行する手法と右もしくは左側から反対側に一方向で細石刃剥離を進行する手法)を導入し、短く真直ぐな形状の細石刃の生産効率を最大限にするために生み出されたものと主張した(Grimaldi et al. 2022)。一方、加藤は、華北の細石刃石器群の角錐状細石核と舟底形細石核の大きさ、重さを比較し、角錐状細石核のほうが大きいことを見出すとともに、燧石など細石刃生産に適した石材の割合が高い場合には角錐状細石核の割合が高く、逆に細石刃生産に適した石材の割合が低い場合には舟底形細石核の割合が高いことを確認した。そして、遺跡周辺の石材環境を反映し、燧石などの石器製作に適した石材が十分に入手できなかったり、入手できる原石が小型なものであったりした場合には、作出される細石刃が矮小となるものの、①細石核そのものは小型で、剥片/礫片を問わず素材とすることができるなど資源節約性が高く、②長い下縁や打面を持ち、細石刃剥離に際する固定や打面押圧が角錐状細石核よりは容易、③残核も搔器として再利用することが可能などの理由から舟底形細石核が多用されたとした(加藤2014)¹⁾。なお、この舟底形細石核のほうが小さい傾向は、柿子灘S29地点においても確認でき、舟底形細

石核の平均体積は2786.8mm³、角錐状細石核は3424.8mm³であった(山西大学歴史文化学院・山西省考古研究所2017)。ただし、下川流水層では舟底形細石核の平均の長×幅×厚、重さは、15.14×21.25×12.70mm、4.26g、角錐状細石核(原文では半錐形細石核)は24.39×17.23×8.71mm、3.72gであり、後者の方が広い作業面をもつものの、薄いことから軽くなっている(申ほか2020)。

以上の見解をもとにすれば、例外はあるものの、舟底形細石核を用いた細石刃技術は、礫片や剥片などの小型の素材であっても有効利用でき、小型細石刃を量産できる効率的なものであったといえる。

4-2. 舟底形細石核石器群の資源利用

石材 柿子灘S29地点では、細石刃技術は7層頂部からみられるが、そこでは角錐状細石核には遺跡から150kmおよび30~40km離れた地点に露頭がある黒色燧石が用いられる傾向があるのに対して、舟底形細石核には付近の河床で礫として採取できる燧石が用いられており、その後、舟底形細石核の割合が高まるとともに、後者の石材の使用頻度が上がることが報告されている(Song et al. 2019, Grimaldi et al. 2022)。また、二道梁、林富などの多くの地点で、遺跡付近の河床で採取される燧石などの小礫を石器素材としていることが報告されている。これらのことから、舟底形細石核石器群では主に遺跡付近の河床などで採取できる石材を利用していることが判明する。例外は吉林省沙金溝で、全石器での長白山産黒曜石の割合が約90%を占めているが、黒曜石採取地近隣と想定されている吉林省和龍大洞遺跡からの直線距離は約80kmである。

共伴動物化石と植物利用 草原性のウマ科・ウシ科、ヒツジ属、ガゼルを中心に、森林・疎林性のシカ類が加わることもある(表4)。また、齧歯類や鳥類、魚類などの小動物もみられる。ゾウや毛サイなどのビッグゲームは基本的にみられない。柿子灘遺跡群ではほぼ同時期の地点間で、主たる狩猟対象獣が微妙に異なっている。これは地点間で狩猟空間の環境に差異があることを示している。小型動物などがみられることも考慮すると、狩猟活動は、各地点の周辺でなされ、地点ごとに微妙に異なる周辺環境が反映されていたことが想定される。

植物利用に関しては、柿子灘S29地点の第2・4文化層、柿子灘S14地点の第2・3・4文化層からは磨盤が検出されている。そのうち、後者の第3・4文化層出土のものについて、使用痕分析ならびに残留デンプン粒分析が実施されており、それらがコムギ科・キビ連の種子、ササゲ属の豆、ヤマイモ、キカラスウリの根などの粉化に用いられるとともに、それらの植物が、当時、遺跡周辺で優勢だった草原で採取されたものと推定されている(Liu et al. 2013)。ただし、ほかの舟底形細石核石器群では、こうした磨盤はみられないことから、舟底形細石核石器群では植物性資源なにかんずく森林植物性資源の利用は、動物性資源に比べて低調だった可能性がある。

4-3. 広域拡散の理由

これまでみてきたように、舟底形細石核石器群は、ca.23.0calka頃、山西省南部で出現し、22~20calkaにおいて華北北部を経て、中国東北部に分布が拡大する。二道梁-林富事件である。

この一連の時期は、LGMの進行にともなって寒冷・乾燥化が最も進んだ時期と重なる。舟底形細石核石器群が展開した中国北部では、草原環境が卓越し、中国東北部の一部では荒野が出現する。実際、柿子灘では、ヨモギ・アカサ科が繁茂する草原もしくはこれにマツ・トウヒ・モミなどの針葉樹林を交える森林草原が復原されている (Song et al. 2017)。また、下川においても、ヨモギの顕著な増加と喬木の減少がみられ、乾燥寒冷環境下の疎林草原が復原されている (孫ほか2000)。

草原環境が卓越した結果、動物相では、シカ類などの森林性動物に代わって遊動性の高いウマ科 (モウコノウマ、アジアノロバ)・ウシ科 (ガゼル、オーロックスなど)、ヒツジ属などの草原性の草食動物のほか、各種の齧歯類などが優勢となったと考えられる。

このため、この地域の集団では、これらの移動性の高い草食動物への依存が高まる一方、ナツ類などの森林植物性資源の依存度は低下したと考えられる。こうした状況を背景として、従前より採用されていた頻繁な移動と居住地点 (遺跡) 周辺の資源利用を特徴とするフォレジャー戦略が強化されたとみることができる。遺跡周辺に生息していたと考えられる齧歯類や鳥類などの小動物の利用が散見されるのも、こうしたフォレジャー戦略が強化された結果とみることができよう。

その一方、寒冷化の進行は、凍結破砕作用による露頭等での多量の岩屑生産と山嶺や山間の谷部への供給を促すものの、降水量の減少により、浸食作用・河川運搬力が低下するので、河川流域への石材の供給が減少、そのサイズも小さくなったとみることができる。このため、遺跡周辺の河床等で採取できる石材の量や大きさも限定されることになったと想定できる。こうした石材環境は、石器群荷担集団の遊動領域を制限するものといえる。このような劣悪な石材環境であっても、フォレジャー戦略を強化するためには、極小の礫や剥片などの限定された石材を資源化できる技術が石器群荷担集団から希求されたと考えられ、こうした要望を満たすのが、そうした極小な素材からでも細石刃生産が可能な舟底形細石核を利用する細石刃技術だったとみることができよう。つまり、舟底形細石核を利用する細石刃技術は、LGMにおける寒冷・乾燥化の進行に起因するさまざまな環境変化への技術適応であり、そのため、それを技術基盤に組み込んだ舟底形細石核石器群が寒冷・乾燥化の最盛期である約2万年前に、中国北部において広域拡散したと考えられる。

5. 舟底形細石核石器群の広がりとその意味すること

舟底形細石核を多く保持する石器群は、中国北部に隣するロシア沿海州 (ウスチノフカI上・下層、イリスタヤI)、ロシア極東地方アムール河中流域のセレムジャ遺跡群 (バルカスナヤ・ソープカIII第1文化層、ズメンナヤ・ソープカ第1文化層、ヴェジャギンスカヤ・ソープカ第1・第2文化層) などでも見出せる (Derev'anko ed. 1998, 佐藤2008)。このうち、ウスチノフカI下層、ヴェジャギンスカヤ・ソープカ第2文化層は二道梁—林富事件と同時期のものである。特に、ウスチノフカI下層石器群は、舟底形細石核のほか、背付尖頭器がみられ、中国北部の舟底形細石核石器群と類似する。舟底形細石核石器群は、約2万年前の前後の時期に、華北から中国東北部、そして、アムール流域、沿海州まで分布を広げていたとみることができよう。

古代ゲノム分析によれば、LGMの末期(ca.19 calka)にアムール流域において、東アジア人と北東アジア人の共通の祖先集団である東ユーラシア基層集団から最古の北東アジア人が分岐・出現するという(Mao et al. 2021, Gakuhari et al. 2020, 図26)。舟底形細石核石器群の荷担集団が華北に居住していた東ユーラシア基層集団と仮定すると、二道梁—林富事件とは、LGM末期において、東ユーラシア基層集団がLGMでの環境変化に適応して、華北から中国東北部、そして、アムール河流域を含む近隣地区へ拡散・定着した軌跡であり、北東アジア人の分岐・出現の過程を示しているものではないだろうか。

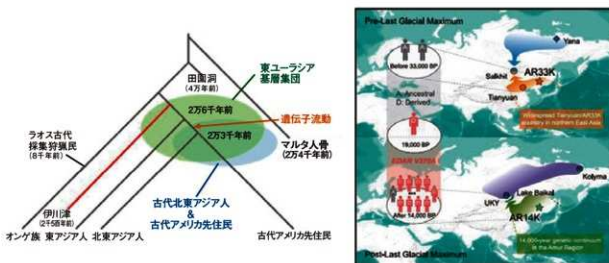


図26 古代ゲノム分析からみた細石刃期の北東アジアの人間集団の形成
(左:Gakuhari et al. 2020 Fig.4, 右:Mao et al. 2020 Graphical abstract)

6. まとめ

LGMにおいて、寒冷・乾燥化が進行にともなって自然環境、石材環境などが変化すると、華北の集団は、高い遊動性を特徴とするフォレジャー戦略に傾斜した。その際、劣悪な石材環境下にあっても遊動域を確保し、フォレジャー戦略を執るために、礫片や剥片などの極小な素材からも効率的に小型細石刃を量産できる舟底形細石核を用いる細石刃技術を採用する。そして、舟底形細石核石器群を荷担して、LGMに拡大した草原環境に適応しつつ、約2万年前を前後する時期に、中国東北部、そしてアムール流域や沿海州に至る急激な拡散である二道梁—林富事件が発生する。この華北の舟底型細石核石器群の荷担集団の北方への拡散は、古代ゲノム分析から想定されている、LGM末期における東ユーラシア基層集団からの北東アジア人の分岐と出現に関連すると考えられた。

いまのところ、筆者は、二道梁—林富事件は朝鮮半島や古本州島などの東方世界には及んでいないと認識している2)。しかしながら、古本州島中南部(南関東地方)最古の細石刃石器群は、舟底形細石核を用いる代官山技法を特徴とし、その年代は二道梁—林富事件と並行するca.20 calkaである。また、古本州島西南部の九州地方において舟底形細石核を利用する船野技法が細石器文化期の前半期初頭に存在し、それが東遷したものが代官山技法とする橋昌信仮説(橋2017)が提示されている。これらと二道梁

—林富事件、あるいは東アジアの広範囲に拡散した舟底形細石核石器群との関係について、その有無を含めて検討する必要があるといえよう。

謝 辞

橋先生は、学問的承譜をことにする若造の筆者に対して、折々に声をかけていただきました。今回の参考文献となった御著書「大野川流域における細石器文化の研究」も他の抜刷ともに送っていただいたものです。この小論が少しでも旧石器研究の進展に貢献できたとするならば、いささかなりとも先生からの学恩にお返しのできたのでないかと、遅まきながら思うものです。

本論考の執筆にあたり、黒龍江省文物考古研究所 李有憲副所長から林富に関わる画像データ、資料等の提供を受けました。感謝申し上げます。

本論考は、日本学術振興会科学研究費補助金(20H01361)の助成を得ました。

註

- 1) 角錐状細石核石器群の角錐状細石核の平均の大きさは、靈井 $2.1 \times 1.6 \times 1.4$ cm、5.5g、爪村86020地点 $2.5 \times 2.3 \times 1.7$ cm、太子陵 $2.9 \times 2.1 \times 1.1$ cm、9.4g、油房 $2.6 \times 1.7 \times 1.7$ cm、羊頭山 $2.5 \times 2.0 \times 1.5$ cm、柿子灘S14 第4文化層第1ブロック $1.4 \times 1.2 \times 2.3$ cm、4.4g、一方、舟底形細石核石器群の舟底形細石核の平均の大きさは、淳泗澗 $1.1 \times 1.1 \times 1.5$ cm、二道梁 $1.2 \times 1.2 \times 2.0$ cm、2.1g、柿子灘S12A $0.9 \times 1.0 \times 1.8$ cm、S12C $0.9 \times 1.2 \times 1.8$ cm、S12D $1.0 \times 1.1 \times 2.0$ cm、S12E $0.9 \times 1.3 \times 1.8$ cm、柿子灘S14第4文化層第2ブロック $1.2 \times 0.6 \times 1.9$ cm、1.6gであった。
- 2) 韓国全羅北道全州市のJaegyeongdeul遺跡で多量の舟底形細石核が剥片尖頭器、磨製石斧とともに出土した。年代は、ca. 25-20 calkaという。

參考文獻

- 北京師範大學歷史學院·山西省考古研究所(2019)「山西沁水下川遺址小白樺圪梁地點2015年發掘報告」
《考古學報》2019(3), 383-404。
- 陳全家·魏天旭·宋吉富·楊樞通·李有騫(2020)「東寧太平溝兩處旧石器地點的石器研究」《科技考古與文物
保護技術》3, 1-9, 科學出版社(北京)。
- 陳全家·楊樞通·林 森·申左君(2018)「寧安紅岩北山旧石器地點石器研究」《地域文化研究》2018(2),
81-89, 155。
- 陳全家·趙海龍·方 啓·程新民·李有騫·鄭鐘仁(2008)「安國沙金溝旧石器遺址發現的石器研究」《華夏
考古》2008(4), 51-58。
- 陳哲英·王大明(1998)「山西榆社東形彰的細石器」《史前研究 西安半坡博物館成立四十周年紀念文集》,
23-34, 三秦出版社(西安)。
- 杜水生(2021)「連統與斷裂—重新認識下川遺址在中國旧石器文化研究上的意義」《第四紀研究》41(1),
153-163。
- 房迎三·惠 強·項劍雲·臧 琳·劉鎮強(2008)「江蘇連雲港將軍崖旧石器時代晚期遺址的考古發掘與
取權」《東南文化》2008(1), 14-19。
- 河北省文物研究所·秦皇島文物管理處·昌黎縣文物保管所(1992)「河北昌黎沙灣細石器地點」《文物
春秋》1992增刊, 121-127。
- 河北省文物研究所·唐山市文物管理所·玉田縣文保所(1991)「河北玉田縣孟家泉旧石器遺址發掘簡報」
《文物春秋》1991(1), 1-13。
- 吉篤學·陳發虎·Bettinger R. L.·Elston R. G.·耿志強·Barton L.·王 輝·安成邦·張東菊(2005)「末次
盛冰期環境惡化對中國北方旧石器文化的影響」《人類學學報》24(4), 270-282。
- 吉林省文物考古研究所·吉林大學考古學院(2021)「2019年吉林省布爾哈通河流域(龍井—延吉段)旧石器
考古調查報告」《地域文化研究》2021(4), 111-119。
- 賈文亮·王大明·陳哲英(1989)「山西榆社縣嵐峪的細石器」《文物季刊》1989(1), 14-17。
- 李 罡·任雅鵬·李 猛(2020)「棗莊市山亭區旧石器地點調查簡報」《人類學學報》39(3), 357-366。
- 李 罡·任雪岩·李 瑒(2016)「泥河灣盆地二道梁旧石器時代晚期遺址發掘簡報」《人類學學報》35(4),
509-521。
- 李 瑒·劉連強(2001)「平泉縣化子洞旧石器時代晚期遺址」《考古學年鑑2001》, 109-110, 文物出版社
(北京)。
- 李有騫(2015)「黑龍江省林富田旧石器遺址的發現與年代」《中國北方及蒙古、貝加爾、西伯利亞地區古代
文化》上, 121-127, 科學出版社(北京)。
- 寧夏文物考古研究所·海原縣文物管理所(編)(2022)「寧夏海原—南華山地區史前遺存考古調查報告」,
322頁, 文物出版社(北京)。
- 任進成·周 靜·李 鋒·陳福友·高 星(2017)「甘肅石峽口旧石器遺址第1地點發掘報告」《人類學學報》
36(1), 1-16。
- 山東省文物考古研究所·臨沂地區文物管理委員會·鄒城縣圖書館(1987)「山東鄒城馬陵山細石器遺存調查
報告」《史前研究》1987(1), 42-56。

- 山西大学历史文化学院·大同市考古研究所(2018)「山西大同縣南坡旧石器時代遺址試掘簡報」[考古]2018(2), 3-11。
- 山西大学历史文化学院·山西省考古研究所(2017)「山西吉泉柿子灘遺址S29 地点發掘簡報」[考古]2017(2), 35-51。
- 申曉茹·王益人·杜水生(2020)「山西下川遺址流水腰地点的細石葉工業」[第四紀研究]40(1), 264-274。
- 瀋陽市文物考古研究所·吉林大学遼疆考古研究中心編(2015)「瀋陽地區旧石器發現与研究」, 177頁, 科学出版社(北京)。
- 沈辰·高星·胡秉華(2003)「山東細石器遺存以及对“鳳凰嶺文化”的重新認識」[人類學學報]22(4), 293-307。
- 石曉潤·李君(2020)「南坡遺址石製品研究」[考古与文物]2020(1), 61-67。
- 柿子灘考古隊(2016)「山西吉泉柿子灘旧石器時代遺址第五地点發掘簡報」[考古]2016(4), 3-15。
- 柿子灘考古隊(2002)「山西吉泉柿子灘旧石器時代遺址S14地点」[考古]2002(4), 15-28。
- 孫建中·柯曼紅·石興邦·張子明·陳哲英·吳加安·張素琳(2000)「下川遺址的古氣候環境」[考古]2000(10), 81-91。
- 天津市文化遺產保護中心·吉林大学遼疆考古研究中心(2012)「天津薊縣丈烟台旧石器地点調查簡報」[遼疆考古研究]11, 1-9, 科学出版社(北京)。
- 王春雪·盛立双(2012)「天津薊縣閻子峪和大孫各莊旧石器地点發現的石器研究」[第13届中国古脊椎動物學學術年會論文集], 179-186, 海洋出版社(北京)。
- 王恩霖(1997)「河北昌黎淳酒調細石器遺址的新材料」[人類學學報]16(1), 1-10。
- 王幼平(2018)「華北細石器技術的出現与發展」[人類學學報]37(4), 565-576。
- 謝飛(1996)「河北旧石器時代晚期細石器文化遺存的分布及在華北馬蹄形分布帶中的位置」[湖西文化研究]14, 295-320。
- 貝曉楓·徐淑彬·吳瑞吉(1989)「山東莒南發現的石製品」[人類學學報]8(1), 32-37。
- 張居中·李占揚(1996)「河南舞陽大崗細石器地点發掘報告」[人類學學報]15(2), 105-113。
- 趙海龍·全廣·閻曉蒙·楊森然·譚培陽(2021)「河北泥河灣盆地地下莊遺址端刮器功能的實驗分析」[人類學學報]40(4), 600-610。
- 中国社会科学院考古研究所·山西省考古研究所(2016)「下川—旧石器時代晚期文化遺址發掘報告」, 552頁, 科学出版社(北京)。
- Bettinger R.L., Barton L., Morgan C., Chen F., Wang H., Guilderson T.P., Ji D., Zhang D., 2011. The Transition to Agriculture at Dadiwan, People's Republic of China. *Current Anthropology* 51(5), 703-714.
- Gakuhari T. et al., 2020. Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations. *Communications Biology* 3:437, 10 pp. <https://doi.org/10.1038/s42003-020-01162-2> | www.nature.com/commsbio
- Grimaldi S., Santaniello F., Cohen D., Shi J., Song Y., 2022. Last Glacial Maximum Microblade Production at Shizitan 29 and its Implications for North China Pressure Technology. *Journal of Field Archaeology* 47, 18pp. <https://doi.org/10.1080/00934690.2022.2137754>.

- Derev'anko A. P. ed., 1998. *The Paleolithic of Siberia: new discoveries and interpretations*. 406pp. University of Illinois Press, Urbana.
- Liu L., Bestel S., Shi J., Song Y., Chen X. 2013. Paleolithic human exploitation of plant foods during the last glacial maximum in North China. *PNAS* 110 (14), 5380-5385.
- Mao X. et al., 2021. The deep population history of northern East Asia from the Late Pleistocene to the Holocene. *Cell* 184, 3256-3266.
- Song Y., Cohen D., Shi J., Wu X., Eliso K. E., Goldberg P., Zhang S., Zhang Y., Bar-Yosef O., 2017. Environmental reconstruction and dating of Shizitan 29, Shanxi Province: An early microblade site in north China. *Journal of Archaeological Science* 79, 19-35.
- Song Y., Grimaldi S., Santaniello F., Cohen, D. J., Shi J., Bar-Yosef O., 2019. Re-thinking the evolution of microblade technology in East Asia: Techno-functional understanding of the lithic assemblage from Shizitan 29 (Shanxi, China). *PLoS ONE* 14(2), e0212643, 23pp.
- 加藤真二 (2014) 「中国細石刃文化の基礎的研究 —河南省雲井遺跡石器群の分析を中心として—」, 168頁, 平成22年度～平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B) (海外学術調査) 研究成果報告書, 国立文化財機構奈良文化財研究所 (奈良)。
- 加藤真二 (2023) 「中国細石刃石器群の動向」 「第22回 北アジア調査研究報告会要旨集」, 13-16, 北アジア調査研究報告会実行委員会 (江別)。
- 佐藤宏之 (2011) 「荒川台型細石刃石器群の形成と展開 —稜柱系細石刃石器群の生成プロセスを展望して—」 「考古学研究」58(3), 51-68。
- 橋 昌信 (2017) 「大野川流域における細石器文化の研究 —旧大野郡大野町小牧遺跡の調査資料を中心に—」, 95頁, 橋 昌信 (別府)。

付 編

中国細石刃石器群関連文献

A

1. 安志敏 (1965) 「河南安陽小南海旧石器時代洞穴堆積的試掘」『考古學報』1965(1), 1-28。
[安志敏 (1965) 河南安陽小南海旧石器时代洞穴堆积的试掘. 考古学报 1965(1), 1-28]
2. 安志敏 (1978) 「海拉爾的中石器遺存」『考古學報』1978(3), 289-316。
[安志敏 (1978) 海拉尔的中石器遗存. 考古学报 1978(3), 289-316]
3. 安志敏 (1983) 「中国晚期旧石器的碳-14 断代和問題」『人類學學報』2(4), 342-351。
[安志敏 (1983) 中国晚期旧石器的碳-14 断代和问题. 人类学学报 2(4), 342-351]
4. 安志敏 (2000) 「中国細石器發現一百年」『考古』2000(5), 45-56。
[安志敏 (2000) 中国细石器发现一百年. 考古 2000(5), 45-56]
5. 安志敏 (2002) 「中国細石器研究的開拓和成果—紀念裴文中教授逝世 20 周年」『第四紀研究』22(1), 6-10。
[安志敏 (2002) 中国细石器研究的开拓和成果—纪念裴文中教授逝世 20 周年. 第四纪研究 22(1), 6-10]
6. 安志敏·吳汝祚 (1957) 「陝西朝邑大荔沙苑地区的石器時代遺存」『考古學報』1957(1), 1-12。
[安志敏·吴汝祚 (1957) 陕西朝邑大荔沙苑地区的石器时代遗存. 考古学报 1957(1), 1-12]

B

7. 包曙光·王樂文·王禹夫 (2019) 「中俄黑龍江流域考古研究新進展」『黑河學院學報』2019(3), 8-10。
[包曙光·王乐文·王禹夫 (2019) 中俄黑龙江流域考古研究新进展. 黑河学院学报 2019(3), 8-10]
8. 北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2011) 「中原腹地首次發現石葉工業—河南登封西施遺址旧石器時代考古獲重大突破」『中國文物報 文物考古週刊』2011年2月25日号, 4面。
[北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2011) 中原腹地首次发现石叶工业—河南登封西施遗址旧石器时代考古获重大突破. 中国文物报 文物考古周刊 2011年2月25日号, 第4版]
9. 北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2011) 「河南新密市李家溝遺址發掘簡報」『考古』2011(4), 3-9。
[北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2011) 河南新密市李家沟遗址发掘简报. 考古 2011(4), 3-9]
10. 北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2018) 「河南新密李家溝遺址南区 2010 年發掘簡報」『中原文物』2018(6), 38-45。
[北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2018) 河南新密李家沟遗址南区 2010 年发掘简报. 中原文物 2018(6), 38-45]
11. 北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2018) 「2017 年河南登封西施東區旧石器晚期遺址發掘簡報」『中原文物』2018(6), 54-61。
[北京大學考古文博學院·鄭州市文物考古研究院 (2018) 2017 年河南登封西施东区旧石器晚期遗址发掘简报. 中原文物 2018(6), 54-61]
12. 北京師範大學歷史學院·山西省考古研究所 (2019) 「山西沁水水下川遺址小白樺圪梁地點 2015 年發掘報告」『考古學報』2019(3), 383-404。
[北京師範大學歷史學院·山西省考古研究所 (2019) 山西沁水水下川遗址小白樺圪梁地点 2015 年发掘报告. 考古学报 2019(3), 383-404]

13. 北京師範大學歷史學院·山西省考古研究所 (2021) 「山西沁水縣下川遺址富益河圪梁地點 2014 年 T1 發掘簡報」『考古』2021(4), 14-28。
 [北京師範大學歷史學院·山西省考古研究所 (2021) 山西沁水縣下川遺址富益河圪梁地點 2014 年 T1 發掘簡報. 考古 2021(4), 14-28]

C

14. 長春市文物保護研究所·吉林大學邊疆考古研究中心 (2003) 「長春地區 (99) 發現的動物化石和舊石器」『北方文物』2003(2), 1-9。
 [長春市文物保護研究所·吉林大學邊疆考古研究中心 (2003) 長春地區 (99) 發現的動物化石和舊石器. 北方文物 2003(2), 1-9]
15. 常 陽·侯亞梅·楊石霞·張 偉·李有蕓·郝懷東·王雪東·仇立民·岳健平 (2016) 「黑龍江省伊春市桃山遺址 2013 年發掘報告」『人類學學報』35(2), 223-237。
 [常 陽·侯亞梅·楊石霞·張 偉·李有蕓·郝懷東·王雪東·仇立民·岳健平 (2016) 黑龍江省伊春市桃山遺址 2013 年發掘報告. 人類學學報 35(2), 223-237]
16. 陳 淳 (1983) 「中國細石核類型和工藝初探」『人類學學報』2(4), 331-341。
 [陳 淳 (1983) 中國細石核類型和工藝初探. 人類學學報 2(4), 331-341]
17. 陳 淳 (1994) 「東亞與北美細石葉遺存古環境」『第四紀研究』14(4), 369-376。
 [陳 淳 (1994) 東亞與北美細石葉遺存古環境. 第四紀研究 14(4), 369-376]
18. 陳福友·李 罡·李 玉·李 鋒 (2015) 「山東日照黃泥梁遺址 2012 年調查與試掘」『人類學學報』34(1), 21-27。
 [陳福友·李 罡·李 玉·李 鋒 (2015) 山東日照黃泥梁遺址 2012 年調查與試掘. 人類學學報 34(1), 21-27]
19. 陳 虹 (2011) 「華北細石葉工藝的文化適應研究—晉冀地區部分舊石器時代晚期遺址的考古學分析」, 323 頁, 浙江大學出版社 (杭州)。
 [陳 虹 (2011) 華北細石葉工藝的文化適應研究—晉冀地區部分舊石器時代晚期遺址的考古學分析. 323 頁, 浙江大學出版社 (杭州)]
20. 陳全家 (2001) 「吉林鎮賚丹岱大坎子發現的舊石器」『北方文物』2001(2), 1-7。
 [陳全家 (2001) 吉林鎮賚丹岱大坎子發現的舊石器. 北方文物 2001(2), 1-7]
21. 陳全家·張 樂 (2004) 「吉林延邊琿春北山發現的舊石器」『人類學學報』23(2), 138-145。
 [陳全家·張 樂 (2004) 吉林延邊琿春北山發現的舊石器. 人類學學報 23(2), 138-145]
22. 陳全家·趙海龍·霍東峰 (2005) 「和龍柳洞舊石器地點發現的石製品研究」『華夏考古』2005(3), 50-59。
 [陳全家·趙海龍·霍東峰 (2005) 和龍柳洞舊石器地點發現的石製品研究. 華夏考古 2005(3), 50-59]
23. 陳全家·王春雪·宋 麗 (2005) 「吉林大安後套木嘎石製品研究」『邊疆考古研究』4, 1-25, 科學出版社 (北京)。
 [陳全家·王春雪·宋 麗 (2005) 吉林大安後套木嘎石製品研究. 邊疆考古研究 4, 1-25, 科學出版社 (北京)]
24. 陳全家·李有蕓·趙海龍·王春雪 (2006) 「吉林輝南邵家店發現的舊石器」『北方文物』2006(1), 3-9。
 [陳全家·李有蕓·趙海龍·王春雪 (2006) 吉林輝南邵家店發現的舊石器. 北方文物 2006(1), 3-9]

25. 陳全家·王春雪·方 啓·趙海龍 (2006) 「延邊地区和龍石人溝發現的舊石器」[人類學學報] 25(2), 106-114。
[陳全家·王春雪·方 啓·趙海龍 (2006) 延邊地区和龍石人溝發現的舊石器。人類學學報 25(2), 106-114]
26. 陳全家·王春雪·方 啓·胡 鈺·趙海龍 (2006) 「吉林和龍柳洞 2004 年發現的舊石器」[人類學學報] 25(3), 208-219。
[陳全家·王春雪·方 啓·胡 鈺·趙海龍 (2006) 吉林和龍柳洞 2004 年發現的舊石器。人類學學報 25(3), 208-219]
27. 陳全家·方 啓·李 霞·趙海龍·程新民·鄭鍾仁 (2008) 「吉林和龍青頭山舊石器遺址的新發現與初步研究」[考古與文物] 2008(2), 3-9。
[陳全家·方 啓·李 霞·趙海龍·程新民·鄭鍾仁 (2008) 吉林和龍青頭山舊石器遺址的新發現與初步研究。考古與文物 2008(2), 3-9]
28. 陳全家·王春雪 (2008) 「吉林省舊石器考古的新發現」[天道酬勤桃李香—賈蘭坡院士百年誕辰紀念文集], 167-185, 科學出版社 (北京)。
[陳全家·王春雪 (2008) 吉林省舊石器考古的新發現。天道酬勤桃李香—賈蘭坡院士百年誕辰紀念文集, 167-185, 科學出版社 (北京)]
29. 陳全家·王春雪 (2008) 「東北地區近幾年舊石器考古的新發現與研究」[考古學研究] 7, 183-204, 科學出版社 (北京)。
[陳全家·王春雪 (2008) 東北地區近幾年舊石器考古的新發現與研究。考古學研究 7, 183-204, 科學出版社 (北京)]
30. 陳全家·趙海龍·方 啓·程新民·李有蕓·鄭鍾仁 (2008) 「安圖沙金溝舊石器遺址發現的石器研究」[華夏考古] 2008(4), 51-58。
[陳全家·趙海龍·方 啓·程新民·李有蕓·鄭鍾仁 (2008) 安圖沙金溝舊石器遺址發現的石器研究。華夏考古 2008(4), 51-58]
31. 陳全家·趙海龍·劉雪山·李景冰 (2008) 「吉林鎮賚北山遺址發現的石製品研究」[北方文物] 2008(1), 3-10。
[陳全家·趙海龍·劉雪山·李景冰 (2009) 吉林鎮賚北山遺址發現的石製品研究。北方文物 2008(1), 3-10]
32. 陳全家·趙海龍·王春雪 (2009) 「撫松新屯子西山舊石器遺址試掘報告」[人類學學報] 28(2), 147-153。
[陳全家·趙海龍·王春雪 (2009) 撫松新屯子西山舊石器遺址試掘報告。人類學學報 28(2), 147-153]
33. 陳全家·趙海龍·方 啓·王春雪 (2010) 「延邊和龍石人溝舊石器遺址 2005 年試掘報告」[人類學學報] 29(2), 105-114。
[陳全家·趙海龍·方 啓·王春雪 (2010) 延邊和龍石人溝舊石器遺址 2005 年試掘報告。人類學學報 29(2), 105-114]
34. 陳全家·趙海龍·方 啓·賀存定 (2010) 「石人溝林場舊石器地點試掘報告」[人類學學報] 29(4), 373-382。
[陳全家·趙海龍·方 啓·賀存定 (2010) 石人溝林場舊石器地點試掘報告。人類學學報 29(4), 373-382]
35. 陳全家·田 禾·陳曉穎·李有蕓 (2010) 「海林炮台山舊石器遺址發現的石器研究」[邊疆考古研究] 9, 9-24, 科學出版社 (北京)。
[陳全家·田 禾·陳曉穎·李有蕓 (2010) 海林炮台山舊石器遺址發現的石器研究。邊疆考古研究 9, 9-24, 科學出版社 (北京)]

36. 陳全家·趙海龍·方 啓·程新民·賀存定 (2010) 「吉林省和龍西溝發現的旧石器」『北方文物』2010(2), 3-9。
 [陳全家·趙海龍·方 啓·程新民·賀存定 (2010) 吉林省和龍西溝發現的旧石器。北方文物 2010(2), 3-9]
37. 陳全家·趙海龍·盧 悅 (2011) 「吉林兩江鎮旧石器地点發現的石器研究」『草原文物』2011(2), 1-8。
 [陳全家·趙海龍·盧 悅 (2011) 吉林兩江鎮旧石器地点發現的石器研究。草原文物 2011(2), 1-8]
38. 陳全家·田 禾·王 歡 (2013) 「黑龍江省海林市楊林西山旧石器遺址 (2008) 石器研究」『北方文物』2013(2), 3-14。
 [陳全家·田 禾·王 歡 (2013) 黑龍江省海林市楊林西山旧石器遺址 (2008) 石器研究。北方文物 2013(2), 3-14]
39. 陳全家·鄭新成·楊雪松·万晨晨·易宏亮 (2013) 「吉林省扶余市富康東山旧石器地点調查簡報」『草原考古』2013(2), 8-17。
 [陳全家·鄭新成·楊雪松·万晨晨·易宏亮 (2013) 吉林省扶余市富康東山旧石器地点調查簡報。草原考古 2013(2), 8-17]
40. 陳全家·田 禾·陳曉穎·李有壽·王晓陽 (2014) 「秦家東山旧石器地点發現的石器研究」『北方文物』2014(2), 3-11。
 [陳全家·田 禾·陳曉穎·李有壽·王晓陽 (2014) 秦家東山旧石器地点發現的石器研究。北方文物 2014(2), 3-11]
41. 陳全家·趙海龍·王晓陽 (2014) 「石人溝旧石器遺址 2007 年發現的石器研究」『華夏考古』2014(4), 50-57。
 [陳全家·趙海龍·王晓陽 (2014) 石人溝旧石器遺址 2007 年發現的石器研究。華夏考古 2014(4), 50-57]
42. 陳全家·李有壽·崔許文·常志強 (2017) 「鷄西梨樹河口東山地点發現的旧石器」『文物春秋』2017(2), 37-45。
 [陳全家·李有壽·崔許文·常志強 (2017) 鷄西梨樹河口東山地点發現的旧石器。文物春秋 2017(2), 37-45]
43. 陳全家·崔許文·李有壽·倪春野 (2018) 「穆稜八面通四平山第三地点發現的旧石器」『文物春秋』2018(2), 21-29。
 [陳全家·崔許文·李有壽·倪春野 (2018) 穆稜八面通四平山第三地点發現的旧石器。文物春秋 2018(2), 21-29]
44. 陳全家·楊樞通·林 森·申左君 (2018) 「寧安紅岩北山旧石器地点石器研究」『地域文化研究』2018(2), 81-89, 155。
 [陳全家·楊樞通·林 森·申左君 (2018) 寧安紅岩北山旧石器地点石器研究。地域文化研究 2018(2), 81-89, 155]
45. 陳全家·楊樞通·林 森·申左君·李有壽 (2018) 「寧安江富西山旧石器地点石器研究」『第十六届中国古脊椎動物學學術年會論文集』, 205-216, 海洋出版社 (北京)。
 [陳全家·楊樞通·林 森·申左君·李有壽 (2018) 寧安江富西山旧石器地点石器研究。第十六届中国古脊椎動物學學術年會論文集, 205-216, 海洋出版社 (北京)]
46. 陳全家·崔許文·李有壽·常志強 (2019) 「黑龍江鷄西市山河西山地点發現的旧石器」『北方文物』2019(2), 3-8。
 [陳全家·崔許文·李有壽·常志強 (2019) 黑龍江鷄西市山河西山地点發現的旧石器。北方文物 2019(2), 3-8]

47. 陳全家·李万博·李有壽·倪春野 (2019) 「穆稜碱場劈山旧石器地点的石器研究」《華夏考古》2019 (1), 60-71, 86。

[陈全家·李万博·李有壽·倪春野 (2019) 穆稜碱場劈山旧石器地点的石器研究. 华夏考古2019(1), 60-71, 86]

48. 陳全家·林 森·李有壽·楊枢通·申左君 (2019) 「黑龍江寧安市牛場北山旧石器地点石器研究」《科技考古与文物保护技术》2, 1-13, 科学出版社 (北京)。

[陈全家·林 森·李有壽·楊枢通·申左君 (2019) 黑龙江宁安市牛場北山旧石器地点石器研究. 科技考古与文物保护技术2. 1-13, 科学出版社 (北京)]

49. 陳全家·魏天旭·宋吉富·楊枢通·李有壽 (2019) 「東寧嶺后北山發現的旧石器」《地域文化研究》2019 (3), 128-136。

[陈全家·魏天旭·宋吉富·楊枢通·李有壽 (2019) 东宁嶺后北山发现的旧石器. 地域文化研究 2019 (3), 128-136]

50. 陳全家·林 森·李有壽·楊枢通 (2020) 「牡丹江流域旧石器工業研究」《边疆考古研究》28, 87-112, 科学出版社 (北京)。

[陈全家·林 森·李有壽·楊枢通 (2020) 牡丹江流域旧石器工业研究. 边疆考古研究 28, 87-112, 科学出版社 (北京)]

51. 陳全家·劉石拓·李有壽·倪春野 (2020) 「共和勝利北山旧石器地点的石器研究」《北方民族考古》10, 1-15, 科学出版社 (北京)。

[陈全家·劉石拓·李有壽·倪春野 (2020) 共和勝利北山旧石器地点的石器研究. 北方民族考古 10, 1-15, 科学出版社 (北京)]

52. 陳全家·魏天旭·宋吉富·楊枢通·李有壽 (2020) 「東寧太平溝兩處旧石器地点的石器研究」《科技考古与文物保护技术》3, 1-9, 科学出版社 (北京)。

[陈全家·魏天旭·宋吉富·楊枢通·李有壽 (2020) 东宁太平溝兩處旧石器地点的石器研究. 科技考古与文物保护技术3.1-9. 科学出版社 (北京)]

53. 陳全家·楊枢通·林 森·李有壽·申左君 (2020) 「寧安北安南山旧石器地点石器研究」《文物春秋》2020 (2), 79-88。

[陈全家·楊枢通·林 森·李有壽·申左君 (2020) 宁安北安南山旧石器地点石器研究. 文物春秋 2020 (2), 79-88]

54. 陳全家·魏天旭·宋吉富 (2021) 「黑龍江東寧市五排南山旧石器地点發現的石器研究」《北方文物》2021 (2), 3-12。

[陈全家·魏天旭·宋吉富 (2021) 黑龙江东宁市五排南山旧石器地点发现的石器研究. 北方文物 2021 (2), 3-12]

55. 陳全家·魏天旭·宋吉富·楊枢通·李有壽 (2021) 「東寧蔬菜村三个旧石器地点發現的石器研究」《文物春秋》2021 (2), 41-49。

[陈全家·魏天旭·宋吉富·楊枢通·李有壽 (2021) 东宁蔬菜村三个旧石器地点发现的石器研究. 文物春秋2021(2), 41-49]

56. 陳全家·魏天旭·宋吉富·楊樞通·李有壽 (2021) 「東寧道河東村北山旧石器地点の石器研究」『北方民族考古』11, 159-173, 科学出版社(北京)。
[陳全家·魏天旭·宋吉富·楊樞通·李有壽 (2021) 东宁道河东村北山旧石器地点の石器研究. 北方民族考古 11, 159-173, 科学出版社(北京)]
57. 陳勝前 (2006) 「中国狩猟採集者の模擬研究」『人類学学報』25(1), 42-55。
[陳勝前 (2006) 中国狩猟採集者の模擬研究. 人类学学报 25(1), 42-55]
58. 陳勝前 (2006) 「中国北方晚更新世人类的适应变迁与辐射」『第四紀研究』26(4), 522-532。
[陳勝前 (2006) 中国北方晚更新世人类的适应变迁与辐射. 第四纪研究 26(4), 522-532]
59. 陳勝前 (2006) 「中国晚更新世—早全新世過渡期狩猟採集者の适应变迁」『人類学学報』25(3), 195-207。
[陳勝前 (2006) 中国晚更新世—早全新世過渡期狩猟採集者の适应变迁模拟研究. 人类学学报 25(1), 42-55]
60. 陳勝前 (2008) 「細石葉工藝の起源——個理論与生態的視角」『考古学研究』7, 244-264, 科学出版社(北京)。
[陳勝前 (2008) 細石葉工藝の起源——一个理论与生态的視角. 考古学研究 7, 244-264, 科学出版社(北京)]
61. 陳勝前 (2008) 「細石葉工藝產品廢棄的文化過程研究」『人類学学報』27(3), 210-222。
[陳勝前 (2008) 細石葉工藝產品廢棄的文化过程研究. 人类学学报 27(3), 210-222]
62. 陳勝前 (2022) 「考古学“透物見人”的概念構建——以旧石器考古为例」『考古学研究』13(上), 18-27, 科学出版社(北京)。
[陳勝前 (2022) 考古学“透物見人”的概念構建——以旧石器考古为例. 考古学研究 13(上), 18-27, 科学出版社(北京)]
63. 陳宥成 (2023) 「中西比較視野下旧石器時代石器技術演化研究」, 239 頁, 科学出版社(北京)。
[陳宥成 (2023) 中西比較視野下旧石器時代石器技術演化研究, 239 頁, 科学出版社(北京)]
64. 陳宥成·李有壽 (2022) 「黑龍江海林市密東旧石器遺址石器初步研究」『北方文物』2022(4), 20-26。
[陳宥成·李有壽 (2022) 黑龍江海林市密東旧石器遺址石器初步研究. 北方文物 2022(4), 20-26]
65. 陳宥成·曲彤麗 (2012) 「試析華北地区距今 1 万年左右的社会複雜現象」『中原文物』2012(3), 20-26。
[陳宥成·曲彤麗 (2012) 试析华北地区距今 1 万年左右的社会复杂现象. 中原文物 2012(3), 20-26]
66. 陳宥成·曲彤麗 (2018a) 「旧大陸東西方比較視野下的細石器起源再討論」『華夏考古』2018(5), 37-43, 69。
[陳宥成·曲彤麗 (2018a) 旧大陆东西方比較視野下的細石器起源在讨论. 华夏考古 2018(5), 37-43, 69]
67. 陳宥成·曲彤麗 (2018b) 「“石葉技術”相關問題的討論」『考古』2018(10), 76-84。
[陳宥成·曲彤麗 (2018b) “石葉技術”相關問題的讨论. 考古 2018(10), 76-84]
68. 陳宥成·曲彤麗 (2020a) 「旧大陸視野下的中国旧石器晚期小型兩面器溯源」『人類学学報』39(1), 21-29。
[陳宥成·曲彤麗 (2020a) 旧大陆視野下的中国旧石器晚期小型兩面器溯源. 人类学学报 39(1), 21-29]
69. 陳宥成·曲彤麗 (2020b) 「旧大陸東西方比較視野下磨制石器起源探討」『考古』2020(10), 78-89。
[陳宥成·曲彤麗 (2020b) 旧大陆东西方比較視野下磨制石器起源讨论. 考古 2020(10), 78-89]
70. 陳宥成·曲彤麗 (2021) 「試論旧大陸旧石器時代琢背刀」『北方文物』2021(4), 24-32。
[陳宥成·曲彤麗 (2021) 试论旧大陆旧石器時代琢背刀. 北方文物 2021(4), 24-32]

71. 陳宥成·曲彤麗 (2022) 「試論華北旧石器時代晚期細石核的類型、組合与分期」《考古》2022(1), 75-83。
[陳宥成·曲彤麗 (2022) 试论华北旧石器时代晚期细石核的类型、组合与分期。考古 2022(1), 75-83]
72. 陳哲英 (1996) 「下川遺址的新材料」《中原文物》1996(4), 1-22。
[陳哲英 (1996) 下川遗址的新材料。中原文物 1996(4), 1-22]
73. 陳哲英 (2003) 「中国細石器起源於華北的新証据—塔水河石製品再認識」《中国史前考古学研究—祝賀石興邦先生考古半世紀暨八秩華誕文集》, 132-144, 三秦出版社(西安)。
[陳哲英 (2003) 中国细石器起源于华北的新证据—搭水河石制品再认识。中国史前考古研究—祝贺石兴邦先生考古半世纪暨八秩华诞文集, 132-144, 三秦出版社(西安)]
74. 陳哲英·丁來普 (1984) 「山西懷仁窰子頭的細石器遺存」《史前研究》1984(4), 63-69。
[陳哲英·丁來普 (1984) 山西怀仁窰子头的细石器遗存。史前研究 1984(4), 63-69]
75. 陳哲英·梁宏剛 (1990) 「山西陵川縣大泉頭發現細石器」《華夏考古》1990(2), 9-10。
[陳哲英·梁宏剛 (1990) 山西陵川县大泉头发现细石器。华夏考古 1990(2), 9-10]
76. 陳哲英·王大明 (1998) 「山西榆社東形影的細石器」《史前研究 西安半坡博物館成立四十周年紀念文集》, 23-34, 三秦出版社(西安)。
[陳哲英·王大明 (1998) 山西榆社东形影的细石器。史前研究 西安半坡博物馆成立四十周年纪念文集, 23-34, 三秦出版社(西安)]
77. 陳哲英·吳永春 (1984) 「山西天鎮縣樓子町發現細石器」《考古与文物》1984(3), 1-4。
[陳哲英·吳永春 (1984) 山西天镇县楼子町发现细石器。考古与文物 1984(3), 1-4]
78. 陳哲英·王清詩·解廷琦 (1985) 「山西大同高山鎮之細石器」《史前研究》1985(2), 56-62。
[陳哲英·王清詩·解廷琦 (1985) 山西大同高山镇之细石器。史前研究 1985(2), 56-62]
79. 程新民·陳全家 (1993) 「長春郊區紅嘴子發現哺乳動物化石和旧石器」《長春地質學院學報》23(2), 160-164。
[程新民·陳全家 (1993) 长春郊区红嘴子发现哺乳动物化石和旧石器, 长春地质学院学报 23(2), 160-164]
80. 程新民·陳全家·趙海龍·李 陽·丁 未 (2008) 「吉林省東部旧石器時代人地關係初探」《邊疆考古研究》7, 1-9, 科学出版社(北京)。
[程新民·陳全家·赵海龙·李 阳·丁 未 (2008) 吉林省东部旧石器时代人地关系初探。边疆考古研究 7, 1-9, 科学出版社(北京)]
- D**
81. 陶富海·王益人 (1995) 「丁村遺址群再次發現細石器文化地点」《文物季刊》1995(1), 1-4。
[陶富海·王益人 (1995) 丁村遗址群再次发现细石器文化地点。文物季刊 1995(1), 1-4]
82. 鄧 聰 (2018) 「雕刻器情牽萬里—長憶王建先生」《珞珈集 王建先生 90 周年誕辰紀念文集》, 23-92, 三晉出版社(太原)。
[鄧 聰 (2018) 雕刻器情牵万里—长忆王建先生。珞珈集—王建先生 90 周年诞辰纪念文集, 23-92, 三晋出版社(太原)]
83. 丁建平 (2004) 「薛關遺址的尖狀器」《文物世界》2004(6), 19-22。
[丁建平 (2004) 薛关遗址的尖状器。文物世界 2004(6), 19-22]

84. 丁建平 (2009) 「薛關遺址刮削器的再觀察」『文物世界』2009(4), 9-14。
[丁建平 (2009) 薛關遺址刮削器的再觀察. 文物世界 2009(4), 9-14]
85. 董祝安 (1987) 「大布蘇的旧石器」『人類學學報』8(1), 49-57。
[董祝安 (1987) 大布蘇的旧石器. 人類學學報 8(1), 49-57]
86. 杜水生 (2003) 「泥河灣盆地旧石器中晚期石製品原料初步分析」『人類學學報』23(2), 121-130。
[杜水生 (2003) 泥河灣盆地旧石器中晚期石製品原料初步分析. 人類學學報 23(2), 121-130]
87. 杜水生 (2004) 「模型石核的類型劃分与細石器起源」『人類學學報』23 增刊 (紀念裴文中教授百年誕辰論文集), 211-222。
[杜水生 (2004) 模型石核的類型劃分与細石器起源. 人類學學報 23 增刊 (紀念裴文中教授百年誕辰論文集, 211-222)]
88. 杜水生 (2007a) 「華北北部旧石器文化」, 309 頁, 商務印書館 (北京)。
[杜水生 (2007a) 華北北部旧石器文化. 309 頁, 商務印書館 (北京)]
89. 杜水生 (2007b) 「泥河灣盆地旧石器時代晚期社会組織結構分析」『山西大學學報 (哲学社会科学版)』30(5), 66-69。
[杜水生 (2007b) 泥河灣盆地旧石器時代晚期社会组织結構分析. 山西大學學報 (哲学社会科学版) 30(5), 66-69]
90. 杜水生 (2017) 「下川遺址新發現对北方細石器体系研究的意義—《北方細石器技術体系与下川遺址考古新發現》學術研讨会綜述」『史学史研究』2017(4), 121-123。
[杜水生 (2017) 「下川遺址新發現对北方細石器体系研究的意義—《北方細石器技術体系与下川遺址考古新發現》學術研讨会綜述. 史学史研究 2017(4), 121-123]
91. 杜水生 (2021a) 「連續与断裂—重新認識下川遺址在中国旧石器文化研究上的意義」『第四紀研究』41(1), 153-163。
[杜水生 (2021a) 連續与断裂—重新認識下川遺址在中国旧石器文化研究上的意義. 第四紀研究 41(1), 153-163]
92. 杜水生 (2021b) 「中国北方旧石器時代的文化交流与人群遷移」『边疆考古研究』30, 71-83, 科学出版社 (北京)。
[杜水生 (2021b) 中国北方旧石器時代的文化交流与人群遷移. 边疆考古研究 30, 71-83, 科学出版社 (北京)]
93. 杜水生·張 婷·任海雲 (2023) 「2014 年山西下川遺址富益河圪梁地点 3 号探方的發掘報告」『人類學學報』42(5), 638-650。
[杜水生·張 婷·任海雲 (2023) 2014 年山西下川遺址富益河圪梁地点 3 号探方的發掘報告. 人類學學報 42(5), 638-650]
94. 多文忠 (2014) 「齊齊哈爾市梅里斯黑崗子旧石器時代晚期遺址」『理論觀察』2014(1), 72-73。
[多文忠 (2014) 齊齊哈爾市梅里斯黑崗子旧石器時代晚期遺址. 理論觀察 2014(1), 72-73]

F

95. 鄂爾多斯市文物考古研究院·中国科学院古脊椎動物与古人類研究所·中山大学社会学与人類学院 (2022) 『鄂爾多斯烏蘭木倫河流域旧石器考古調查与試掘報告』, 217 頁, 科学出版社 (北京)。
[鄂爾多斯市文物考古研究院·中国科学院古脊椎動物与古人類研究所·中山大学社会学与人類学院 (2022) 鄂爾多斯烏蘭木倫河流域旧石器考古調查与試掘報告, 217 頁, 科学出版社 (北京)]

F

96. 方 啓 (2019) 『吉林省東部地区黑曜岩石器微痕研究』, 179 頁, 科学出版社 (北京)。
[方 啓 (2019) 吉林省東部地区黑曜岩石器微痕研究, 179 頁, 科学出版社 (北京)]
97. 方 啓 (編) (2022) 『旧石器時代考古』, 413 頁, 高等教育出版社 (北京)。
[方 啓 (編) (2022) 旧石器時代考古, 413 頁, 高等教育出版社 (北京)]
98. 房迎三·項劍雲·紀達凱 (2004) 『連雲港錦屏山麓的打製石器及相關問題討論』 『人類學學報』 23 增刊 (紀念裴文中教授百年誕辰論文集), 188-198。
[房迎三·項劍雲·紀達凱 (2004) 連雲港錦屏山麓的打製石器及相關問題討論, 人類學學報 23 增刊 (紀念裴文中教授百年誕辰論文集), 188-198]
99. 房迎三·惠 強·項劍雲·駱 琳·劉鎮強 (2008) 『江蘇連雲港將軍崖旧石器時代晚期遺址的考古發掘与收穫』 『東南文化』 2008(1), 14-19。
[房迎三·惠 強·項劍雲·駱 琳·劉鎮強 (2008) 『江蘇連雲港將軍崖旧石器時代晚期遺址的考古發掘与收穫』, 東南文化 2008(1), 14-19]
100. 馮興無·李超榮·郝金城 (2006) 『王府井東方廣場石製品研究』 『人類學學報』 25(4), 285-298。
[馮興無·李超榮·郝金城 (2006) 王府井東方廣場石製品研究, 人類學學報 25(4), 285-298]
101. 傅仁義 (2004) 『關於東北旧石器向新石器過渡時期幾個問題的探討』 『第九屆中國古脊椎動物學學術年會論文集』, 253-261, 海洋出版社 (北京)。
[傅仁義 (2004) 關於東北旧石器向新石器過渡時期幾個問題的探討, 第九屆中國古脊椎動物學學術年會論文集, 253-261, 海洋出版社 (北京)]
102. 付永平·陳全家·袁文明 (2019) 『瀋陽葦子溝白虎山旧石器地點發現的石器研究』 『西部考古』 17, 1-12, 科学出版社 (北京)。
[付永平·陳全家·袁文明 (2019) 瀋陽葦子溝白虎山旧石器地點發現的石器研究, 西部考古 17, 1-12, 科学出版社 (北京)]

G

103. 蓋 培 (1977) 『從華北到美洲』 『化石』 1977(2), 1-4。
[蓋 培 (1977) 從華北到美洲, 化石 1977(2), 1-4]
104. 蓋 培 (1977) 『黃河之水通江戶』 『化石』 1977(3), 2-4。
[蓋 培 (1977) 黃河之水通江戶, 化石 1977(3), 2-4]
105. 蓋 培 (1984) 『陽原石核的動態類型學研究及其工藝思想分析』 『人類學學報』 3(3), 244-252。
[蓋 培 (1984) 陽原石核的動態類型學研究及其工藝思想分析, 人類學學報 3(3), 244-252]

106. 蓋 培 (2002) 「談談細石器一詞的涵義」[中国科学院古脊椎動物与古人類研究所 20 世紀旧石器時代考古学研究], 11-12, 文物出版社 (北京)。
[蓋 培 (2002) 谈谈细石器一詞的涵義。中国科学院古脊椎動物与古人類研究所 20 世紀旧石器時代考古学研究, 11-12, 文物出版社 (北京)]
107. 蓋 培·王國道 (1983) 「黄河上流拉乙亥中石器時代遺址發掘報告」[人類學學報] 2(1), 49-59。
[蓋 培·王國道 (1983) 黄河上流拉乙亥中石器時代遺址發掘報告。人類學學報 2(1), 49-59]
108. 蓋 培·衛 奇 (1977) 「虎頭梁旧石器時代晚期遺址的發現」[古脊椎動物与古人類] 15(4), 287-300。
[蓋 培·衛 奇 (1977) 虎頭梁旧石器時代晚期遺址的發現。古脊椎動物与古人類 15(4), 287-300]
109. 甘肅大地灣文物保護研究所 (編) (2016) 「大地灣遺址研究文集」, 476 頁, 敦煌文芸出版社 (蘭州)。
[甘肅大地灣文物保護研究所 (編) (2016) 大地灣遺址研究文集, 476 頁, 敦煌文芸出版社 (蘭州)]
110. 高 瑤·王 華 (2021) 「中国北方地区更新世晚期到全新世早期動物生態研究綜述」[東方考古] 18, 263-277。
[高 瑤·王 華 (2021) 「中国北方地区更新世晚期到全新世早期動物生態研究綜述」[東方考古] 18, 263-277]
111. 高 星 (1990) 「陝西大荔青紅河村旧石器地点」[考古學報] 1990(2), 187-203。
[高 星 (1990) 陝西大荔青紅河村旧石器地点。考古學報 1990(2), 187-203]
112. 高 星·尤玉柱·吳志清 (1991) 「山西榆次大發細石器地点」[人類學學報] 10(2), 147-154。
[高 星·尤玉柱·吳志清 (1991) 山西榆次大發細石器地点。人類學學報 10(2), 147-154]
113. 高 星·周振宇·閻 瑩 (2008) 「青藏高原邊緣地区晚更新世人類遺存与生存模式」[第四紀研究] 28(6), 969-977。
[高 星·周振宇·閻 瑩 (2008) 青藏高原邊緣地区晚更新世人類遺存与生存模式。第四紀研究 28(6), 969-977]
114. 高 星·王惠民·劉德成·裴樹文·陳福友·張曉凌·張 樂 (2009) 「水洞溝第 12 地点古人類用火研究」[人類學學報] 28(4), 329-336。
[高 星·王惠民·劉德成·裴樹文·陳福友·張曉凌·張 樂 (2009) 水洞溝第 12 地点古人類用火研究。人類學學報 28(4), 329-336]
115. 高 星·王惠民·賀吉德 (2011) 「水洞溝一穿越遠古与現代」, 159 頁, 科学出版社 (北京)。
[高 星·王惠民·賀吉德 (2011) 水洞溝一穿越遠古与現代, 159 頁, 科学出版社 (北京)]
116. 葛治功·林一璞 (1985) 「大賢莊的中石器時代細石器」[東南文化] 1, 2-27。
[葛治功·林一璞 (1985) 大賢莊的中石器時代細石器。東南文化 1, 2-27]
117. 閻 瑩·周振宇·王曉敏·葛俊逸·謝 飛·高 星 (2021) 河北陽原泥河灣盆地籍箕灘遺址發現的新材料」[人類學學報] 40(1), 137-145。
[閻 瑩·周振宇·王曉敏·葛俊逸·謝 飛·高 星 (2021) 河北陽原泥河灣盆地籍箕灘遺址發現的新材料。人類學學報 40(1), 137-145]
118. 閻 瑩·李有壽·邢 松·黃立平·程 力·周振宇 (2021) 「黑龍江省甘南縣旧石器地点發現的新材料」[人類學學報] 40(2), 281-291。
[閻 瑩·李有壽·邢 松·黃立平·程 力·周振宇 (2021) 黑龍江省甘南縣旧石器地点發現的新材料。人類學學報 40(2), 281-291]

119. 韓 榕 (1985) 「臨沂市青峰嶺細石器遺存」《中國考古學年鑑 1985》, 155, 文物出版社 (北京)。
[韓 榕 (1985) 臨沂市青峰嶺細石器遺存, 中國考古學年鑑 1985, 155, 文物出版社 (北京)]
120. 何銀宇 (2008) 「關於細石器技法起源的一點看法」《四川文物》2008 (2), 38-43。
[何銀宇 (2008) 關於細石器技法起源的一點看法, 四川文物 2008 (2), 38-43]
121. 河文植 (2009) 「圖們江流域及其周邊地區旧石器時代晚期文化」《博物館研究》2009 (2), 46-50。
[河文植 (2009) 圖們江流域及其周邊地區旧石器時代晚期文化, 博物館研究 2009 (2), 46-50]
122. 河北省文物研究所 (1989) 「燕山南麓發現細石器遺址」《考古》1989 (11), 967-970。
[河北省文物研究所 (1989) 燕山南麓發現細石器遺址, 考古 1989 (11), 967-970]
123. 河北省文物研究所 (1989) 「河北陽原西白馬營晚期旧石器研究」《文物春秋》1989 (3), 13-26。
[河北省文物研究所 (1989) 河北陽原西白馬營晚期旧石器研究, 文物春秋 1989 (3), 13-26]
124. 河北省文物研究所 (1990) 「益塔泉旧石器調查簡報」《文物春秋》1990 (3), 1-3。
[河北省文物研究所 (1990) 益塔泉旧石器調查簡報, 文物春秋 1990 (3), 1-3]
125. 河北省文物研究所 (1993) 「籍箕灘旧石器時代晚期遺址發掘簡報」《文物春秋》1993 (2), 1-22。
[河北省文物研究所 (1993) 籍箕灘旧石器時代晚期遺址發掘簡報, 文物春秋 1993 (2), 1-22]
126. 河北省文物研究所·唐山市文物管理所·玉田縣文保所 (1991) 「河北玉田縣孟家泉旧石器遺址發掘簡報」《文物春秋》1991 (1), 1-13。
[河北省文物研究所·唐山市文物管理所·玉田縣文保所 (1991) 河北玉田縣孟家泉旧石器遺址發掘簡報, 文物春秋 1991 (1), 1-13]
127. 河北省文物研究所·秦皇島文物管理處·昌黎縣文物保管所 (1992) 「河北昌黎淨酒澗細石器地點」《文物春秋》1992 增刊, 121-127。
[河北省文物研究所·秦皇島文物管理處·昌黎縣文物保管所 (1992) 河北昌黎淨酒澗細石器地點, 文物春秋 1992 增刊, 121-127]
128. 河北省文物考古研究院·張家口市文物考古研究所·尚義縣文化广电和旅游局 (2023) 「河北尚義縣四台新石器時代遺址」《考古》2023 (7), 14-28。
[河北省文物考古研究院·張家口市文物考古研究所·尚義縣文化广电和旅游局 (2023) 河北尚義縣四台新石器時代遺址, 考古 2023 (7), 14-28]
129. 河南省文物考古研究院·日本奈良文化財研究所 (2018) 「靈井許昌人遺址第 5 層細石器 2008-2013 年發掘報告」《華夏考古》2018 (2), 3-31。
[河南省文物考古研究院·日本奈良文化財研究所 (2018) 靈井許昌人遺址第 5 層細石器 2008-2013 年發掘報告, 華夏考古 2018 (2), 3-31]
130. 黑龍江省文物考古研究所 (1961) 「嫩江沿岸細石器文化遺址調查」《考古》1961 (10), 534-543。
[黑龍江省文物考古研究所 (1961) 嫩江沿岸細石器文化遺址調查, 考古 1961 (10), 534-543]
131. 黑龍江省文物考古研究所 (1996) 「黑龍江省呼瑪老卡遺址調查簡報」《北方文物》1996 (2), 19-22。
[黑龍江省文物考古研究所 (1996) 黑龍江省呼瑪老卡遺址調查簡報, 北方文物 1996 (2), 19-22]
132. 黑龍江省文物考古研究所 (2011) 「考古·黑龍江」, 303 頁, 文物出版社 (北京)。
[黑龍江省文物考古研究所 (2011) 考古·黑龍江, 303 頁, 文物出版社 (北京)]

133. 黒龍江省文物考古研究所 (2014) 「黒龍江省伊春利民旧石器遺址調査与試掘簡報」『草原文物』2014(2), 1-4。

[黒龍江省文物考古研究所(2014)黒龍江省伊春利民旧石器遺址調査与試掘簡報. 草原文物 2014(2), 1-4]

134. 黒龍江省文物考古研究所・饒河県文物保護中心 (2022) 「黒龍江省饒河県八五九農場南山旧石器遺址考古調査報告」『北方文物』2022(3), 3-9。

[黒龍江省文物考古研究所・饒河県文物保護中心 (2022) 黒龍江省饒河八五九農場南山旧石器遺址考古調査報告. 北方文物 2022(3), 3-9]

135. 黒龍江省文物考古研究所 (2023) 「黒龍江省海林大龍頭山旧石器遺址発掘簡報」『華夏考古』2023(1), 3-15, 61。

[黒龍江省文物考古研究所 (2023) 黒龍江省海林大龍頭山旧石器遺址発掘簡報. 華夏考古 2023(1), 3-15, 61]

136. 黒龍江省文物考古研究所 (2023) 「黒龍江尚志市二里地旧石器時代遺址発掘簡報」『北方文物』2023(4), 3-8。

[黒龍江省文物考古研究所(2023)黒龍江尚志市二里地旧石器時代遺址発掘簡報. 北方文物 2023(4), 3-8]

137. 胡秉華 (1991) 「泰山西南麓細石器遺存」『中国考古学年鑑 1990』, 231-232. 文物出版社 (北京)。

[胡秉華 (1991) 泰山西南麓細石器遺存. 中国考古学年鑑 1990, 231-232. 文物出版社 (北京)]

138. 黄驊細石器調査小組 (1989) 「河北黄驊発現の細石器」『考古』1989(6), 481-488。

[黄驊細石器調査小組 (1989) 河北黄驊発現の細石器. 考古 1989(6), 481-488]

139. 黄慰文・張鎮洪・繆振棣・于海明・初本君・高振操 (1984) 「黒龍江昂昂溪の旧石器」『人類学学報』3(3), 234-243。

[黄慰文・張鎮洪・繆振棣・于海明・初本君・高振操 (1984) 黒龍江昂昂溪の旧石器. 人類学学報 3(3), 234-243]

2

140. 吉林大学考古学院・東寧県文物管理所・牡丹江市文物管理站・黒龍江省文物考古研究所 (2019) 「黒龍江省牡丹江市東寧道河発現の旧石器」『草原文物』2019(2), 1-11。

[吉林大学考古学院・東寧県文物管理所・牡丹江市文物管理站・黒龍江省文物考古研究所 (2019) 黒龍江省牡丹江市東寧道河発現の旧石器. 草原文物 2019(2), 1-11]

141. 吉林大学考古学院・黒龍江省文物考古研究所 (2022) 「黒龍江東寧市太平溝東山旧石器地点調査簡報」『北方文物』2022(6), 3-11。

[吉林大学考古学院・黒龍江省文物考古研究所 (2022) 黒龍江東寧市太平溝東山旧石器地点調査簡報. 北方文物 2022(6), 3-11]

142. 吉林大学考古学院・黒龍江省文物考古研究所・中国科学院古脊椎動物与古人類研究所 (2019) 「黒龍江龍江県西山頭旧石器時代遺址」『考古』2019(11), 3-13。

[吉林大学考古学院・黒龍江省文物考古研究所・中国科学院古脊椎動物与古人類研究所 (2019) 黒龍江龍江県西山頭旧石器時代遺址. 考古 2019(11), 3-13]

143. 吉林省文物工作隊 (1983) 「內蒙古科爾沁右翼中旗嘎查石器時代遺址的調查」《考古》1983(3), 673-678。
 [吉林省文物工作队 (1983) 內蒙古科爾沁右翼中旗嘎查石器时代遗址的调查. 考古 1983(3), 673-678]
144. 吉林省文物考古研究所·和龍市文物管理所 (2018) 「吉林省和龍新發現三處旧石器時代遺址」《邊疆考古研究》23, 1-9, 科学出版社 (北京)。
 [吉林省文物考古研究所·和龍市文物管理所 (2018) 吉林省和龍新发现三处旧石器时代遗址. 边疆考古研究 23, 1-9, 科学出版社 (北京)]
145. 吉林省文物考古研究所·吉林大学考古学院 (2021) 「2019年吉林省布尔哈通河流域 (龍井—延吉段) 旧石器考古調查報告」《地域文化研究》2021(4), 111-119。
 [吉林省文物考古研究所·吉林大学考古学院 (2021) 2019年吉林省布尔哈通河流域 (龙井—延吉段) 旧石器考古调查报告. 地域文化研究 2021(4), 111-119]
146. 吉林省文物考古研究所·浙大城市学院·龍井市文物管理所 (2022) 「吉林龍井市桃源遺址發掘簡報」《北方文物》2022(6), 12-19。
 [吉林省文物考古研究所·浙大城市学院·龙井市文物管理所 (2022) 吉林龙井市桃源遗址发掘简报. 北方文物 2022(6), 12-19]
147. 吉篤学·陳發虎·Bettinger R. L.·Elston R. G.·耿志強·Barton L.·王 輝·安成邦·張東菊 (2005) 「末次盛冰期環境惡化对中国北方旧石器文化的影響」《人類學學報》24(4), 270-282。
 [吉笃学·陈发虎·Bettinger R. L.·Elston R. G.·耿志强·Barton L.·王辉·安成邦·张东菊 (2005) 「末次盛冰期环境恶化对中国北方旧石器文化的影响」《人类学学报》24(4), 270-282]
148. 賈蘭坡 (1978) 「中国細石器的特徵和它的傳統、起源与分布」《古脊椎動物与古人类》16(2), 137-143。
 [贾兰坡 (1978) 「中国细石器的特征和它的传统、起源与分布. 古脊椎动物与古人类 16(2), 137-143]
149. 賈文亮·王大明·陳哲英 (1989) 「山西榆社崑崙峽的細石器」《文物季刊》1989(1), 14-17。
 [贾文亮·王大明·陈哲英 (1989) 山西榆社县崑崙峽的细石器. 文物季刊 1989(1), 14-17]
150. 加藤真二 (1993) 「日本学者对日本列島及周圍地区旧石器時代考古學现状之我見」《北方文物》1993(1), 101-108。
 [加藤真二 (1993) 日本学者对日本列岛及周围地区旧石器时代考古学现状之我见. 北方文物 1993(1), 101-108]
151. 加藤真二 (1997) 「对日本、渤海湾周圍地区細石葉文化的幾点認識」《考古学文化論集》4, 20-26, 文物出版社 (北京)。
 [加藤真二 (1997) 对日本、渤海湾周围地区细石叶文化的几点认识. 考古学文化论集 4, 20-26, 文物出版社 (北京)]
152. 加藤真二 (2015) 「試論華北細石器工業的出現」《華夏考古》2015(2), 56-67。
 [加藤真二 (2015) 试论华北细石器工业的出现. 华夏考古 2015(2), 56-67]
153. 蔣 璐·朱永剛 (2004) 「查乾木倫河下游細石器初步分析」《邊疆考古研究》2, 66-87, 科学出版社 (北京)。
 [蒋璐·朱永刚 (2004) 「查干木伦河下游细石器初步分析. 边疆考古研究 2, 66-87, 科学出版社 (北京)]
154. 姜 鵬 (1997) 「中国吉林乾安大布蘇細石製品工藝学的研究」《韓國先史考古學報》4, 145-151。
 [姜鹏 (1997) 中国吉林乾安大布苏细石制品工艺学的研究」《韓國先史考古學報》4, 145-151]

155. 傑列維揚科 A. P.·沃爾科夫 P. B.·李憲宗 (李有憲 訳) (2013) 『謝列姆賈旧石器時代晚期文化』, 396 頁, 科学出版社 (北京)。
[杰列维扬科 A. P.·沃尔科夫 P. B.·李宪宗 (李有宪 译) (2013) 『谢列姆贾旧石器时代晚期文化』, 396 页, 科学出版社 (北京)]
156. 金家広·郁金城 (2001) 『南荘頭与華北平原一環渤海地区新石器時代早期文化』 『蘇秉琦与当代中国考古学』, 59-75, 科学出版社 (北京)。
[金家广·郁金城 (2001) 『南庄头与华北平原一环渤海地区新石器时代早期文化』 苏秉琦与当代中国考古学, 59-75, 科学出版社 (北京)]
157. 新英帥·張曉凌·儀明潔 (2021) 『楔形石核概念内涵与細石核分類初探』 『人類學學報』 40 (2), 307-319。
[新英帅·张晓凌·仪明洁 (2021) 楔形石核概念内涵与细石核分类初探. 人类学学报 40(2), 307-319]

K

158. 孔繁剛 (1990) 『山東省沂水縣宅科的細石器遺存』 『東南文化』 1990 (4), 174-179。
[孔繁刚 (1990) 山东省沂水县宅科的细石器遗存. 东南文化 1990(4), 174-179]

L

159. 李超榮 (1993) 『大同市小站王龍溝的旧石器』 『考古与文物』 1993 (4), 1-7。
[李超荣 (1993) 大同市小站王龙沟的旧石器. 考古与文物 1993(4), 1-7]
160. 李超榮·任秀生 (1992) 『大同縣山自造地点旧石器研究』 『人類學學報』 11 (1), 79-85。
[李超荣·任秀生 (1992) 大同县山自造地点旧石器研究. 人类学学报 11(1), 79-85]
160. 李超榮·郁金城 (1998) 『北京地区旧石器考古新進展』 『人類學學報』 17 (2), 137-146。
[李超荣·郁金城 (1998) 北京地区旧石器考古新进展. 人类学学报 17(2), 137-146]
161. 李 鋒·陳福友·高 星·劉德成·張東菊·王 山 (2011) 『甘肅省水洛河、清水河流域 2009 年旧石器考古調查』 『人類學學報』 30 (2), 135-148。
[李锋·陈福友·高星·刘德成·张东菊·王山 (2011) 甘肃省水洛河、清水河流域 2009 年旧石器考古调查. 人类学学报 30(2), 135-148]
162. 李 鋒·陳福友·汪英華·高 星 (2016) 『晚更新世晚期中国北方石葉技術所反映的技術擴散与人群遷移』 『中国科学：地球科学』 46 (7), 891-905。
[李锋·陈福友·汪英华·高星 (2016) 晚更新世晚期中国北方石叶技术所反映的技术扩散与人群迁移. 中国科学：地球科学 46(7), 891-905]
163. 李 翌·孫 波 (2012) 『山東一批旧石器地点調查報告』 『海岱考古』 5, 1-31。
[李翌·孙波 (2012) 山东一批旧石器地点调查报告. 海岱考古 5, 1-31]
164. 李 翌·任雅鵬 (2015) 『沂、沭河流域的細石器遺存及其工藝技術研究』 『海岱考古』 8, 417-436。
[李翌·任雅鹏 (2015) 沂、沭河流域的细石器遗存及其工艺技术研究. 海岱考古 8, 417-436]

165. 李 罡·任雪岩·李 珺 (2016) 「泥河湾盆地二道梁旧石器时代晚期遗址发掘简报」《人类学学报》35(4), 509-521。
 [李 罡·任雪岩·李 珺 (2016) 「泥河湾盆地二道梁旧石器时代晚期遗址发掘简报」《人类学学报》35(4), 509-521]
166. 李 罡·任雅鹏 (2017) 「大沽河、沂沭河流域旧石器考古新进展」《海岱考古》10, 375-385。
 [李 罡·任雅鹏 (2017) 「大沽河、沂沭河流域旧石器考古新进展」《海岱考古》10, 375-385]
167. 李 罡·任雅鹏·李 猛 (2020) 「秦州市山亭区旧石器地点调查简报」《人类学学报》39(3), 357-366。
 [李 罡·任雅鹏·李 猛 (2020) 枣庄市山亭区旧石器地点调查简报。人类学学报 39(3), 357-366]
168. 李 珺·劉連強 (2001) 「平泉县化子洞旧石器时代晚期遗址」《考古学年鉴 2001》, 109-110, 文物出版社(北京)。
 [李 珺·劉連強 (2001) 平泉县化子洞旧石器时代晚期遗址。考古学年鉴 2001, 109-110, 文物出版社(北京)]
169. 李三灵·李学东·郭军亮·杜水生 (2023) 「山西忻城山圣王坪旧石器遗址调查简报」《人类学学报》42(3), 390-397。
 [李三灵·李学东·郭军亮·杜水生 (2023) 山西忻城山圣王坪旧石器遗址调查简报。人类学学报 42(3), 390-397]
170. 李 焱·王法崗·付智軍·何 山 (2023) 「遷安瓜村旧石器时代遗址调查研究」《文物春秋》2023(1), 63-70。
 [李 焱·王法崗·付智軍·何 山 (2023) 迁安瓜村旧石器时代遗址调查研究。文物春秋 2023(1), 63-70]
171. 李万博·陳全家·方 啓·趙海龍 (2016) 「延边和龍大洞旧石器遗址 (2007) 试掘简报」《边疆考古研究》20, 1-11, 科学出版社。
 [李万博·陳全家·方 啓·趙海龍 (2016) 延边和龍大洞旧石器遗址 (2007) 试掘简报。边疆考古研究 20, 1-11, 科学出版社]
172. 李万博·陳全家·張福有 (2019) 「吉林楓林旧石器遗址发现的石器」《人类学学报》38(2), 191-199。
 [李万博·陳全家·張福有 (2019) 吉林楓林旧石器遗址发现的石器。人类学学报 38(2), 191-199]
173. 李炎賢·林一璞·葛治功·張祖方 (1980) 「江蘇東海縣發現的打製石器」《古脊椎動物与古人類》18(3), 239-246。
 [李炎賢·林一璞·葛治功·張祖方 (1980) 江苏东海县发现的打制石器。古脊椎动物与与古人类 18(3), 239-246]
174. 李有壽 (2009) 「東北地區末次冰期以來旧石器遺存的分期、類型及相關問題」《中原文物》2009(3), 25-35。
 [李有壽 (2009) 东北地区末次冰期以来旧石器遗存的分期、类型及相关问题。中原文物 2009(3), 25-35]
175. 李有壽 (2011) 「日本海西北岸旧石器时代的細石葉技術及其与相鄰地区的關係」《北方文物》2011(2), 21-27。
 [李有壽 (2011) 日本海西北岸旧石器时代的细石叶技术及其与相邻地区的关系。北方文物 2011(2), 21-27]
176. 李有壽 (2012) 「伊春鉄力小龍山旧石器时代遗址调查与试掘简报」《北方文物》2012(3), 3-7。
 [李有壽 (2012) 「伊春鉄力小龍山旧石器时代遗址调查与试掘简报。北方文物 2012(3), 3-7]

177. 李有燾 (2014) 「黑龍江省旧石器遺存の分布、年代及工藝類型」『華夏考古』2014(3), 33-43。
[李有燾 (2014) 黑龍江省旧石器遺存の分布、年代及工藝類型。華夏考古2014(3), 33-43]
178. 李有燾 (2015a) 「黑龍江富裕縣老虎屯遺址發見的旧石器」『北方文物』2015(1), 3-9。
[李有燾 (2015a) 黑龍江富裕縣老虎屯遺址發見的旧石器。北方文物2015(1), 3-9]
179. 李有燾 (2015b) 「黑龍江省林富旧石器遺址の發見与年代」『中国北方及蒙古、貝加爾、西伯利亞地區古代文化』上, 121-127, 科学出版社 (北京)。
[李有燾 (2015) 黑龍江省林富旧石器遺址の發見与年代。中国北方及蒙古、貝加爾、西伯利亞地區古代文化上, 121-127, 科学出版社 (北京)]
180. 李有燾 (2016) 「細石器的概念与研究方法」『北方文物』2016(1), 19-22。
[李有燾 (2016) 「細石器的概念与研究方法。北方文物2016(1), 19-22]
181. 李有燾 (2021) 「黑龍江海林小龍頭山旧石器遺址發掘簡報」『人類學學報』40(1), 118-127。
[李有燾 (2021a) 黑龍江海林小龍頭山旧石器遺址發掘簡報。人類學學報40(1), 118-127]
182. 李有燾 (2021) 「黑龍江下游更新世末期的奧西波夫卡文化研究」『边疆考古研究』29, 115-130, 科学出版社 (北京)。
[李有燾(2021)黑龍江下游更新世末期的奧西波夫卡文化研究。边疆考古研究29,115-130, 科学出版社 (北京)]
183. 李有燾 (2021) 「嫩江流域細石器遺存の年代框架与發展序列」『考古与文物』2021(5), 61-70。
[李有燾 (2021) 嫩江流域細石器遺存の年代框架与发展序列。考古与文物2021(5), 61-70]
184. 李有燾 (2021) 「黑龍江饒河小南山遺址 2019-2020 年度考古發掘新收穫」『中国文物報』2021 年 3 月 19 日号, 5 面。
[李有燾(2021)「黑龍江饒河小南山遺址2019-2020年度考古發掘新收穫。中国文物報2021年3月19日号, 第5版]
185. 李有燾·陳全家(2007)「嫩江流域漢代以前的石製品研究」『边疆考古研究』6, 56-77, 科学出版社 (北京)。
[李有燾·陳全家 (2007) 嫩江流域漢代以前的石製品研究。边疆考古研究6, 56-77, 科学出版社 (北京)]
186. 李有燾·陳全家 (2008) 「朝鮮半島旧石器材料及工業類型的初步研究—兼談对吉林省東部地區旧石器研究的幾點認識」『边疆考古研究』7, 10-33, 科学出版社 (北京)。
[李有燾·陳全家 (2008) 朝鮮半島旧石器材料及工業類型的初步研究—兼談对吉林省東部地區旧石器研究的幾點認識。边疆考古研究7, 10-33, 科学出版社 (北京)]
187. 李有燾·陳全家 (2014) 「長白山地黑曜岩旧石器的技術模式研究」『東北史地』2014 (5), 3-6。
[李有燾·陳全家 (2014) 長白山黑曜岩旧石器的技術模式研究。東北史地2014(5), 3-6]
188. 李有燾·陳全家·朱芸欣·倪春野 (2018) 「穆稜興源鎮小西崴子東山旧石器地點石器研究」『第十六屆中国古脊椎動物學學術年會論文集』, 217-228, 海洋出版社 (北京)。
[李有燾·陳全家·朱芸欣·倪春野 (2018) 穆稜興源鎮小西崴子東山旧石器地點石器研究。第十六屆中国古脊椎動物學學術年會論文集, 217-228, 海洋出版社 (北京)]
189. 李昱龍·楊劍·霍耀·馬建東 (2022) 「寧夏海原縣南華山旧石器考古調查」『人類學學報』41 (3), 491-500。
[李昱龍·楊劍·霍耀·馬建東 (2022) 寧夏海原縣南華山旧石器考古調查。人類學學報41(3), 491-500]

190. 李沢涛·李 冰·李月叢·梅惠傑·劉林敬·于世永·王俊婷 (2017) 「泥河灣盆地油房剖面旧石器時代中期到晚期文化過渡的環境背景」《第四紀研究》37(3), 463-473。
[李泽涛·李 冰·李月丛·梅惠杰·刘林敬·于世永·王俊婷 (2017) 泥河湾盆地油房剖面旧石器时代中期到晚期文化过渡的环境背景。第四纪研究 37(3), 463-473]
191. 李占揚 (1999) 「華北最晚期旧石器時代文化及相關問題」《慶賀賈蘭坡院士九十華誕國際學術討論會文集 史前考古學新進展》, 103-110 頁, 科學出版社 (北京)。
[李占扬 (1999) 华北最晚期旧石器时代文化及相关问题。庆贺贾兰坡院士九十华诞国际学术讨论会文集 史前考古学新进展, 103-110. 科学出版社 (北京)]
192. 李占揚 (2008) 「關於中原地區新、旧石器時代文化過渡問題的思考—以靈井遺址為例」《考古學研究》7, 302-308, 科學出版社 (北京)。
[李占扬 (2008) 关于中原地区新、旧石器时代文化过渡问题的思考—以灵井遗址为例。考古学研究 7, 302-308. 科学出版社 (北京)]
193. 李占揚 (2012) 「河南許昌靈井旧石器遺址研究思路及最新進展」《東方考古》9 (上), 31-43, 科學出版社 (北京)。
[李占扬(2012)河南许昌灵井旧石器遗址研究思路及最新进展。東方考古9(上), 31-43. 科学出版社(北京)]
194. 李占揚·李雅楠·加藤真二 (2014) 「靈井許昌人遺址第 5 層細石核工藝」《人類學學報》33(3), 285-303。
[李占扬·李雅楠·加藤真二 (2014) 灵井许昌人遗址第 5 层细石核工艺。人类学学报 33(3), 285-303]
195. 李杜偉·尤玉柱 (1981) 「從桑乾河流域幾處遺址的發現看我國細石器文化的起源」《山西大學學報 (哲學社會科學版)》1981(2)。
[李杜伟·尤玉柱 (1981) 从桑干河流域几处遗址的发现看我国细石器文化的起源。山西大学学报 (哲学社会科学版) 1981(2)。] 山西省考古研究所 (編) (1993) 《山西旧石器時代考古論文集》, 501-509, 山西經濟出版社 (太原) (再錄)。
[李杜伟·尤玉柱 (1981) 从桑干河流域几处遗址的发现看我国细石器文化的起源。山西大学学报 (哲学社会科学版) 1981(2)。山西省考古研究所 (编) (1993) 山西旧石器时代考古论文集, 501-509. 山西经济出版社 (太原) (再录)]
196. 遼寧省博物館 (1973) 「凌源西八間房旧石器時代地点」《古脊椎動物與古人類》11(2), 223-226。
[辽宁省博物馆 (1973) 凌源西八间房旧石器时代地点。古脊椎动物与古人类 11(2), 223-226]
197. 林 杉·敖 紅·程 鵬·衛 奇·張 鵬·舒培仙·李興文 (2018) 「泥河灣盆地于家溝遺址 AMS-¹⁴C 年代學研究及其考古學意義」《地球環境學報》9(2), 149-158。
[林杉·敖紅·程鹏·卫奇·张鹏·舒培仙·李兴文 (2018) 泥河湾盆地于家沟遗址 AMS-¹⁴C 年代学研究及其考古学意义。地球环境学报 9(2), 149-158]
198. 臨沂地區文物管理委員會 (1983) 「山東臨沂鳳凰嶺發現細石器」《考古》1983(5), 385-388。
[临沂地区文物管理委员会 (1983) 山东临沂凤凰岭发现细石器。考古 1983(5), 385-388]
199. 臨沂地區文物管理委員會·鄒城縣圖書館 (1986) 「山東鄒城黑龍潭細石器遺址」《考古》1986(8), 673-679。
[临沂地区文物管理委员会·邹城县图书馆 (1986) 山东邹城黑龙潭细石器遗址。考古 1986(8), 673-679]
200. 臨沂地區文物管理委員會·沂水縣水管站 (1986) 「山東沂水縣晚期旧石器、細石器調查」《考古》1986(11), 961-965。
[临沂地区文物管理委员会·沂水县水管站 (1986) 山东沂水县晚期旧石器、细石器调查。考古 1986(11), 961-965]

201. 劉宝山 (2010) 「農業起源与新旧石器時代的過渡性特徵—論環境失調是農業起源的根本動力」『蘇州文博論叢』1, 9-16, 文物出版社 (北京)。
[刘宝山 (2010) 农业起源与新旧石器时代的过渡性特征—论环境失调是农业起源的根本动力。苏州文博论丛1, 9-16, 文物出版社 (北京)]
202. 劉德成·陳福友·張曉凌·裴樹文·高 星·夏正楷 (2008) 「水洞溝 12 号地点的古環境研究」『人類學學報』27(4), 295-303。
[刘德成·陈福友·张晓凌·裴树文·高星·夏正楷 (2008) 水洞沟 12 号地点的古环境研究。人类学学报 27(4), 295-303]
203. 劉光聯·王福林·劉昆山·李鳳朝·史 翎·張文定 (2008) 「中国部分地区地質和考古樣品 ^{14}C 年代測定報告」『第十一届中国古脊椎動物學學術年會論文集』, 249-271, 海洋出版社 (北京)。
[刘光联·王福林·刘昆山·李凤朝·史翎·张文定 (2008) 中国部分地区地质和考古样品 ^{14}C 年代测定报告。第十一届中国古脊椎动物学学术年会论文集, 249-271, 海洋出版社 (北京)]
204. 劉景芝 (2010) 「呼倫貝爾輝河水壩遺址的細石器工藝探討」『人類學學報』29(3), 242-252。
[刘景芝 (2010) 呼伦贝尔辉河水壩遗址的细石器工艺探讨。人类学学报 29(3), 242-252]
205. 劉景芝·王太明·賈文亮·陳哲英·衛 奇 (1995) 「山西榆社細石器遺存」『人類學學報』14(3), 206-218。
[刘景芝·王太明·贾文亮·陈哲英·卫奇 (1995) 山西榆社细石器遗存。人类学学报 14(3), 206-218]
206. 劉 爽 (2019) 「中国东北地区旧石器時代晚期遺址黑曜岩製品原料来源探索—兼論檢測聯用技術在文物產源研究中的应用」, 174 頁, 科学出版社 (北京)。
[刘爽 (2019) 中国东北地区旧石器时代晚期遗址黑曜岩制品原料来源探索—兼论检测联用技术在文物产源研究中的应用, 174 页, 科学出版社 (北京)]
207. 劉 爽·陳全家·吳小紅 (2013) 「吉林省東部旧石器時代晚期遺址黑曜岩石器判源元素特徵分析」『邊疆考古研究』13, 275-281, 科学出版社 (北京)。
[刘爽·陈全家·吴小红 (2013) 吉林省东部旧石器时代晚期遗址黑曜岩石器判源元素特征分析。边疆考古研究 13, 275-281, 科学出版社 (北京)]
208. 劉 爽·陳全家·崔劍鋒·吳小紅 (2016) 「吉林省東部旧石器時代晚期遺址黑曜岩製品原料来源探索」『邊疆考古研究』16, 261-276, 科学出版社 (北京)。
[刘爽·陈全家·崔剑锋·吴小红 (2016) 吉林省东部旧石器时代晚期遗址黑曜岩制品原料来源探索。边疆考古研究 16, 261-276, 科学出版社 (北京)]
209. 劉鎖強 (2010) 「蘇北魯南晚更新世石器工業初探」『第十二届中国古脊椎動物學學術年會論文集』, 219-234, 海洋出版社 (北京)。
[刘锁强 (2010) 苏北鲁南晚更新世石器工业初探。第十二届中国古脊椎动物学学术年会论文集, 219-234, 海洋出版社 (北京)]
210. 劉 揚·陳全家·侯亞梅 (2008) 「吉林東部含細石器遺存的初步研究」『第四紀研究』28(6), 1042-1049。
[刘扬·陈全家·侯亚梅 (2008) 吉林东部含细石器遗存的初步研究。第四纪研究 28(6), 1042-1049]

211. 劉揚 (2010) 「吉林省發現的細石器及其工藝技術研究」[第十二屆中國古脊椎動物學學術年會論文集], 201-210, 海洋出版社。
[劉揚 (2010) 吉林省發現的細石器及其工藝技術研究, 第十二屆中國古脊椎動物學學術年會論文集, 201-210, 海洋出版社(北京)]
212. 盧悅·付永平·陳泉家 (2023) 「石槽子北山旧石器地点發現的石器研究」[文物春秋] 2023(2), 58-70。
[盧悅·付永平·陳泉家 (2010) 石槽子北山旧石器地点發現的石器研究, 文物春秋 2023(2), 58-70]
213. 樂豐實 (2003) 「試論馬陵山地区的細石器遺存及相關問題」[中國史前考古學研究—祝賀石興邦先生考古半世紀暨八秩華誕文集], 86-96, 三秦出版社(西安)。
[樂豐實 (2003) 試論馬陵山地区的細石器遺存及相關問題, 中國史前考古學研究—祝賀石興邦先生考古半世紀暨八秩華誕文集, 86-96, 三秦出版社(西安)]
214. 樂豐實 (2008) 「簡論海岱地区旧石器和新石器文化的銜接」[考古學研究] 7, 309-316, 科學出版社(北京)。
[樂豐實 (2008) 簡論海岱地区旧石器和新石器文化銜接, 考古學研究 7, 309-316, 科學出版社(北京)]

M

215. 馬東東·牛東偉·裴樹文·李小瀟·楊海勇·王法崗 (2021) 「蔚縣盆地 2017-2018 年旧石器考古調查簡報」[人類學學報] 40(1), 128-136。
[馬東東·牛東偉·裴樹文·李小瀟·楊海勇·王法崗 (2021) 蔚縣盆地 2017-2018 年旧石器考古調查簡報, 人類學學報 40(1), 128-136]
216. 馬歡歡·趙清坡·朔知 (2021) 「安徽裕溪河流域發現的石製品研究」[東方考古] 17, 1-16, 科學出版社(北京)。
[馬歡歡·趙清坡·朔知 (2021) 安徽裕溪河流域發現的石製品研究, 東方考古 17, 1-16, 科學出版社(北京)]
217. 馬寧 (2006) 「試論山西南部細石器工業的文化關係」[第十屆中國古脊椎動物學學術年會論文集], 233-248, 海洋出版社。
[馬寧 (2006) 試論山西南部細石器工業的文化關係, 第十屆中國古脊椎動物學學術年會論文集, 233-248, 海洋出版社(北京)]
218. 馬寧 (2021) 「泥河灣盆地 MIS3 階段以來的旧石器遺址年代序列與環境背景研究」[青年考古學家] 2, 54-62, 科學出版社(北京)。
[馬寧 (2021) 泥河灣盆地 MIS3 階段以來的旧石器遺址年代序列與環境背景研究, 青年考古學家 2, 54-62, 科學出版社(北京)]
219. 麥德森·埃爾斯頓·白金格·許成·鍾侃 (1995) 「華北中部旧石器晚期至新石器早期聚落型態的變化」[考古] 1995(11), 1013-1027。
[麥德森·埃爾斯頓·白金格·許成·鍾侃 (1995) 華北中部旧石器晚期至新石器早期聚落型態的變化, 考古 1995(11), 1013-1027]
220. 梅惠傑 (2008) 「楔形石核系統分類的相關認識」[考古學研究] 7, 265-271, 科學出版社(北京)。
[梅惠傑 (2008) 楔形石核系統分類的相关認識, 考古學研究 7, 265-271, 科學出版社(北京)]

N

221. 長友恒人・下岡順直・波岡久恵・佐川正敏・衛 奇 (2009) 「泥河湾盆地幾処旧石器時代文化遺址光沢光測年」『人類学報』28(3), 276-284。
[長友恒人・下岡順直・波岡久恵・佐川正敏・衛 奇 (2009) 泥河湾盆地几处旧石器时代文化遗址光释光测年。人类学報 28(3), 276-284]
222. 倪春野・陳全家・李有壽・林 森 (2017) 「黑龍江穆稜靠山東山旧石器地点石製品研究」『北方文物』2017(4), 3-8。
[倪春野・陳全家・李有壽・林 森 (2017) 黑龍江穆稜靠山東山旧石器地点石製品研究。北方文物 2017(4), 3-8]。
223. 寧夏文物考古研究所・中国科学院古脊椎動物与古人類研究所 (編) (2013) 「水洞溝—2003~2007 年度考古發掘与研究報告」, 377 頁, 科学出版社 (北京)。
[宁夏文物考古研究所・中国科学院古脊椎动物与古人类研究所 (编) (2013) 水洞沟—2003~2007 年度考古发掘与研究報告。377 頁, 科学出版社 (北京)]
224. 寧夏文物考古研究所・海原縣文物管理所 (編) (2022) 「寧夏海原—南華山地区史前遺存考古調查報告」, 322 頁, 文物出版社 (北京)。
[宁夏文物考古研究所・海原縣文物管理所 (编) (2022) 宁夏海原—南華山地区史前遺存考古調查報告。322 頁, 文物出版社 (北京)]
225. 牛東偉・薛 峰・李朋元・李延豪・謝 飛 (2018) 「懷來盆地 2014 年度旧石器考古調查簡報」『人類学報』37(1), 79-87。
[牛东伟・薛 峰・李朋元・李延豪・謝 飛 (2018) 怀來盆地 2014 年度旧石器考古調查簡報。人类学報 37(1), 79-87]
226. 牛東偉・閻曉蒙・馬東東・徐 哲・裴樹文 (2022) 「蔚縣盆地 2019-2020 年旧石器考古調查」『人類学報』41(5), 936-944。
[牛东伟・閻曉蒙・馬東東・徐 哲・裴樹文 (2022) 蔚縣盆地 2019-2020 年旧石器考古調查。人类学報 41(5), 936-944]

P

227. 逢振鏞 (2000) 「山東細石器文化概論」『華夏考古』2000(2), 65-73。
[逢振鏞 (2000) 山东細石器文化概論。華夏考古 2000(2), 65-73]
228. 裴文中 (1954) 「中国石器時代的文化」, 68 頁, 中国青年出版社 (北京)。
[裴文中 (1954) 中国石器時代的文化。68 頁, 中国青年出版社 (北京)]

Q

229. 曲彤麗・陳宥成 (2022) 「史前骨柄石刃器与複合工具技術相關討論」『華夏考古』2022(2), 42-49。
[曲彤麗・陳宥成 (2022) 史前骨柄石刃器与複合工具技術相關討論。華夏考古 2022(2), 42-49]

R

230. 任海雲 (2008) 「中国北方細石器的發現与研究」『考古学研究』7, 272-281, 科学出版社 (北京)。
[任海云 (2008) 中国北方細石器的发现与研究, 考古学研究7, 272-281, 科学出版社 (北京)]
231. 任海雲 (2016) 「柿子灘遺址楔型細石核工艺流程研究及相關問題探討」『中国国家博物館館刊』2016 (1), 6-13。
[任海云 (2016) 柿子灘遺址楔型細石核工艺流程研究及相关问题探讨, 中国国家博物館館刊 2016(1), 6-13]
232. 任進成·周靜·李鋒·陳福友·高星 (2017) 「甘肅石峽口旧石器遺址第1地点發掘報告」『人類學學報』36(1), 1-16。
[任进成·周静·李锋·陈福友·高星 (2017) 甘肅石峽口旧石器遺址第1地点發掘報告, 人類學學報 36(1), 1-16]

S

233. 山東省文物考古研究所·臨沂地区文物管理委員會·郟城縣圖書館 (1987) 「山東郟城馬陵山細石器遺存調查報告」『史前研究』1987(1), 42-56。
[山東省文物考古研究所·臨沂地区文物管理委員會·郟城縣圖書館 (1987) 山東郟城馬陵山細石器遺存調查報告, 史前研究 1987(1), 42-56]
234. 山東省文物考古研究院·中国科学院古脊椎動物与古人类研究所·臨沂市文物局·河東区文广新局·孫啓銳·陳福友·張子曉·張書暢 (2018) 「山東臨沂鳳凰嶺發現距今 1.9 至 1.3 万年的細石器遺存」『中国文物報』2018 年 6 月 15 日号, 8 面。
[山東省文物考古研究院·中国科学院古脊椎動物与古人类研究所·臨沂市文物局·河東区文广新局·孫啓銳·陳福友·張子曉·張書暢 (2018) 山東臨沂鳳凰嶺發現距今 1.9 至 1.3 万年的細石器遺存, 中国文物報 2018 年 6 月 15 日号, 第 8 版]
235. 山西大学歷史文化學院·大同市考古研究所 (2018) 「山西大同縣南坡旧石器時代遺址試掘簡報」『考古』2018(2), 3-11。
[山西大学歷史文化學院·大同市考古研究所 (2018) 山西大同縣南坡旧石器時代遺址試掘簡報, 考古 2018(2), 3-11]
236. 山西大学歷史文化學院·山西省考古研究所 (2017) 「山西吉縣柿子灘遺址 S29 地点發掘簡報」『考古』2017(2), 35-51。
[山西大学歷史文化學院·山西省考古研究所 (2017) 山西吉縣柿子灘遺址 S29 地点發掘簡報, 考古 2017(2), 35-51]
237. 山西省考古研究所(編) (2014) 「丁村旧石器時代遺址群—丁村遺址群 1976-1980 年發掘報告」, 667 頁, 科学出版社 (北京)。
[山西省考古研究所 (編) (2014) 丁村旧石器時代遺址群—丁村遺址群 1976-1980 年發掘報告, 667 頁, 科学出版社 (北京)]
238. 山西省考古研究所·右玉縣圖書館 (1985) 「山西右玉丁家村新石器時代遺存」『考古』1985(7), 662-663。
[山西省考古研究所·右玉縣圖書館 (1985) 山西右玉丁家村新石器時代遺存, 考古 1985(7), 662-663]

239. 陕西省考古研究所·大荔县文物管理委员会(編著)(1996)『大荔—蒲城旧石器 大荔人遗址及其附近旧石器地点群調查發掘報告』, 241 頁, 文物出版社(北京)。
[陕西省考古研究所·大荔县文物管理委员会(編著)(1996)大荔—蒲城旧石器 大荔人遗址及其附近旧石器地点群調查報告, 241 頁, 文物出版社(北京)。]
240. 山西省臨汾行署文化局(1989)『山西吉县柿子灘中石器文化遺址』『考古學報』1989(3), 305-323。
[山西省臨汾行署文化局(1989)山西吉县柿子灘中石器文化遺址, 考古學報 1989(3), 305-323]
241. 邵文斌(2007)『試論晋南地区細石器文化』『史前研究 2006』, 36-52 頁, 陝西師範大学出版社(西安)。
[邵文斌(2007)试论晋南地区细石器文化, 史前研究 2006, 36-52, 陕西师范大学出版社(西安)]
242. 邵文斌(2010)『華北細石器文化起源傳播的環境背景分析』『農業考古』2010(1), 17-19。
[邵文斌(2010)华北细石器文化起源传播的环境背景分析, 农业考古 2010(1), 17-19]
243. 申佐軍·陳全家·楊樞通·林 森(2019)『牡丹江流域中上流新發現的三处旧石器地点』『北方文物』2019(3), 9-15。
[申佐军·陈全家·杨枢通·林森(2019)牡丹江流域中上流新发现的三处旧石器地点, 北方文物 2019(3), 9-15]
244. 申艶茹·王益人·杜水生(2020)『山西下川遺址流水腰地点的細石葉工業』『第四紀研究』40(1), 264-274。
[申艳茹·王益人·杜水生(2020)山西下川遗址流水腰地点的细石叶工业, 第四纪研究 40(1), 264-274]
245. 瀋陽市文物考古研究所·吉林大学边疆考古研究中心(編)(2015)『瀋陽地区旧石器發現与研究』, 177 頁, 科学出版社(北京)。
[沈阳市文物考古研究所·吉林大学边疆考古研究中心(編)(2015)沈阳地区旧石器发现与研究, 177 頁, 科学出版社(北京)]
246. 沈 辰(2004)『山東旧石器晚期石器工業傳統的多樣性和複雜性—類型學分析』『東方考古』1, 1-22, 科学出版社(北京)。
[沈辰(2004)山东旧石器晚期石器工业传统的多样性和复杂性—类型学分析』『东方考古』1, 1-22, 科学出版社(北京)]
247. 沈 辰·高 星·胡秉華(2003)『山東細石器遺存以及对“鳳凰嶺文化”的重新認識』『人類學學報』22(4), 293-307。
[沈辰·高星·胡秉华(2003)山东细石器遗存以及对“凤凰岭文化”的重新认识, 人类学学报 22(4), 293-307]
248. 石金鳴·胡 生(1992)『張家山旧石器的初步研究』『人類學學報』11(2), 115-125。
[石金鸣·胡生(1992)张家山旧石器的初步研究, 人类学学报 11(2), 115-125]
249. 石 晶·李有壽·陳全家·倪春野(2018)『黑龍江穆稜鄭家崴子東山旧石器地点的發現与研究』『边疆考古研究』24, 41-51。
[石晶·李有寿·陈全家·倪春野(2018)黑龙江穆稜郑家崴子东山旧石器地点的发现与研究, 边疆考古研究 24, 41-51]
250. 石曉潤·李 君(2020)『南坡遺址石製品研究』『考古与文物』2020(1), 61-67。
[石晓润·李君(2020)南坡遗址石制品研究, 考古与文物 2020(1), 61-67]

251. 石興邦 (1989) 「下川文化研究」『慶祝蘇秉琦考古五十五年論文集』, 144-154, 文物出版社 (北京)。
[石興邦(1989)下川文化研究。慶祝蘇秉琦考古五十五年論文集。2020(1), 144-154, 文物出版社(北京)]
252. 柿子灘考古隊 (2002) 「山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址 S14 地點」『考古』2002(4), 15-28。
[柿子灘考古隊 (2002) 山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址 S14 地點。考古 2002(4), 15-28]
253. 柿子灘考古隊 (2010) 「山西吉縣柿子灘遺址第九地點發掘簡報」『考古』2010(10), 7-17。
[柿子灘考古隊 (2010) 山西吉縣柿子灘遺址第九地點發掘簡報。考古 2010(10), 7-17]
254. 柿子灘考古隊 (2013a) 「山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址 S14 地點 2002 ~ 2005 發掘簡報」『考古』2013(2), 3-13。
[柿子灘考古隊 (2013a) 山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址 S14 地點 2002 ~ 2005 發掘簡報。考古 2013(2), 3-13]
255. 柿子灘考古隊 (2013b) 「山西吉縣柿子灘 S12G 地點發掘簡報」『考古與文物』2013(3), 3-8。
[柿子灘考古隊 (2013b) 山西吉縣柿子灘 S12G 地點發掘簡報。考古與文物 2013(3), 3-8]
256. 柿子灘考古隊 (2016) 「山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址第五地點發掘簡報」『考古』2016(4), 3-15。
[柿子灘考古隊 (2016) 山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址第五地點發掘簡報。考古 2016(4), 3-15]
257. 首都師範大學歷史學院·黑龍江省文物考古研究所 (2022) 「黑龍江海林市密東石器遺址石器初步研究」『北方文物』2022(4), 3-11。
[首都師範大學歷史學院·黑龍江省文物考古研究所 (2022) 黑龍江海林市密東石器遺址石器初步研究。北方文物 2022(4), 3-11]
258. 宋絕花 (2016) 「柿子灘遺址石英岩料產地調查和研究」『華夏考古』2016(3), 45-52, 86。
[宋絕花 (2016) 柿子灘遺址石英岩料產地調查和研究。華夏考古 2016(3), 45-52, 86]
259. 宋絕花·石金鳴 (2008) 「尉家小堡遺址石製品的初步研究」『人類學學報』27(2), 200-209。
[宋絕花·石金鳴 (2008) 尉家小堡遺址石製品的初步研究。人類學學報 27(2), 200-209]
260. 宋絕花·石金鳴·沈辰 (2011) 「山西柿子灘舊石器遺址蚌飾品製作工藝研究」『人類學學報』30(2), 115-123。
[宋絕花·石金鳴·沈辰 (2011) 山西柿子灘舊石器遺址蚌飾品製作工藝研究。人類學學報 30(2), 115-123]
261. 宋絕花·石金鳴 (2013a) 「柿子灘遺址穿孔飾品的穿系方式研究」『中原文物』2013(1), 17-22。
[宋絕花·石金鳴 (2013a) 柿子灘遺址穿孔飾品的穿系方式研究。中原文物 2013(1), 17-22]
262. 宋絕花·石金鳴 (2013b) 「山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址出土裝飾品研究」『考古』2013(8), 46-57。
[宋絕花·石金鳴 (2013b) 山西吉縣柿子灘舊石器時代遺址出土裝飾品研究。考古 2013(8), 46-57]
263. 宋絕花·石金鳴·劉莉 (2013c) 「從柿子灘遺址 S9 地點石磨盤的功能看華北粟作農業的起源」『中國農史』2013(3), 3-8。
[宋絕花·石金鳴·劉莉 (2013c) 從柿子灘遺址 S9 地點石磨盤的功能看華北粟作農業的起源。中國農史 2013(3), 3-8]
264. 孫建中·柯曼紅·石興邦·張子明·陳哲英·吳加安·張素琳 (2000) 「下川遺址的古氣候環境」『考古』2000(10), 81-91。
[孫建中·柯曼紅·石興邦·張子明·陳哲英·吳加安·張素琳 (2000) 下川遺址的古氣候環境。考古 2000(10), 81-91]

T

265. 譚英傑 (1982) 「黑龍江旧石器時代考古的回顧与展望」『黑龍江文物叢刊』1982(1), 5-10。
[譚英傑 (1982) 黑龍江旧石器時代考古的回顧与展望。黑龍江文物叢刊 1982(1), 5-10]
266. 湯惠生 (2011) 「青蔵高原旧石器時代晚期至新石器時代初期的考古学文化及經濟形態」『考古学報』2011(4), 443-466。
[湯惠生 (2011) 青蔵高原旧石器時代晚期至新石器時代初期的考古学文化及經濟形態。考古学报 2011(4), 443-466]
267. 唐山市文物管理处 (1993) 「唐山地区发现的旧石器文化」『文物春秋』1993(4), 1-16。
[唐山市文物管理处 (1993) 唐山地区发现的旧石器文化。文物春秋 1993(4), 1-16]
268. 田川·徐廷·閔瑩·高星 (2019) 「吉林撫松楓林遺址細石核研究」『人類学學報』38(1), 19-32。
[田川·徐廷·閔瑩·高星 (2019) 吉林抚松枫林遗址细石核研究。人类学学报 38(1), 19-32]
269. 田禾·陳全家·李有壽 (2010) 「黑龍江省海林市楊林南山旧石器遺址石器研究」『北方文物』2010(3), 3-12。
[田禾·陳全家·李有壽 (2010) 黑龍江省海林市楊林南山旧石器遺址石器研究。北方文物 2010(3), 3-12]
270. 天津市文化遺產保護中心·吉林大學邊疆考古研究中心 (2012) 「天津蓟县文烟台旧石器地点調查簡報」『边疆考古研究』11, 1-9, 科学出版社 (北京)。
[天津市文化遺產保護中心·吉林大學邊疆考古研究中心 (2012) 天津蓟县文烟台旧石器地点調查簡報。边疆考古研究 11, 1-9, 科学出版社 (北京)]
271. 全广·李鋒·高星 (2023) 「東北亞楔形細石核模擬剥片實驗研究的回顧与展望」『人類学學報』42(1), 129-136。
[全广·李鋒·高星 (2023) 東北亞楔形細石核模擬剥片實驗研究与展望。人类学学报 42(1), 129-136]
272. 全广·李鋒·高星 (2023) 「楔形石核压製剥片技術的實驗研究」『人類学學報』42(3), 305-316。
[全广·李鋒·高星 (2023) 楔形石核压製剥片技术的实验研究。人类学学报 42(3), 305-316]

W

273. 万晨晨·陳全家 (2017) 「吉林扶余市富康東山旧石器地点的石器技術和古人類行為研究」『北方文物』2017(2), 25-30。
[万晨晨·陳全家 (2017) 吉林扶余市富康東山旧石器地点的石器技术和古人類行為研究。北方文物 2017(2), 25-30]
274. 万晨晨·陳全家·方啓·王春雪·趙海龍·李有壽 (2017) 「吉林和龍大洞遺址的調查与研究」『考古学報』2017(1), 1-30。
[万晨晨·陳全家·方啓·王春雪·趙海龍·李有壽 (2017) 吉林和龍大洞遺址的調查与研究。考古学报 2017(1), 1-30]
275. 万晨晨·陳全家·王義学 (2021) 「長春二道雜木村東兩新地点发现的旧石器」『第十七届中国古脊椎動物学學術年會論文集』, 313-323, 海洋出版社 (北京)。
[万晨晨·陳全家·王義学 (2021) 長春二道雜木村東兩新地点发现的旧石器。第十七届中国古脊椎動物学學術年會論文集, 313-323, 海洋出版社 (北京)]

276. 王 成 (1996) 「伊敏河下游及海拉尔地区细石器遗存」〔内蒙古文物考古〕1996(1·2), 1-24。
 [王成 (1996) 伊敏河下游及海拉尔地区细石器遗存. 内蒙古文物考古 1996(1·2), 1-24]
277. 王春雪 (2018) 「鸵鸟蛋壳串珠—不止於裝飾」, 146 頁, 社会科学文献出版社 (北京)。
 [王春雪 (2018) 鸵鸟蛋壳串珠—不止于装饰. 146 页, 社会科学文献出版社 (北京)]
278. 王春雪·陳全家 (2005) 「圖們江流域旧石器時代晚期黑曜岩遺址人類的適應生存方式」〔边疆考古研究〕4, 26-35, 科学出版社 (北京)。
 [王春雪·陳全家 (2005) 图们江流域旧石器时代晚期黑曜岩遗址人类的适应生存方式. 边疆考古研究 4, 26-35, 科学出版社 (北京)]
279. 王春雪·陳全家 (2007) 「試析吉林和龍石人溝旧石器時代晚期遺址古人類的技術與行為」〔边疆考古研究〕6, 39-55, 科学出版社 (北京)。
 [王春雪·陳全家 (2007) 试析吉林和龙石人沟旧石器时代晚期遗址古人类的技术与行为. 边疆考古研究 6, 39-55, 科学出版社 (北京)]
280. 王春雪·張 素·高 星·張曉凌·王惠民 (2009) 「水洞溝遺址採集的鸵鳥蛋壳裝飾品研究」〔科学通報〕54(19), 2886-2894。
 [王春雪·張素·高星·張曉凌·王惠民 (2009) 水洞沟遗址采集的鸵鸟蛋壳装饰品研究. 科学通报 54(19), 2886-2894]
281. 王春雪·趙海龍·陳全家 (2008) 「試析東北地區北部與俄羅斯外貝加爾地區旧石器時代晚期文化之間的關係」〔内蒙古文物考古〕2008(1), 44-54。
 [王春雪·趙海龍·陳全家 (2008) 试析东北地区北部与俄罗斯外贝加尔地区旧石器时代晚期文化之间的关系. 内蒙古文物考古 2008(1), 44-54]
282. 王春雪·趙海龍·陳全家 (2009a) 「試析東北地區東部與朝鮮半島旧石器時代晚期細石器工業之間的文化關係」〔内蒙古文物考古〕2009(2), 35-49。
 [王春雪·趙海龍·陳全家 (2009a) 试析东北地区东部与朝鲜半岛旧石器时代晚期细石器工业之间的文化关系. 内蒙古文物考古 2009(2), 35-49]
283. 王春雪·趙海龍·陳全家 (2009b) 「吉林東部地區旧石器時代晚期細石器工業技術分析」〔边疆考古研究〕8, 1-13, 科学出版社 (北京)。
 [王春雪·趙海龍·陳全家 (2009b) 吉林东部地区旧石器时代晚期细石器工业技术分析. 边疆考古研究 8, 1-13, 科学出版社 (北京)]
284. 王春雪·盛立双 (2012) 「天津蓟县閻子峪和大孫各莊旧石器地点發現的石器研究」〔第13届中国古脊椎動物學學術年會論文集〕, 179-186, 海洋出版社(北京)。
 [王春雪·盛立双 (2012) 天津蓟县阎子峪和大孫各庄旧石器地点发现的石器研究. 第13届中国古脊椎动物学学术年会论文集, 179-186, 海洋出版社(北京)]
285. 王春雪·盛立双 (2013) 「天津蓟县太子陵旧石器地点調查簡報」〔人類學學報〕32(1), 37-44。
 [王春雪·盛立双 (2013) 天津蓟县太子陵旧石器地点调查简报. 人类学学报 32(1), 37-44]

286. 王春雪·趙里萌·徐 廷·王家琪 (2018) 「吉林白城地区嶺下鎮新合遺址調查簡報」[《边疆考古研究》23, 11-16, 科学出版社 (北京)。
 [王春雪·趙里萌·徐 廷·王家琪 (2018) 吉林白城地区嶺下鎮新合遺址調查簡報. 边疆考古研究 23, 11-16, 科学出版社 (北京)]
287. 王惠民·余 軍 (1994) 「青銅峽鴿子山遺址調查報告」[《宁夏考古文集》, 1-17, 宁夏人民出版社 (銀川)。
 [王惠民·余 軍 (1994) 青銅峽鴿子山遺址調查報告. 宁夏考古文集, 1-17, 宁夏人民出版社 (銀川)]
288. 王惠民·裴樹文·馬曉玲·馮興無 (2007) 「水洞溝遺址第 3、4、5 地点發掘簡報」[《人類學學報》26 (3), 206-221。
 [王惠民·裴樹文·馬曉玲·馮興無 (2007) 水洞溝遺址第 3、4、5 地点發掘簡報. 人類學學報 26(3), 206-221]
289. 王家琪·賈佳欣·魏天旭·李万博·温景超·盛立双·甘才超·王春雪 (2021) 「天津薊州区太子陵旧石器遺址 2015 年調查簡報」[《第十七届中国古脊椎動物學學術年會論文集》, 163-170, 海洋出版社。
 [王家琪·賈佳欣·魏天旭·李万博·温景超·盛立双·甘才超·王春雪 (2021) 天津薊州区太子陵旧石器遺址 2015 年調查簡報. 第十七届中国古脊椎動物學學術年會論文集, 163-170, 海洋出版社]
290. 王 建 (1986) 「關於下川遺址和丁村遺址群 7701 地点的時代、性質問題」[《人類學學報》5 (2), 172-178。
 [王 建 (1986) 关于下川遺址和丁村遺址群 7701 地点的時代、性質問題. 人類學學報 5(2), 163-170]
291. 王 建·王向前·陳哲英 (1978) 「下川文化—山西下川遺址調查報告」[《考古學報》1978 (3), 259-288。
 [王 建·王向前·陳哲英 (1978) 下川文化—山西下川遺址調查報告. 考古學報 1978(3), 259-288]
292. 王 建·王益人 (1991) 「下川細石核形製研究」[《人類學學報》10 (1), 1-8。
 [王 建·王益人 (1991) 下川細石核形製研究. 人類學學報 10(1), 1-8]
293. 王 建·陶富海·王益人 (1994) 「丁村旧石器時代遺址群調查發掘簡報」[《文物季刊》1994 (3), 1-75。
 [王 建·陶富海·王益人 (1994) 丁村旧石器時代遺址群調查發掘簡報. 文物季刊 1994(3), 1-75]
294. 王立新 (2018) 「後套木嘎新石器時代遺存及相關問題研究」[《考古學報》2018 (2), 141-164。
 [王立新 (2018) 後套木嘎新石器時代遺存及相關問題研究. 考古學報 2018(2), 141-164]
295. 王 晶·杜水生 (2018) 「下川遺址船形細石核研究」[《第四紀研究》38 (6), 1438-1448。
 [王 晶·杜水生 (2018) 下川遺址船形細石核研究. 第四紀研究 38(6), 1438-1448]
296. 王 波 (2006) 「阿拉善左旗柵欄胡圖克的石製品」[《旧石器時代論集—紀念水洞溝遺址發現八十周年》, 101-105, 文物出版社 (北京)。
 [王 波 (2006) 阿拉善左旗柵欄胡圖克的石製品. 旧石器時代論集—紀念水洞溝遺址發現八十周年, 101-105, 文物出版社 (北京)]
297. 王仁湘 (2009) 「華北“邊脊細石核”工藝初探—由內蒙古阿拉善蘇呼圖細石器製作場的發現說起」[《边疆民族考古与民族考古學集刊》1, 3-16, 文物出版社 (北京)。
 [王仁湘 (2009) 華北“邊脊細石核”工藝初探—由內蒙古阿拉善蘇呼圖細石器製作場的發現說起. 边疆民族考古与民族考古學集刊 1, 3-16, 文物出版社 (北京)]
298. 王社江 (2022) 「聚焦大秦嶺地区的古人類与旧石器考古—歷史、現狀及問題」[《考古學研究》13 (上), 28-39, 科学出版社 (北京)。
 [王社江 (2022) 聚焦大秦嶺地区的古人類与旧石器考古—歷史、現狀及問題. 考古學研究 13(上), 28-39, 科学出版社 (北京)]

299. 王向前·丁建平·陶富海 (1983) [山西蒲县薛关细石器] 『人類學學報』2(2), 162-171。
[王向前·丁建平·陶富海 (1983) 山西蒲县薛关细石器。人类学学报 2(2), 162-171]
300. 王晓琨 (2022) [無問西東—錫林郭勒考古所見的文化交流與互動], 227 頁, 中国社会科学出版社 (北京)。
[王晓琨 (2022) 无问西东—锡林郭勒考古所见的文化交流与互动。227 页, 中国社会科学出版社 (北京)]
301. 王晓琨·魏 坚·陈全家·汤卓炜 (2014) [金斯太洞穴遗址旧石器时代古人类生存对策研究] 『中国·烏珠穆沁边疆考古国际学术研讨会论文集』, 61-95, 科学出版社 (北京)。
[王晓琨·魏 坚·陈全家·汤卓炜 (2014) 金斯太洞穴遗址旧石器时代古人类生存对策研究。中国·乌珠穆沁边疆考古国际学术研讨会论文集, 61-95, 科学出版社 (北京)]
302. 王晓琨·魏 坚·陈全家·汤卓炜·王春雪 (2010) [內蒙古金斯太洞穴遗址发掘简报] 『人類學學報』29(1), 15-32。
[王晓琨·魏 坚·陈全家·汤卓炜·王春雪 (2010) 内蒙古金斯太洞穴遗址发掘简报。人类学学报 29(1), 15-32]
303. 王晓敏·梅惠傑 (2019) [于家溝遗址的動物考古学研究], 228 頁, 文物出版社 (北京)。
[王晓敏·梅惠杰 (2019) 于家沟遗址的动物考古学研究。228 页, 文物出版社 (北京)]
304. 王晓敏·梅惠傑·謝 飛·高 星 (2020) [于家溝遗址鸵鸟蛋皮的人类利用特徵] 『人類學學報』39(2), 236-248。
[王晓敏·梅惠杰·谢 飞·高 星 (2020) 于家沟遗址鸵鸟蛋皮的人类利用特征。人类学学报 39(2), 236-248]
305. 王小慶 (2014) [陝西宜川龍王辿遗址第一地点細石器的觀察与研究] 『考古与文物』2014(6), 59-64。
[王小庆 (2014) 陕西宜川龙王辿遗址第一地点细石器的观察与研究。考古与文物 2014(6), 59-64]
306. 王思霖 (1997) [河北昌黎淨酒潤細石器遗址的新材料] 『人類學學報』16(1), 1-10。
[王思霖 (1997) 河北昌黎净酒润细石器遗址的新材料。人类学学报 16(1), 1-10]
307. 王益人 (1993) [下川楔形折器研究] 『文物季刊』1993(1), 1-9。
[王益人 (1993) 下川楔形折器研究。文物季刊 1993(1), 1-9]
308. 王益人 (2003) [關於下川文化的幾個問題] 『中国史前考古学研究—祝賀石興邦先生考古半世紀暨八秩華誕文集』, 109-131, 三秦出版社 (西安)。
[王益人 (2003) 关于下川文化的几个问题。中国史前考古学研究—祝贺石兴邦先生考古半世纪暨八秩华诞文集, 109-131, 三秦出版社 (西安)]
309. 王益人·常四龍 (1982) [山西高平縣羊頭山細石器] 『文物季刊』1983(2)。[山西省考古研究所 (編) (1993) 『山西旧石器时代考古论文集』, 461-466, 山西经济出版社 (太原) (再錄)。]
[王益人·常四龙 (1982) 山西高平县羊头山细石器。文物季刊 1983(2)。山西省考古研究所编辑 (1993) 山西旧石器时代考古论文集, 461-466, 山西经济出版社 (太原) (再录)]
310. 王益人·王 建 (1998) [下川彫刻器研究] 『文物季刊』1998(3), 25-57。
[王益人·王 建 (1998) 下川雕刻器研究『文物季刊』1998(3), 25-57]
311. 王益人·陶富海·王 建 (2006) [丁村遗址群发掘研究的最新進展—紀念丁村遗址發現 50 周年] 『山西省考古学会论文集』4, 17-23, 山西人民出版社 (太原)。
[王益人·陶富海·王 建 (2006) 丁村遗址群发掘研究的最新进展—纪念丁村遗址发现 50 周年。山西省考古学会论文集 4, 17-23, 山西人民出版社 (太原)]

312. 汪英華·劉家旭·單明超·李 鋒·陳福友 (2014) 「內蒙古大窩遺址 27 号洞石製品研究」[人類學學報] 33(1), 51-59。
[汪英華·劉家旭·李 鋒·陳福友 (2014) 內蒙古大窩遺址 27 号洞石製品研究. 人類學學報 33(1), 51-59]
313. 王幼平 (1990) 「試論環境與華北晚期旧石器文化」[北京大學學報] 1990(1)。[北京大學中國傳統文化研究中心(編) (1998) 《北京大學百年國學文粹 考古卷》, 650-658, 北京大學出版社(北京)(再錄)。]
[王幼平 (1990) 試論環境與華北晚期旧石器文化. 北京大學學報 1990(1)。[北京大學中國傳統文化研究中心(編) (1998) 北京大學百年國學文粹 考古卷, 650-658, 北京大學出版社(北京)(再錄)]
314. 王幼平 (2004) 「關於中国旧石器的工藝類型」[人類學學報] 23(增刊)(紀念裴文中教授百年誕辰論文集), 108-117。
[王幼平 (2004) 關於中国旧石器的工藝類型. 人類學學報 23(增刊)(紀念裴文中教授百年誕辰論文集), 108-117]
315. 王幼平 (2010) 「泥河灣盆地細石器技術、年代及相關問題」[古代文明] 8, 1-15, 文物出版社(北京)。
[王幼平 (2010) 泥河灣盆地細石器技術、年代及相關問題. 古代文明 8, 1-15, 文物出版社(北京)]
316. 王幼平 (2011) 「簡論華北與華南旧、新石器時代的過渡」[考古·一生一安志敏先生紀念文集], 204-212, 文物出版社(北京)。
[王幼平 (2011) 簡論華北與華南旧、新石器時代的過渡. 考古·一生一安志敏先生紀念文集, 204-212, 文物出版社(北京)]
317. 王幼平 (2012) 「李家溝、大崗、柿子灘 9 地点的地層及相關問題」[考古學研究] 9(上), 1-10, 文物出版社(北京)。
[王幼平 (2012) 李家溝、大崗、柿子灘 9 地点的地層及相關問題. 考古學研究 9(上), 1-10, 文物出版社(北京)]
318. 王幼平 (2018) 「華北細石器技術的出現與發展」[人類學學報] 37(4), 565-576。
[王幼平 (2018) 華北細石器技術的出現與發展. 人類學學報 37(4), 565-576]
319. 王幼平 (2022) 「多維視角下的中国旧石器時代」[考古學研究] 13(上), 1-17, 科學出版社(北京)。
[王幼平 (2022) 多維視角下的中国旧石器時代. 考古學研究 13(上), 1-17, 科學出版社(北京)]
320. 王幼平 (2022) 「華北旧石器晚期到新石器時代的轉變」[考古學研究] 15(上), 1-14, 文物出版社(北京)。
[王幼平 (2022) 華北中国旧石器晚期到新石器時代的轉變. 考古學研究 15(上), 1-14, 文物出版社(北京)]
321. 王幼平·顧万發·夏正楷·張俊娜·何嘉寧·曲彤麗·陳宥成·趙靜芳·林 壹·高霄旭·汪松枝·吳小紅 (2022) 「中原地區晚更新世古人類文化發展研究」, 544 頁, 科學出版社(北京)。
[王幼平·顧万發·夏正楷·張俊娜·何嘉寧·曲彤麗·陳宥成·趙靜芳·林 壹·高霄旭·汪松枝·吳小紅 (2022) 中原地區晚更新世古人類文化發展研究, 544 頁, 科學出版社(北京)]
322. 王幼平·張松林·顧万發·汪松枝·何嘉寧·趙靜芳·曲彤麗 (2013) 「李家溝遺址的石器工業」[人類學學報] 32(4), 411-420。
[王幼平·張松林·顧万發·汪松枝·何嘉寧·趙靜芳·曲彤麗 (2013) 李家溝遺址的石器工業. 人類學學報, 411-420]
323. 王幼平·汪松枝 (2014) 「MIS3 階段崑山山東麓旧石器發現與問題」[人類學學報] 33(3), 304-314。
[王幼平·汪松枝 (2014) MIS3 階段崑山山東麓旧石器發現與問題. 人類學學報 33(3), 304-314]

324. 王幼平·夏正楷·汪松枝 (2018) 『李家溝遺址與舊石器時代過渡—崑山東麓農業起源研究』, 121 頁, 科學出版社 (北京)。

[王幼平·夏正楷·汪松枝 (2018) 李家溝遺址與舊石器時代過渡—崑山東麓農業起源研究, 121 頁, 科學出版社 (北京)]

325. 衛奇 (1998) 『塔水河遺址發現原始細石器』 『元謀人發現三十周年紀念暨古人類國際學術研討會論文集』, 131-134, 雲南科技出版社 (昆明)。

[衛奇 (1998) 塔水河遺址發現原始細石器, 元謀人發現三十周年紀念暨古人類國際學術研討會論文集, 131-134, 雲南科技出版社 (昆明)]

326. 衛奇·謝飛 (編) (1989) 『泥河灣研究論文選編』, 574 頁, 文物出版社 (北京)。

[衛奇·謝飛 (編) (1998) 泥河灣研究論文選編, 574 頁, 文物出版社 (北京)]

327. 魏天旭·王春雪·陳全家·宋吉富·楊軀通·李有騫 (2021) 『東寧老黑山旧石器地點發現的石製品』 『邊疆考古研究』 29, 1-14, 科學出版社 (北京)。

[魏天旭·王春雪·陳全家·宋吉富·楊軀通·李有騫 (2021) 東寧老黑山旧石器地點發現的石製品, 邊疆考古研究 29, 1-14, 科學出版社 (北京)]

328. 魏正一·李龍 (1990) 『齊齊哈爾隔子山區發現的石器』 『北方文物』 23(3), 3-10。

[魏正一·王春雪·陳全家·宋吉富·楊軀通·李有騫 (2021) 東寧老黑山旧石器地點發現的石製品, 邊疆考古研究 29, 1-14, 科學出版社 (北京)]

329. 魏正一·于志耿 (1981) 『呼瑪十八站新發現的旧石器』 『求是學刊』 1981(1), 118-121。

[魏正一·于志耿 (1981) 呼瑪十八站新發現的旧石器, 求是學刊 1981(1), 118-121]

330. 吳加安 (1984) 『試論下川文化與小南海文化之間的關係』 『考古與文物』 1984(1), 100-106。

[吳加安 (1984) 試論下川文化與小南海文化之間的關係, 考古與文物 1984(1), 100-106]

331. 吳加安 (1987) 『中原地區細石器初探』 『考古與文物』 1987(3), 47-56。

[吳加安 (1987) 中原地區細石器初探, 考古與文物 1987(3), 47-56]

332. 吳志清·孫炳亮·喻正麒 (1990) 『榆次大發細石器遺址及其在地質學及古氣候學上的意義』 『考古與文物』 1990(5), 63-69。

[吳志清·孫炳亮·喻正麒 (1990) 榆次大發細石器遺址及其在地質學及古氣候學上的意義, 考古與文物 1990(5), 63-69]

X

333. 夏正楷·陳福友·陳戈·鄭公望·謝飛·梅惠傑 (2001) 『我國北方泥河灣盆地新一舊石器文化過渡的環境背景』 『中國科學 (D輯)』 31(5), 393-400 頁。

[夏正楷·陳福友·陳戈·鄭公望·謝飛·梅惠傑 (2001) 我國北方泥河灣盆地新一舊石器文化過渡的環境背景, 中國科學 (D輯) 31(5), 393-400]

334. 夏正楷·陳戈·鄭公望·陳福友·韓軍青 (2001) 『黃河中游地區末次冰消期新舊石器文化過渡的氣候背景』 『科學通報』 46(14), 1204-1207。

[夏正楷·陳戈·鄭公望·陳福友·韓軍青 (2001) 黃河中游地區末次冰消期新舊石器文化過渡的氣候背景, 科學通報 46(14), 1204-1207]

335. 夏正楷·張俊娜·劉 靜·趙朝洪·吳小紅 (2011) 「10000aBP 前後北京齋堂東胡林人的生態環境分析」
『科學通報』56(34), 2897-2905。
[夏正楷·張俊娜·劉 靜·趙朝洪·吳小紅 (2011) 「10000aBP 前後北京齋堂東胡林人的生態環境分析」
科學通報 56(34), 2897-2905]
336. 謝 飛 (1991) 「泥河灣盆地旧石器文化研究新進展」『人類學學報』10(4), 324-332。
[謝 飛 (1991) 泥河灣盆地旧石器文化研究新進展, 人類學學報 10(4), 324-332]
337. 謝 飛 (1996) 「河北旧石器時代晚期細石器文化遺存的分布及在華北馬蹄形分布帶中的位置」『湖西文化研究』14, 295-320。
[謝 飛 (1996) 河北旧石器時代晚期細石器遺存的分布及在華北馬蹄形分布帶中的位置, 湖西文化 14, 295-320]
338. 謝 飛 (2000) 「河北旧石器時代晚期細石器文化遺存的分布及在華北馬蹄形分布帶中的位置」『文物春秋』2000(2), 15-25, 29 (再錄)。
[謝 飛 (2000) 河北旧石器時代晚期細石器遺存的分布及在華北馬蹄形分布帶中的位置, 文物春秋 2000(2), 15-25, 29 (再錄)]
339. 謝 飛 (2001) 「從環渤海地域旧石器文化的發展進程看新石器文化的誕生」『蘇秉琦與當代中國考古學』, 39-58, 科學出版社 (北京)。
[謝 飛 (2001) 從環渤海地域旧石器文化的發展進程看新石器文化的誕生, 蘇秉琦與當代中國考古學, 39-58, 科學出版社 (北京)]
340. 謝 飛 (2006) 「泥河灣」, 330 頁, 文物出版社 (北京)。
[謝 飛 (2006) 泥河灣, 330 頁, 文物出版社 (北京)]
341. 謝 飛 (2018) 「重溫下川報告, 追憶王建先生」『珞瑤集 王建先生 90 周年誕辰紀念文集』, 93-97, 三晉出版社 (太原)。
[謝 飛 (2006) 重溫下川報告, 追憶王建先生, 珞瑤集 王建先生 90 周年誕辰紀念文集, 93-97, 三晉出版社 (太原)]
342. 謝 飛·成勝泉 (1989) 「河北關原油房細石器發掘報告」『人類學學報』8(1), 59-68。
[謝 飛·成勝泉 (1989) 重溫下川報告, 追憶王建先生, 珞瑤集 王建先生 90 周年誕辰紀念文集, 93-97, 三晉出版社 (太原)]
343. 謝 飛·李 珺·石金鳴 (1996) 「中國旧石器時代晚期鏟狀器的研究」『東北亞旧石器文化』, 176-196, 國立忠北大學校先史文化研究所 (清州)·遼寧省文物考古研究所 (瀋陽)。
[謝 飛·李 珺·石金鳴 (1996) 中國旧石器時代晚期鏟狀器的研究, 東北亞旧石器文化, 176-196, 國立忠北大學校先史文化研究所 (清州)·遼寧省文物考古研究所 (沈陽)]
344. 謝 飛·李 珺·劉連強 (2006) 「泥河灣旧石器文化」, 278 頁, 花山文藝出版社 (石家莊)。
[謝 飛·李 珺·劉連強 (2006) 泥河灣旧石器文化 278 頁, 花山文藝出版社 (石家莊)]
345. 辛 健·王 波 (2006) 「黑龍江省嫩江流域旧石器時代晚期遺存」『旧石器時代論集—紀念水洞溝遺址發現八十周年』, 159-170, 文物出版社 (北京)。
[辛 健·王 波 (2006) 黑龍江省嫩江流域旧石器時代晚期遺存, 旧石器時代論集—紀念水洞溝遺址發現八十周年, 159-170, 文物出版社 (北京)]

346. 徐 廷 (2016) 「吉林撫松發現楓林旧石器遺址」[《中國文物報》2016年10月21日号, 8面。
[徐 廷 (2016) 吉林抚松发现枫林旧石器遗址. 中国文物报2016年10月21日号, 第8版]
347. 徐 廷 (2018) 「吉林東部長白山地区的細石葉技術、年代及相關問題」[慶祝郭大順先生八秩華誕論文集], 190-198, 文物出版社 (北京)。
[徐 廷 (2018) 吉林東部長白山地区的細石葉技術、年代及相關問題. 慶祝郭大順先生八秩華誕論文集, 190-198, 文物出版社 (北京)]
348. 徐 廷 (2022) 「吉林和龍大洞遺址 2021 年發掘收獲」[2021 中國重要考古發現], 2-7, 文物出版社 (北京)。
[徐 廷 (2022) 吉林和龍大洞遺址 2021 年發掘收獲. 2021 中國重要考古發現, 2-7, 文物出版社 (北京)]
349. 徐 廷 (2022) 「高分辨率環境背景下的和龍大洞遺址石器工業研究」, 中國科學院大學博士論文, 224 頁。
[徐 廷 (2022) 高分辨率環境背景下的和龍大洞遺址石器工業研究. 中國科學院大學博士論文, 224 頁]
350. 徐 廷·陳福友·汪英華 (2013) 「大窩遺址二道溝地点坡積地層出土的石核及其剥片技術」[《人類學學報》32 (4), 441-453]。
[徐 廷·陳福友·汪英華 (2013) 大窩遺址二道溝地点坡積地層出土的石核及其剥片技術. 人類學學報 32 (4), 441-453]
351. 徐 廷·陳 虹·李 堯 (2023) 「吉林和龍大洞遺址 2010 年出土彫刻器的初步研究」[《人類學學報》42 (6), 751-763]。
[徐 廷·陳 虹·李 堯 (2023) 吉林和龍大洞遺址 2010 年出土彫刻器的初步研究. 人類學學報 42 (6), 751-763]
352. 徐 廷·方 啓·趙 瑩·丁伯涛·石玉鑫·楊國榮·閻家海 (2020) 「吉林汪清新興遺址第 1 地点調查與試掘簡報」[《人類學學報》40 (5), 904-916]。
[徐 廷·方 啓·趙 瑩·丁伯涛·石玉鑫·楊國榮·閻家海 (2020) 吉林汪清新興遺址第 1 地点調查與試掘簡報. 人類學學報 40 (5), 904-916]
353. 徐 廷·趙海龍·顧聆博 (2023) 「吉林省和龍大洞旧石器遺址 2010 年發掘報告」[《人類學學報》42 (5), 651-666]。
[徐 廷·趙海龍·顧聆博 (2023) 吉林省和龍大洞旧石器遺址 2010 年發掘報告. 人類學學報 42 (5), 651-666]
354. 徐淑彬 (1999) 「鳳凰嶺文化初探」[第七屆中國古脊椎動物學學術年會論文集], 249-257, 海洋出版社。
[徐淑彬 (1999) 鳳凰嶺文化初探. 第七屆中國古脊椎動物學學術年會論文集, 249-257, 海洋出版社]
355. 徐淑彬 (1999) 「沂沭河流域的旧石器文化」, 197 頁, 中國國際廣播出版社 (北京)。
[徐淑彬 (1999) 沂沭河流域的旧石器文化. 197 頁, 中國國際廣播出版社 (北京)]
356. 徐淑彬·張敬民·黃新忠 (1989) 「山東鄒城望海樓發現旧石器地点」[《考古》1989 (11), 961-966]。
[徐淑彬·張敬民·黃新忠 (1989) 山東鄒城望海樓發現旧石器地点. 考古 1989 (11), 961-966]
357. 徐 哲 (2018) 「華北旧石器時代石鏃的發現與研究綜述」[第十六屆中國古脊椎動物學學術年會論文集], 229-242, 海洋出版社 (北京)。
[徐 哲 (2018) 華北旧石器時代石鏃的發現與研究綜述. 第十六屆中國古脊椎動物學學術年會論文集, 229-242, 海洋出版社 (北京)]

358. 薛祥熙·周衛建·周傑 (1999) 「末次冰期極盛期陝西關中地區古氣候古環境演變的生物記錄」[科學通報] 44(22), 2444-2447。
[薛祥熙·周衛建·周杰 (1999) 末次冰期極盛期陝西關中地區古氣候古環境演變的生物紀錄。科學通報 44(22), 2444-2447]
- Y**
359. 楊石霞·岳健平 (2020) 「史前人類對資源的認知和開發能力—石器原料研究的方法與意義」[人類學學報] 39(1), 12-20。
[楊石霞·岳健平 (2020) 史前人類對資源的認知和開發能力—石器原料研究的方法與意義。人類學學報 39(1), 12-20]
360. 儀明潔·高星·張曉凌·孫永娟·Brantingham P. J·Madsen D.B·Rhode D. (2011) 「青藏高原邊緣地區史前遺址 2009 年調查試掘報告」[人類學學報] 30(2), 124-136。
[儀明潔·高星·張曉凌·孫永娟·Brantingham P. J·Madsen D.B·Rhode D. (2011) 青藏高原邊緣地區史前遺址 2009 年調查試掘報告。人類學學報 30(2), 124-136]
361. 儀明潔·裴樹文·陳福友·王惠民·高星 (2015) 「水洞溝第 12 地點楔形石核的“操作鏈”分析」[邊疆考古研究] 6, 39-55, 科學出版社 (北京)。
[儀明潔·裴樹文·陳福友·王惠民·高星 (2015) 水洞溝第 12 地點楔形石核的“操作鏈”分析。邊疆考古研究 6, 39-55, 科學出版社 (北京)]
362. 儀明潔 (2019) 「中國北方細石葉技術與社會組織複雜化進程」[考古] 2019(9), 70-78。
[儀明潔 (2019) 中國北方細石葉技術與社會組織複雜化進程。考古 2019(9), 70-78]
363. 儀明潔·余官玥·陳福友·張曉凌 (2023) 「泥河灣盆地白洗溝遺址出土的石製品」[人類學學報] 42(5), 590-603。
[儀明潔·余官玥·陳福友·張曉凌 (2023) 泥河灣盆地白洗溝遺址出土的石製品。人類學學報 42(5), 590-603]
364. 余官玥·儀明潔·張曉凌·陳福友 (2020) 「水洞溝地區白雲岩細石葉的微量實驗研究」[人類學學報] 39(2), 193-207。
[余官玥·儀明潔·張曉凌·陳福友 (2020) 水洞溝地區白雲岩細石葉的微量實驗研究。人類學學報 39(2), 193-207]
365. 袁寶印·侯亞梅·Budia M·楊小平·黃慰文 (2006) 「中國北方晚第四紀史前文化與地層劃分框架」[旧石器時代論集—紀念水洞溝遺址發現八十周年], 8-16, 文物出版社 (北京)。
[袁寶印·侯亞梅·Budia M·楊小平·黃慰文 (2006) 中國北方晚第四紀史前文化與地層劃分框架。旧石器時代論集—紀念水洞溝遺址發現八十周年, 8-16, 文物出版社 (北京)]
366. 原思訓·趙朝洪·朱曉東·閻金鑄·閻雅枚 (1998) 「山西吉縣柿子灘遺址的年代與文化研究」[考古] 1998(6), 57-62。
[原思訓·趙朝洪·朱曉東·閻金鑄·閻雅枚 (1998) 山西吉縣柿子灘遺址的年代與文化研究。考古 1998(6), 57-62]
367. 貝曉楓·徐淑彬·吳瑞吉 (1989) 「山東莒南發現的石製品」[人類學學報] 8(1), 32-37。
[貝曉楓·徐淑彬·吳瑞吉 (1989) 山東莒南發現的石製品。人類學學報 8(1), 32-37]

368. 葉燦陽·陳勝前·趙 潮·胡晓農·郭明建·包青川 (2023) 「冀蒙交界裕民文化鏃狀器的製作技術」『人類學學報』42(3), 317-330。
[叶灿阳·陈胜前·赵潮·胡晓农·郭明建·包青川 (2023) 冀蒙交界裕民文化鏃状器的制作技术. 人类学学报 42(3), 317-330]
369. 葉啓曉 (2004) 「黑龍江省旧石器時代文化遺存研究」『边疆考古研究』2, 37-65。
[叶启晓 (2004) 黑龙江省旧石器时代文化遗存研究. 边疆考古研究 2, 37-65]
370. 于匯歷·鄒向前 (1992) 「黑龍江省龍江縣缸窰地點的細石器遺存」『北方文物』1992(3), 8-15。
[于汇历·邹向前 (1992) 黑龙江省龙江县缸窰地点的细石器遗存. 北方文物 1992(3), 8-15]
371. 于匯歷·田 禾 (2008) 「黑龍江神泉旧石器時代晚期遺址石製品初步研究」『考古學研究』7, 167-182, 科学出版社 (北京)。
[于汇历·田禾 (2008) 黑龙江神泉旧石器时代晚期遗址石制品初步研究. 考古学研究 7, 167-182. 科学出版社 (北京)]
372. 于志勇 (1995) 「試論中国北方細石器的起源」『考古与文物』1995(1), 12-22。
[于志勇 (1995) 试论中国北方细石器的起源. 考古与文物 1995(1), 12-22]
373. 岳健平·李有壽·楊石霞 (2022) 「中国东北地区旧 - 新石器時代過渡的文化生態研究」『考古』2022(3), 59-68。
[岳健平·李有寿·杨石霞 (2022) 中国东北地区旧 - 新石器时代过渡的文化生态研究. 考古 2022(3), 59-68]
374. 岳健平·侯亞梅·楊石霞·常 陽·張 偉·李有壽·郝懷東·王雪東·仇立民 (2017) 「黑龍江省桃山遺址 2014 年度發掘報告」『人類學學報』36(2), 180-192。
[岳健平·侯亚梅·杨石霞·常阳·张伟·李有寿·郝怀东·王雪东·仇立民 (2017) 黑龙江省桃山遗址 2014 年发掘报告. 人类学学报 36(2), 180-192]
375. 岳健平·王 哈·加藤真二 (2020) 「日本北海道地区細石葉技術研究概述」『人類學學報』39(3), 392-403。
[岳健平·王哈·加藤真二 (2020) 日本北海道地区细石叶技术研究概述. 人类学学报 39(3), 392-403]
376. 曾晨茹·儀明潔·高 星 (2023) 「細石叶功能研究的現狀與思考」『人類學學報』42(4), 554-563。
[曾晨茹·仪明洁·高星 (2023) 细石叶功能研究的现状与思考. 人类学学报 42(4), 554-563]
377. 張 超·崔天興 (2018) 「虎頭梁遺址遺存的空間分布與河谷風向」『華夏考古』2018(5), 44-51。
[张超·崔天兴 (2018) 虎头梁遗址遗存的空分布与河谷风向. 华夏考古 2018(5), 44-51]
378. 張東菊·陳發虎·Bettinger R. L. · Barton L. · 吉篤學·Morgan C. · 王 輝·程曉鍾·董廣輝·Guilderson T. P. · 趙 暉 (2010) 「甘肅大地灣遺址距今 6 萬年來的考古記錄與旱作農業起源」『科學通報』55(10), 887-894。
[张东菊·陈发虎·Bettinger R. L. · Barton L. · 吉笃学·Morgan C. · 王辉·程晓钟·董广辉·Guilderson T. P. · 赵晖 (2010) 甘肃大地湾遗址距今 6 万年来的考古纪录与旱作农业起源. 科学通报 55(10), 887-894]

379. 張東菊·陳發虎·吉篤學·Barton L.·Brantingham P. J.·王 輝 (2011) 「甘肅蘇苗塬頭地点石製品特徵与古環境分析」『人類學學報』30(3), 289-298。
 [張東菊·陳發虎·吉篤學·Barton L.·Brantingham P. J.·王 輝 (2011) 甘肅蘇苗塬頭地点石製品特徵与古環境分析。人類學學報 30(3), 289-298]
380. 張改課 (2021) 「黄河中游晋陕峡谷地区旧石器考古研究现状与思考」『考古与文物』2021 (6), 51-59。
 [張改課 (2021) 黄河中游晋陕峡谷地区旧石器考古研究现状与思考。考古与文物 2021 (6), 51-59]
381. 張居中·李占揚 (1996) 「河南舞陽大崗細石器地点發掘報告」『人類學學報』15 (2), 105-113。
 [張居中·李占揚 (1996) 河南舞陽大崗細石器地点發掘報告。人類學學報 15(2), 105-113]
382. 張俊娜·夏正楷·王幼平·顧万發·汪松枝 (2018) 「河南新密李家溝遺址古環境分析」『中原文物』2018(6), 69-81。
 [張俊娜·夏正楷·王幼平·顧万發·汪松枝 (2018) 河南新密李家溝遺址古環境分析。中原文物 2018 (6), 69-81]
383. 張瑞嶺 (1994) 「關於河南許昌靈井遺址和陝西大荔沙苑石器地点群時代問題的一些看法—兼及我國“中石器時代”問題的討論」『考古与文物』1994(2), 59-63。
 [張瑞嶺 (1994) 關於河南許昌靈井遺址和陝西大荔沙苑石器地点群時代問題的一些看法—兼及我國“中石器時代”問題的討論。考古与文物 1994(2), 59-63]
384. 張森水 (1999) 「小口子史前地点發現的石製品研究」『人類學學報』18 (2), 81-101。
 [張森水 (1999) 小口子史前地点發現的石製品研究。人類學學報 18 (2), 81-101]
385. 張松林·王幼平·汪松枝·趙靜芳 (2011) 「河南新鄭趙莊和登封西施旧石器時代遺址」『2010 中国重要考古發現』, 10-13, 文物出版社 (北京)。
 [張松林·王幼平·汪松枝·趙靜芳 (2011) 河南新鄭趙莊和登封西施旧石器時代遺址。2010 中国重要考古發現, 10-13, 文物出版社 (北京)]
386. 張素琳 (1999) 「山西垣曲發現的石器」『中原文物』1999(4), 18-24。
 [張素琳 (1999) 山西垣曲發現的石器。中原文物 1999(4), 18-24]
387. 張素琳 (2003) 「山西垣曲古文化与環境之關係探究」『中国歷史文物』2003(3), 73-81。
 [張素琳 (2003) 山西垣曲古文化与環境之關係探究。中国歷史文物 2003(3), 73-81]
388. 張維華 (1986) 「河南省新發現的旧石器 and 人類化石」『中原文物』1986(2), 1-15。
 [張維華 (1986) 河南省新發現的旧石器 and 人類化石。中原文物 1986(2), 1-15]
389. 張文君 (1990) 「山西吉縣柿子灘旧石器遺址試掘記」『考古与文物』1990(1), 1-5。
 [張文君 (1990) 山西吉縣柿子灘旧石器遺址試掘記。考古与文物 1990(1), 1-5]
390. 張曉凌 (2003) 「丁村 77: 01 地点和下川遺址細石器製品的類型初探」『文物春秋』2003(1), 1-11。
 [張曉凌 (2003) 丁村 77:01 地点和下川遺址細石器製品的類型初探。文物春秋 2003(1), 1-11。]
391. 張曉凌·于匯歷·高 星 (2006) 「黑龍江十八站遺址的新材料与年代」『人類學學報』25(2), 115-128。
 [張曉凌 (2006) 黑龍江十八站遺址的新材料与年代。人類學學報 25(2), 115-128]

392. 張曉凌·高星·沈辰·陳福友·王春雪 (2010) 「虎頭梁遺址尖狀器功能的微痕研究」《人類學學報》29(4), 337-354。
 [張曉凌·高星·沈辰·陳福友·王春雪 (2010) 虎頭梁遺址尖狀器功能的微痕研究. 人類學學報 29(4), 337-354]
393. 張曉凌·沈辰·高星·陳福友·王春雪 (2010) 「微痕分析確認万年前的複合工具與其功能」《科學通報》55(3), 229-236。
 [張曉凌·沈辰·高星·陳福友·王春雪 (2010) 微痕分析確認万年前的複合工具與其功能. 科學通報 55(3), 229-236]
394. 張雪微·王春雪·李有壽 (2022) 「黑龍江查哈農場太平湖第八作業區東北地點石器工業面貌分析」《邊疆考古研究》32, 65-85, 科學出版社 (北京)。
 [張雪微·王春雪·李有壽 (2022) 黑龍江查哈農場太平湖第八作業區東北地點石器工業面貌分析. 邊疆考古研究 32, 65-85. 科學出版社 (北京)]
395. 張祖方 (1985) 「蘇北馬陵山中段的細石器」《東南文化》1, 23-33。
 [張祖方 (1985) 蘇北馬陵山中段的細石器. 東南文化 1, 23-33]
396. 張祖方 (1987) 「瓜墩文化」《東南文化》1987(2), 1-18。
 [張祖方 (1987) 瓜墩文化. 東南文化 1987(2), 1-18]
397. 趙賓福 (2003) 「東北石器時代考古」, 461 頁, 吉林大學出版社 (長春)。
 [趙賓福 (2003) 東北石器時代考古. 461 頁. 吉林大學出版社 (長春)]
398. 趙春青 (2012) 「試論中國新石器時代早期文化的區域特徵與發展階段」《考古學研究》9(上), 11-23, 文物出版社 (北京)。
399. 趙潮·王幼平·吳錦程 (2022) 「華北早期細石器葉工藝遺存的分期與相關問題研究」《考古》2022(8), 70-83。
 [趙潮·王幼平·吳錦程 (2022) 華北早期細石器葉工藝遺存的分期與相關問題研究. 考古 2022(8), 70-83]
400. 趙海龍 (2008) 「談吉林省舊石器時代考古調查」《東北史地》2008(6), 75-79。
 [趙海龍 (2008) 談吉林省舊石器時代考古調查. 東北史地 2008(6), 75-79]
401. 趙海龍 (2011) 「細石器葉剝製實驗研究」《人類學學報》30(1), 22-31。
 [趙海龍 (2011) 細石器葉剝製實驗研究. 人類學學報 30(1), 22-31]
402. 趙海龍 (2011) 「吉林和龍大洞舊石器遺址」《2010 中國重要考古發現》, 5-9, 文物出版社 (北京)。
 [趙海龍 (2011) 吉林和龍大洞舊石器遺址. 2010 中國重要考古發現. 5-9. 文物出版社 (北京)]
403. 趙海龍·王立新·夏宏宇·王春權 (2010) 「東北漁獵型新石器時代文化的個案—吉林通榆長坨子Ⅲ號地點細石器的發現與研究」《中國考古學會第十二次年會論文集 2009》, 20-35, 文物出版社 (北京)。
 [趙海龍·王立新·夏宏宇·王春權 (2010) 東北漁獵型新石器時代文化的個案—吉林通榆長坨子Ⅲ號地點細石器的發現與研究. 中國考古學會第十二次年會論文集 2009, 20-35, 文物出版社 (北京)]
404. 趙海龍·全広·閔曉蒙·楊森燃·譚培陽 (2021) 「河北泥河灣盆地地下卜莊遺址端刮器功能的實驗分析」《人類學學報》40(4), 600-610。
 [趙海龍·全広·閔曉蒙·楊森燃·譚培陽 (2021) 河北泥河灣盆地地下卜莊遺址端刮器功能的實驗分析. 人類學學報 40(4), 600-610]

405. 趙海龍·徐 廷·馬東東 (2016) 「吉林和龍大洞遺址黑曜岩彫刻器的製作技術與功能」『人類學學報』35(4), 537-548。
[趙海龍·徐廷·馬東東 (2016) 吉林和龍大洞遺址黑曜岩雕刻器的製作技術與功能。人類學學報 35(4), 537-548]
406. 趙靜芳 (2006) 「試論華北旧石器時代向新石器時代的過渡」『山西省考古學會論文集』4, 24-30, 山西人民出版社 (太原)。
[趙靜芳 (2006) 試論華北旧石器時代向新石器時代的過渡。山西省考古學會論文集 4, 24-30, 山西人民出版社 (太原)]
407. 趙靜芳 (2008) 「柿子灘遺址 S12 地點發現綜述」『考古學研究』7, 223-231, 科學出版社 (北京)。
[趙靜芳 (2008) 柿子灘遺址 S12 地點發現綜述。考古學研究 7, 223-231, 科學出版社 (北京)]
408. 趙 娜·王建平·郭明建 (2022) 「河北康保興隆遺址的光積光測年研究」『第四紀研究』42(5), 1297-1310。
[趙 娜·王建平·郭明建 (2022) 河北康保興隆遺址的光積光測年研究。第四紀研究 42(5), 1297-1310]
409. 趙清坡·李占揚 (2018) 「靈井許昌人遺址細石葉剝片工藝觀察」『瑤瑤集 王建先生誕辰 90 周年紀念文集』, 316-325, 三晉出版社 (太原)。
[趙清坡·李占揚 (2018) 靈井許昌人遺址細石葉剝片工藝觀察。瑤瑤集 王建先生誕辰 90 周年紀念文集, 316-325, 三晉出版社 (太原)]
410. 趙 瑩·徐 廷·石玉鑫 (2021) 「吉林省和龍市菜營子溝遺址調查與試掘簡報」『文物春秋』2021(5), 68-76。
[趙 瑩·徐 廷·石玉鑫 (2021) 吉林省和龍市菜營子溝遺址調查與試掘簡報。文物春秋 2021(5), 68-76]
411. 鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2011) 「新密李家溝遺址發掘的主要收穫」『中原文物』2011(1), 4-6。
[鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2011) 新密李家溝遺址發掘的主要收穫。中原文物 2011(1), 4-6]
412. 鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2018) 「河南新密李家溝遺址北區 2010 年發掘簡報」『中原文物』2018(6), 31-37。
[鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2018) 河南新密李家溝遺址北區 2010 年發掘簡報。中原文物 2018(6), 31-37]
413. 鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2018) 「2013 年河南登封東施旧石器晚期遺址發掘簡報」『中原文物』2018(6), 38-45。
[鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2018) 河南登封東施旧石器晚期遺址發掘簡報。中原文物 2018(6), 38-45]
414. 鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2021) 「鄭州旧石器圖錄」, 288 頁, 黃河水利出版社 (鄭州)。
[鄭州市文物考古研究院·北京大學考古文博學院 (2021) 鄭州旧石器圖錄, 288 頁, 黃河水利出版社 (鄭州)]
415. 支 媛 (2021) 「中國旧石器時代發現的骨器」『青年考古學家』2, 39-53, 科學出版社 (北京)。
[支 媛 (2021) 中國旧石器時代發現的骨器。青年考古學家 2, 39-53, 科學出版社 (北京)]

416. 中国国家博物馆·河北省文物考古研究院·张家口市文物考古研究所·康保县文物局·暨南大学历史学系 (2021)「河北康保县兴隆遗址 2018~2019 年发掘简报」《考古》2021(1), 1-25。
[中国国家博物馆·河北省文物考古研究院·张家口市文物考古研究所·康保县文物局·暨南大学历史学系 (2021) 河北康保县兴隆遗址 2018~2019 年发掘简报. 考古 2021(1), 1-25]
417. 中国社会科学院考古研究所 (1983)「中国考古学中碳十四年代数据集 1965-1981」, 321 页, 文物出版社 (北京)。
[中国社会科学院考古研究所 (1983) 中国考古学中碳十四年代数据集 1965-1981, 321 页. 文物出版社 (北京)]
418. 中国社会科学院考古研究所 (1992)「中国考古学中碳十四年代数据集 1965-1991」, 487 页, 文物出版社 (北京)。
[中国社会科学院考古研究所 (1992) 中国考古学中碳十四年代数据集 1965-1991, 487 页. 文物出版社 (北京)]
419. 中国社会科学院考古研究所 (2010)「考古中华」, 378 页, 科学出版社 (北京)。
[中国社会科学院考古研究所 (2010) 考古中华, 378 页, 科学出版社 (北京)]
420. 中国社会科学院考古研究所山东工作队 (1993)「山东汶、泗流域发现的一批细石器」《考古》1993(8), 673-682。
[中国社会科学院考古研究所山东工作队 (1993) 山东汶、泗流域发现的一批细石器. 考古 1993(8), 673-682]
421. 中国社会科学院考古研究所·陕西省考古研究所 (2007)「陕西宜川县龙王庙旧石器时代遗址」《考古》2007(7), 3-8。
[中国社会科学院考古研究所·陕西省考古研究所 (2007) 陕西宜川县龙王庙旧石器时代遗址. 考古 2007(7), 3-8]
422. 中国社会科学院考古研究所·山西省考古研究所 (2016)「下川—旧石器时代晚期文化遗址发掘报告」, 552 页, 科学出版社 (北京)。
[中国社会科学院考古研究所·山西省考古研究所 (2016) 下川—旧石器时代晚期文化遗址发掘报告, 552 页. 科学出版社 (北京)]
423. 中国社会科学院考古研究所·陕西省考古研究院 (2021)「龙王庙遗址第一地点 旧石器时代晚期遗址发掘报告」, 538 页, 文物出版社 (北京)。
[中国社会科学院考古研究所·陕西省考古研究院 (2021) 龙王庙遗址第一地点 旧石器时代晚期遗址发掘报告, 538 页. 文物出版社 (北京)]
424. 中国社会科学院考古研究所下川工作队·山西省文物工作委员会 (1987)「山西阳城、大同地区石器时代遗址调查报告」《考古学集刊》5, 1-26, 中国社会科学出版社 (北京)。
[中国社会科学院考古研究所下川工作队·山西省文物工作委员会 (1987) 山西阳城、大同地区石器时代遗址调查报告. 考古学集刊 5, 1-26, 中国社会科学出版社 (北京)]
425. 中美联合考察队 (2006)「宁夏鸽子山盆地考古报告」《旧石器时代论集—纪念水洞沟遗址发现八十周年》, 106-131, 文物出版社 (北京)。
[中美联合考察队 (2006) 宁夏鸽子山盆地考古报告, 旧石器时代论集—纪念水洞沟遗址发现八十周年, 106-131, 文物出版社 (北京)]

426. 周国興 (1974) 「河南許昌靈井的石器時代遺存」『考古』1974(2), 91-98。
 [周国兴 (1974) 河南许昌灵井的石器时代遗存. 考古 1974(2), 91-98]
427. 周国興 (2011) 「安志敏先生指導我研究靈井中石器文化遺存」『考古一生—安志敏先生紀念文集』, 62-77, 文物出版社 (北京)。
 [周国兴 (2011) 安志敏先生指导我研究灵井中石器文化遗存. 考古一生—安志敏先生纪念文集, 62-77, 文物出版社 (北京)]
428. 周振宇 (2022) 「寧夏水洞溝遺址石製品熱處理實驗研究」, 202 頁, 文物出版社 (北京)。
 [周振宇 (2022) 宁夏水洞沟遗址石制品热处理实验研究. 202 页, 文物出版社 (北京)]
429. 朱之勇 (2004) 「俄羅斯濱海地區與我國東北地區舊石器時代晚期文化之比較」『人類學學報』23 增刊 (紀念裴文中教授百年誕辰論文集), 199-210。
 [朱之勇 (2004) 俄罗斯滨海地区与我国东北地区旧石器时代晚期文化之比较. 人类学学报 23 增刊 (纪念裴文中教授百年诞辰论文集), 199-210]
430. 朱之勇 (2008a) 「賈蘭坡與中國細石核分類問題研究」『天道酬勤桃李香—賈蘭坡院士百年誕辰紀念文集』, 247-250, 科學出版社 (北京)。
 [朱之勇 (2008a) 贾兰坡与中国细石核分类问题研究. 天道酬勤桃李香—贾兰坡院士百年诞辰纪念文集, 247-250, 科学出版社 (北京)]
431. 朱之勇 (2008b) 「晚更新世中國細石器遺址的分布特徵」『第十一屆中國古脊椎動物學學術年會論文集』, 173-182, 海洋出版社。
 [朱之勇 (2008b) 晚更新世中国细石器遗址的分布特征. 第十一届中国古脊椎动物学学术年会论文集, 247-250, 科学出版社 (北京)]
432. 朱之勇 (2008c) 「試論當前細石器研究中的幾個概念問題」『華夏考古』2008(3), 55-59。
 [朱之勇 (2008c) 试论当前细石器研究中的几个概念问题. 华夏考古 2008(3), 55-59]
433. 朱之勇 (2008d) 「中國細石器起源之我見」『北方文物』2008(4), 1-6。
 [朱之勇 (2008d) 中国细石器起源之我见. 北方文物 2008(4), 1-6]
434. 朱之勇 (2009) 「中國細石器相關問題研究評論」『四川文物』2009(3), 45-51。
 [朱之勇 (2009) 中国细石器相关问题研究评论. 四川文物 2009(3), 45-51]
435. 朱之勇 (2011) 「我國北方細石器工業分區與分期問題初探」『北方文物』2011(2), 17-20。
 [朱之勇 (2011) 我国北方细石器工业分区与分期问题初探. 北方文物 2011(2), 17-20]
436. 朱之勇·高 星 (2006) 「虎頭梁遺址模型細石核研究」『人類學學報』25(2), 129-142。
 [朱之勇·高星 (2006) 虎头梁遗址模型细石核研究. 人类学学报 25(2), 129-142]
437. 朱之勇·高 星 (2007) 「虎頭梁遺址中的細石器技術」『人類學學報』26(4), 305-310。
 [朱之勇·高星 (2007) 虎头梁遗址中的细石器技术. 人类学学报 26(4), 305-310]
438. 朱之勇·唐 睿·王濤玉·王 赫 (2021) 「山西吉縣柿子灘細石器遺址發掘與研究進展」『邊疆考古研究』30, 85-95, 科學出版社 (北京)。
 [朱之勇·唐睿·王濤玉·王赫 (2021) 山西吉县柿子滩细石器遗址发掘与研究进展. 边疆考古研究 30, 85-95, 科学出版社 (北京)]

439. 鄒向前·李會泉 (2001) 「黑龍江省發現的細石核與周邊地區同類器物的比較研究」[黑河學刊] 2001 (1), 66-70.

[鄒向前·李會泉(2001)黑龍江省發現的細石核與周邊地區同類器物的比較研究. 黑河學刊2001(1), 66-70]

英語文獻

440. Barton L., Brantingham P. J., Ji D. 2007. Late Pleistocene climate change and Paleolithic cultural evolution in northern China: Implications from the Last Glacial Maximum. In: *Late Quaternary climate change and human adaptation in arid China*. 105-128. Elsevier B.V., Amsterdam.

441. Bestel S., Crawford G. W., Liu L., Shi J., Song Y., Chen X. 2014. The evolution of millet domestication, Middle Yellow River Region, North China: Evidence from charred seeds at the late Upper Paleolithic Shizitan Locality 9 site. *The Holocene* 24(3) 261-265.

442. Bettinger R.L., Barton L., Morgan C., Chen F., Wang H., Guilderson T.P., Ji D., Zhang D. 2011. The Transition to Agriculture at Dadiwan, People's Republic of China. *Current Anthropology* 51(5), 703-714.

443. Chang Y. 2013. Human activity and lithic technology between Korea and Japan from MIS 3 to MIS 2 in the Late Paleolithic period. *Quaternary International* 308/309, 13-26.

444. Chen C. 2007. Techno-typological comparison of microblade cores from East Asia. In: *Origin and spread of microblade technology in Northern Asia and North America*. 7-38. Archaeology Press, Simon Fraser University, Burnaby.

445. Chen C., Wang X. 1989. Upper Paleolithic microblade industries in North China and their relationships with Northeast Asia and North America. *Arctic Anthropology* 26(2), 127-156.

446. Chen H., Chen C., Wang Y., Shen C. 2013. Cultural adaptations to the Late Pleistocene: Regional variability of human behavior in southern Shanxi Province, central-northern China. *Quaternary international* 295, 253-261.

447. Deng Y., Ren H., Li G., Gou S., Ding W., Yang H., Tu H., Zhang Y., Petraglia M. D. 2023. Caodiaoni: One of the oldest microblade sites in Northern China. 曹掉牛：中国北方最早的细石叶遗址之一。 *Archaeological and Anthropological Sciences* 15, Article number: 167, pp.15. Published online: 24 Oct 2023.

448. Derev'anko A. P. ed. 1998. The Paleolithic of Siberia: new discoveries and interpretations. 406pp. University of Illinois Press, Urbana.

449. Feng Y., 2020. Microblades in MIS2 Central China: Cultural change and adaptive strategies. *PaleoAmerica* 6(2) 139-157.

450. Elston R.G., Brantingham P.J. 2002. Microblade in Northern Asia: A risk-minimizing strategy of the Late Paleolithic and Early Holocene. In: *Think Small: Global Perspectives on Microlithization*. *Archaeological Papers of the American Anthropological Association* 12, 103-116. American Anthropological Association, Arlington.

451. Elston R., Dong G., Zhang D., 2011. Late Pleistocene intensification technologies in Northern China. *Quaternary International* 242(2), 401-415.
452. Gai P. 1985. Microlithic Industries in China. In: *Palaeoanthropology and Palaeolithic archaeology in the People's Republic of China*, 225-241. Academic Press, New York.
453. Gai P. 1991. Microblade tradition around the Northern Pacific Rim: A Chinese perspective. In: *Contributions to the XIIIth congress of INQUA*. 21-31. [中国科学院古脊椎動物与古人類研究所参加第十三屆國際第四紀大會論文集]. 北京科学技術出版社(北京)。
454. Gómez Coutouly Y. A. 2007. Rethinking the Ustinovka Complex: Lithic Technology and Raw Material in Palaeolithic Microblade Industries of Primorye (Russian Far East). *North Pacific Prehistory* 1, 65-110.
455. Gómez Coutouly Y. A. 2011. Identifying Pressure Flaking Modes at Diuktai Cave: A Case Study of the Siberian Upper Paleolithic Microblade Tradition. In: *From the Yenisei to the Yukon: Interpreting lithic assemblage variability in late Pleistocene/early Holocene Beringia*, 75-90. Texas A&M University Press, College Station.
456. Gómez Coutouly Y. A. 2018. The emergence of pressure knapping microblade technology in Northeast Asia. *Radiocarbon* 60(3), 821-855.
457. Grimaldi S., Santaniello F., Cohen D., Shi J., Song Y. 2022. Last Glacial Maximum Microblade Production at Shizitan 29 and its Implications for North China Pressure Technology. *Journal of Field Archaeology* 47, pp.18. Published online: 28 Oct 2022.
<https://doi.org/10.1080/00934690.2022.2137754>.
458. Guan Y., Wang X., Wang F., Olsen J. W., Pei S., Zhou Z., Gao X. 2020. Microblade remains from the Xishahe site, North China and their implications for the origin of microblade technology in Northeast Asia. *Quaternary International* 535, 38-47.
459. Guan Y., Zhou Z. 2018 Dispersion of ancient humans in east Asia during the late Pleistocene: Geography, archaeology and ecology. *Journal of Research in Environmental Science and Toxicology* 7(2), 27-36.
460. Jia P. W., Doelman T., Chen C., Zhao H., Lin S., Torrence R., Glascock M. D. 2010. Moving sources: A preliminary study of volcanic glass artifact distributions in northeast China using PXRF. *Journal of Archaeological Science* 37(7), 1670-1677.
461. Kanomata Y., Aoki Y., Sasaki S., Kumagai R., Akoshima K., Tabarev A. V. 2022. Obsidian Transportation Across the Tsugaru Strait in the Context of the Late Pleistocene. In: *Quantifying Stone Age Mobility: Scales and Parameters*. 69-94. Springer, Cham.
462. Kato S. 2014. Human dispersal and interaction during the spread of microblade industries in East Asia. *Quaternary International* 347, 105-112.
463. Kato S. 2017. The use of lithic raw materials during the Upper Paleolithic in eastern China: A focus on microblade industries. *Quaternary International* 442, 66-77.

464. Kato S. 2021. The cultural sequence of the Middle and Upper Palaeolithic in northern China. *Quaternary International* 596, 54-64.
465. Kato S. 2022. Upper Paleolithic human dispersals and cultural diffusions in Eastern Eurasia. *人類学学报* 42(6), 842-856.
466. Keates S. G. 2007. Microblade Technology in Siberia and Neighbouring Regions: An Overview. In : *Origin and Spread of Microblade Technology in Northern Asia and North America*. 125-146. Archaeology Press, Simon Fraser University, Burnaby.
467. Keates S. G., Postnov A. V., Kuzmin Y. V. 2019. Towards the origin of microblade technology in Northeastern Asia. *Vestnik of Saint Petersburg University. History* 64(2), 390-414.
468. Kunikita D., Shevkomud I., Yoshida K., Onuki S., Yamahara T., Matsuzaki H. 2013. Dating charred remains on pottery and analyzing food habits in the early Neolithic period in Northeast Asia. *Radiocarbon* 55(2-3), 1334-1340.
469. Kunikita D., Wang L., Onuki S., Sato H., Matsuzaki H. 2017. Radiocarbon dating and dietary reconstruction of the Early Neolithic Houtaomuga and Shuangta sites in the Song-Nen Plain, Northeast China. *Quaternary International* 441: 62-68.
470. Kuzmin Y. V. 2007. Geoarchaeological Aspects of the Origin and Spread of Microblade Technology in Northern and Central Asia. In: *Origin and Spread of Microblade Technology in Northern Asia and North America*. 115-124. Archaeology Press, Simon Fraser University, Burnaby.
471. Kuzmin Y. V., Keates S. G. 2021. Northeast China was not the place for the origin of the Northern Microblade Industry: A comment on Yue et al. (2021). *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 576, article no. 110512, 3pp.
472. Kajiwa H. 2008. Microlithization in Eurasia; A brief review on the microblade reduction technology and its significance as a behavioral threshold of the modern humans. *Bulletin of Tohoku Fukushi University* 32. 207-234.
473. Li C., Li Y., Li G., Wang C., Li B. 2019. Environmental change and human activity in the northeastern part of the North China Plain during early MIS-2. *Journal of Asian Earth Sciences* 170, 96-105.
474. Li Z., Kato S. 2010. The Microblade Industry of Lingjing, Xuchang, Henan Province, China: Microblade Industry of the Southernmost in North China. In: *The Initial Human Habitation of The Continental and The Insular Parts of The Northeast Asia*. 166-170. Sakhalin State University, Yuzhno-Sakhalinsk.
475. Li Z., Doyon L., Li H., Wang Q., Zhang Z., Zhao Q., d' Errico F. 2019. Engraved bones from the archaic hominin site of Lingjing, Henan Province. *Antiquity* 93(370), 886-900.
476. Li Z., Doyon L., Fang F., Ledevin R., Queffelec A., Ragun E., d' Errico F. 2020. A Paleolithic bird figurine from the Lingjing site, Henan, China. *PLOS ONE*, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0233370>, 24pp.
477. Li Z., Kunikita D., Kato S. 2017. Early pottery from the Lingjing site and the emergence of pottery in northern China. *Quaternary International* 441: 49-61.

478. Liu L., Field J., Fullagar R., Zhao C., Chen X., Yu J. 2010. A functional analysis of grinding stones from an early Holocene site at Donghulin, North China. *Journal of Archaeological Science* 37(10), 2630-2639.
479. Liu L., Ge W., Bestel S., Jones D., Shi J., Song Y., Chen X. 2011. Plant exploitation of the last foragers at Shizitan in the Middle Yellow River Valley China: evidence from grinding stones. *Journal of Archaeological Science* 38(12), 3524-3532.
480. Liu L., Bestel S., Shi J., Song Y., Chen X. 2013. Paleolithic human exploitation of plant foods during the last glacial maximum in North China. *PNAS* 110 (14), 5380-5385.
481. Liu L., Levin M. J., Michael F. Bonomo M. F., Wang J., Shi J., Chen X., Han J., Song Y. 2018. Harvesting and processing wild cereals in the Upper Palaeolithic Yellow River Valley, China. *Antiquity* 92(363), 603-619.
482. Liu L., Duncan N. A., Chen X., Cui J. 2019. Exploitation of job's tears in Paleolithic and Neolithic China: Methodological problems and solutions. *Quaternary International* 529, 25-37.
483. Lu J., Xu Q., Liu Y., Hu Y., Li M., Zhang S. 2018. Holocene environmental changes and human activity at the Jijitan site in the Nihewan Basin, China. *Holocene* 28 (7), 1151-1159
484. Ma Z., Zhang C., Li Q., Perry L., Yang X. 2017. Understanding the possible contamination of ancient starch residues by adjacent sediments and modern plants in northern China. *Sustainability* 9(5), article no. 752, 12pp.
485. Madsen D.B., et al. 1996. Settlement Patterns Reflected in Assemblages from the Pleistocene / Holocene Transition of North Central China. *Journal of Archaeological Science* 23, 217-231.
486. Mei H. 2023. The occurrence and variation of the microblade technology in Nihewan basin, north China. In: *Abstracts of International Obsidian Conference (IOC) Engaru 2023*. 67. Shirataki Geopark Promotion Council, Engaru.
487. Morgan C., Barton L., Bettinger R., Chen F., Zhang D. 2011. Glacial cycles and Palaeolithic adaptive variability on China's Western Loess Plateau. *Antiquity* 85, 365-379.
488. Morgan C., Barton L., Bettinger R. L. 2019. Looking for behavioral modernity in Pleistocene northwestern China. *Archaeological Research in Asia* 17, 70-78.
489. Nian X., Gao X., Xie F., Mei H., Zhou L. 2014. Chronology of the Youfang site and its implications for the emergence of microblade technology in North China. *Quaternary International* 347, 113-121.
490. O' Malley, J. M., Kuzmin Y.V., Donahue D.J., Jull A.J.T. 1999. Direct radiocarbon accelerator mass spectrometric dating of the earliest pottery from the Russian Far East and Transbaikalia. *Mémoires de la Société préhistorique française* 26, 19-24.
491. Qu T., Bar-Yosef O., Wang Y., Wu X. 2013. The Chinese Upper Paleolithic: Geography, Chronology, and Techno-typology. *Journal of Archaeological Research* 21, 1-73.
492. Rui X., Guo Y., Zhang J., Hu Y., Mei H., Wang Y., Xie F. Li B. 2019. Luminescence chronology of the Palaeolithic-Neolithic transition in the Yujiagou site at the Nihewan Basin, northern China. *Journal of Quaternary Science* 34(2), 125-137.

493. Seong C. 2015. Diversity of Lithic Assemblages and Evolution of Late Palaeolithic Culture in Korea. *Asian Perspectives* 54(1), 91-112.
494. Shen C. 2007. A re-evaluation of microblade industries and the Fenghuangling cultural complex in Shandong Peninsula, Northern China. In: *Origin and Spread of Microblade Technology in Northern Asia and North America*. 39-52. Archaeology Press, Simon Fraser University, Burnaby.
495. Song Y., Li X., Wu X., Eliso Kvavadze E., Goldberg P., Bar-Yosef O. 2016. Bone needle fragment in LGM from the Shizitan site (China): Archaeological evidence and experimental study. *Quaternary International* 400, 140-148.
496. Song Y., Cohen D., Shi J., Wu X., Eliso Kvavadze E., Goldberg P., Zhang S., Zhang Y., Bar-Yosef O., 2017. Environmental reconstruction and dating of Shizitan 29, Shanxi Province: An early microblade site in north China. *Journal of Archaeological Science* 79, 19-35.
497. Song Y., Grimaldi S., Santaniello F., Cohen, D. J., Shi J., Bar-Yosef O. 2019. Re-thinking the evolution of microblade technology in East Asia: Techno-functional understanding of the lithic assemblage from Shizitan 29 (Shanxi, China). *PLoS ONE* 14(2), e0212643, 23pp.
498. Song Y., Cohen D. J., Shi J. 2022. Diachronic change in the utilization of ostrich eggshell at the Late Paleolithic Shizitan Site, North China. *frontiers in Earth Science* 9, article no. 818554, 18pp. <https://doi.org/10.3389/feart.2021.818554>.
499. Tang C., Gai P. 1986. Upper Paleolithic cultural traditions in North China. *Advances in World Archaeology* 5, 339-364. Academic Press, New York.
500. Takakura J. 2020. Rethinking the disappearance of microblade technology in the terminal Pleistocene of Hokkaido, Northern Japan: Looking at archaeological and palaeoenvironmental evidence. *Quaternary* 3(3), article no. 21, 19pp.
501. Wang C., Zhang Y., Chen Q., Zhao H. 2009. Technological analysis of Upper Paleolithic microblade industry in the eastern portion of Northeast China. *Asian Social Science* 5(9), 21-26.
502. Wang F., Yang S., Ge J., Ollé A., Zhao K., Yue J., Jian-Ping Yue, Rosso D. E., Douka K., Guan Y., Li W., Yang H., Liu L., Xie F., Guo Z., Zhu R., Deng C., d' Errico F., Petraglia M. 2022. Innovative ochre processing and tool use in China 40,000 years ago. *Nature* 603, 284-289.
503. Wang Y., Cheng H., Edwards R. L., An Z., Wu J., Shen C., Dorale J. A. 2001. A high-resolution absolute-dated Late Pleistocene Monsoon record from Hulu Cave, China. *Science* 294, 2345-2348.
504. Wang X., Xie F., Mei H., Gao X. 2019. Intensive exploitation of animal resources during Deglacial times in North China: a case study from the Yujiagou site. *Archaeological and Anthropological Sciences* 2019(11), 4983-5000.
505. Xu T. 2023. Areport of 2010 excavation of the Helongdadong site, Jilin Province. In: *Abstracts of International Obsidian Conference (IOC) Engaru 2023*. 43. Shirataki Geopark Promotion Council, Engaru.

506. Yang S., Zhang Y., Li Y., Zhao C., Li X., Yue J., Hou Y., Deng C., Zhu R., Petraglia M. D. 2017. Environmental change and raw material selection strategies at Taoshan: a terminal Late Pleistocene to Holocene site in north-eastern China. *Journal of Quaternary Science* 32(5), 553-563.
507. Yang X., Wan Z., Perry L., Lu H., Wang Q., Zhao C., Li J., Xie F., Yu J., Cui T., Wang T., Li M., Ge Q. 2012. Early millet use in northern China. *PNAS* 109 (10), 3726-3730.
508. Yang X., Perry L. 2013. Identification of ancient starch grains from the tribe Triticaceae in the North China Plain. *Journal of Archaeological Science* 40(8), 3170-3177.
509. Yang X., Ma Z., Wang T., Perry L., Li Q., Huan X., Yu J. 2014. Starch grain evidence reveals early pottery function cooking plant foods in North China. *Chinese Science Bulletin* 59 (32), 4352-4358.
510. Yang X., Ma Z., Li J., Yu J., Steven C., Zhuang Y. 2015. Comparing subsistence strategies in different landscapes of North China 10,000 years ago. *Holocene* 25(12), 1957-1964.
511. Yang X., Wu W., Perry L., Ma Z., Bar-Yosef O., Cohen D. J. Zheng H., Ge Q. 2018. Critical role of climate change in plant selection and millet domestication in North China. *Scientific report* 8 article no.7855, 9pp.
512. Yi M., Barton L., Morgan C., Liu D., Chen F., Zhang Y., Pei S., Guan Y., Wang H., Gao X., Bettinger R. L. 2013. Microblade technology and the rise of serial specialists in north-central China. *Journal of Anthropological Archaeology* 32(2), 212-223.
513. Yue J., Li Y., Yang S., 2019. Neolithisation in the southern Lesser Khingan Mountains: lithic technologies and ecological adaptation. *Antiquity* 93(371), 1144-1160.
514. Yue J., Li Y., Zhang Y., Yang S. 2020. Lithic raw material economy at the Huayang site in Northeast China: localization and diversification as adaptive strategies in the Late Glacial. *Archaeological and Anthropological Sciences* 12, article no.107(2020), 13pp.
515. Yue J., Yang S., Hou Y., Potter B. A., Li Y., Chang Y. 2020. Late Pleistocene lithic technology and human adaptation in Northeast China: A case study from Taoshan site. *Quaternary International* 535, 48-57.
516. Yue J., Yang S., Li Y., Storozum M., Hou Y., Yang C., Petraglia M. D., 2021. Human adaptations during MIS2: Evidence from microblade industries of Northeast China. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 567, article no. 110286, 14pp.
517. Yue J., Yang S., Li Y., 2023. Human adaptations during MIS2: Evidence from microblade industries of northeast China. In: *Abstracts of International Obsidian Conference (IOC) Engaru 2023*. 68. Shirataki Geopark Promotion Council, Engaru.
518. Zhang J., Wang X., Qiu W., Shelach G., Hu G., Fu X., Zhuang M., Zhou L., 2011. The Paleolithic site of Longwangchan in the middle Yellow River, China: chronology, paleoenvironment and implications. *Journal of Archaeological Science* 38, 1537-1550.
519. Zhang M. 2019. Explaining variation and change among Late Pleistocene and Early Holocene microblade-based societies in Northeastern Asia. Dissertation, Department of Anthropology, The University of New Mexico, Albuquerque, 419pp.

520. Zhang M. 2020. Microblade-based societies in North China at the end of the ice age. *Quaternary* 3(3), article no. 20, 32pp.
521. Zhang M. 2021a. Rethinking microblade technology research in Northeastern Asia. *Journal of Paleolithic Archaeology* 4(3), article no. 17, 40pp. <https://doi.org/10.1007/s41982-021-00095-4>
522. Zhang M. 2021b. Late Pleistocene and Early Holocene Microblade-Based Industries in Northeastern Asia: A Macroecological Approach to Foraging Societies. *British Archaeological Reports International Series* 3056, 215pp. British Archaeological Reports Limited, Oxford.
523. Zhang M. 2023. Across Boundaries: Origin of Microblade Technology in Northeastern Asia under the Macroecological Approach. In: *Archaeology on the Threshold: Studies in the Processes of Change*. 36-67. University Press of Florida, Gainesville.
524. Zhang S., Domínguez-Rodrigo M., Zhang D., Zhang Y. 2022. Human-Animal Interactions in Prehistoric China. *Frontiers in Earth Science* 10, article no. 935558, 3pp. <https://doi.org/10.3389/feart.2022.935558>.
525. Zhang Y., Doyon L., Gao X., Chen F., Wang H., Zhang S. 2022. Birds and prehistoric humans in North China: a taphonomic analysis of the avian assemblage from Shuidonggou Locality 12. *Archaeological and Anthropological Sciences* 14, article no. 157 (2022). <https://doi.org/10.1007/s12520-022-01623-1>.
526. Zhao C., Yu J., Wang T., Wu X., Hao S., Ma X., Xia Z. 2003. A study on an early Neolithic site in North China. *Documenta Praehistorica* 30, 169-173.
527. Zhao C., Wang Y., Gu W., Wang S., Wu X., Gao X., Chen Y., Li Y. 2021. The emergence of early microblade technology in the hinterland of North China: a case study based on the Xishi and Dongshi site in Henan Province. *Archaeological and Anthropological Sciences* 13, article no. 98(2021), 16pp.
528. Zhao C., Wang Y., Walden J. P. 2022. Diachronic shifts in lithic technological transmission between the eastern Eurasian Steppe and northern China in the Late Pleistocene. *PLoS ONE* 17(11), e0275162, 33pp.
529. Zhao C., Wang Y., Walden J. P. 2023. Regional variation in the shift towards microlithization: The development of early microblade technology in North China. *Archaeological Research in Asia* 34, 1-15.
530. Zhao L., Jin H., Li C., Cui Z., Chang X., SERGEY S. Marchenko S. S., Vandenberghe J., Zhang T., Luo D., Guo D., Liu G., Yi C. 2013. The extent of permafrost in China during the local Last Glacial Maximum (LLGM). *Boreas* 10.1111/bor.12049, ISSN 0300-9483, 11pp.
531. Zou G., Shelach G., Li X., Zhao C., Rui X., Zhou L., Zhang J. 2018. Geochronology and paleoenvironment of the Taoshan site, northeastern China, and archaeological implications. *Quaternary International* 463, 6-17.

日本語文献

532. 安藤政雄 (1982) 「中国の石器 - 中国科学院、中国社会科学院寄贈の複製標本について -」『職台史学』55, 121-138。
533. 衛 奇 (2007) 「中国泥河湾盆地の旧石器時代」『東北学院大学論集 歴史と文化』42, 101-163, 東北学院大学 (仙台)。
534. 王 幼平 (2009) 「華北泥河湾盆地における細石器技術・年代および関連する問題について」『旧石器考古学』72, 17-27。
535. 大谷 薫 (2017) 「韓国細石器文化における製作技術と変容」『安藤政雄先生古希記念論文集 旧石器時代の知恵と技術の考古学』, 343-356, 雄山閣 (東京)。
536. 大谷 薫 (2023a) 「朝鮮半島の細石刃石器群」『細石刃石器群発見 70 周年記念 日本列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の展開 予稿集』, 61-64, 明治大学黒耀石研究センター (長和)・八ヶ岳旧石器研究グループ (御代田)。
537. 大谷 薫・安藤政雄 (2023b) 「日本列島と朝鮮半島の湧別系細石器」『九州旧石器』27, 153-163。
538. 大貫静夫 (編著) (2002) 『内蒙古細石器文化の研究』, 177 頁, 科学研究費補助金研究成果報告書, 東京大学大学院人文社会系研究科 (東京)。
539. 大場正善 (2010) 「石器に残された痕跡から失われたテクニクを復原する - 細石刃剥離のテクニク復原を例に -」『アークス』Ⅲ, 53-67, 文部科学省・組織的な大学院教育改革推進プログラム「遺跡遺物資料処理技術開発の日中韓協同推進」成果報告書, 東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻大学院 GP 委員会 (仙台)。
540. 小畑弘己 (1987) 「西南日本の楔形石核とその系譜について」『東アジアの考古と歴史 中』, 1-29, 同朋舎出版 (京都)。
541. 加藤真二 (1992) 「中国細石刃文化の展開とその背景」『筑波大学先史学・考古学研究』3, 1-29。
542. 加藤真二 (1993) 「中国華北の細石刃文化」『シンポジウム 細石刃文化研究の新たなる展開』Ⅱ, 126-139, 八ヶ岳旧石器研究グループ, 佐久考古学会 (佐久)。
543. 加藤真二 (1997) 「極東の細石刃文化編年 - 中国北部を中心として -」『九州の細石器文化 - 細石器文化の開始と編年研究』, 395-402, 九州旧石器文化研究会鹿児島大会実行委員会 (鹿児島)。
544. 加藤真二 (2000) 「中国北部の旧石器文化」, 286 頁, 同成社 (東京)。
545. 加藤真二 (2003) 「中国の細石器文化研究 - その過去、現在そして未来 -」『シンポジウム 日本の細石刃文化』Ⅱ, 232-245, 八ヶ岳旧石器研究グループ (佐久)。
546. 加藤真二 (2005) 「中国山東省の細石器石器群の調査」『第 6 回 北アジア調査研究報告会発表要旨』, 51-54, 北アジア調査研究報告会実行委員会 (東京)。
547. 加藤真二 (2009) 「華北細石刃文化に関する調査研究の現状と課題」『旧石器考古学』72, 39-49。
548. 加藤真二 (2009) 「最近の中国旧石器考古学 - 華北中・後期旧石器編」『日本旧石器学会ニュースレター』11, 1-4, 日本旧石器学会。
549. 加藤真二 (2009) 「中国細石刃石器群の初歩的分析」『奈良文化財研究所紀要 2009』, 30-31, 奈良文化財研究所 (奈良)。

550. 加藤真二ほか(2009)「中国華北細石刃文化調査から—華北地域における細石刃石器群の出現—」『第10回 北アジア調査研究報告会要旨集』, 37-40. 北アジア調査研究報告会実行委員会(東京)。
551. 加藤真二(2010)「中国の旧石器文化」『講座日本の考古学2 旧石器時代(下)』, 452-480. 青木書店(東京)。
552. 加藤真二(2010)「中国北部における周縁調整横断面型彫器」『第11回 北アジア調査研究報告会要旨集』, 17-20. 北アジア調査研究報告会実行委員会(金沢)。
553. 加藤真二(2013)「華北西部の細石刃石器群」『第14回 北アジア調査研究報告会要旨集』, 1-4. 北アジア調査研究報告会実行委員会(金沢)。
554. 加藤真二(2013)「華北地域における角錐状細石核石器群—古本州島の細石刃石器群との関連について—」『シンポジウム 日本列島における細石刃石器群の起源』, 14-27. ハヶ岳旧石器研究グループ(佐久)。
555. 加藤真二(2014)「中国細石刃文化の基礎的研究 —河南省靈井遺跡石器群の分析を中心として—」, 168頁, 平成22年度~平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(海外学術調査)研究成果報告書。国立文化財機構奈良文化財研究所(奈良)。
556. 加藤真二(2016)「中国的周縁調整横-斜刃型彫器」『旧石器考古学』81, 47-58。
557. 加藤真二(2018)「中国における“北方系細石刃石器群”の拡散について」『日本旧石器学会第16回研究発表・シンポジウム予稿集』, 19-22. 日本旧石器学会(東京)。
558. 加藤真二(編著)(2019)「東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究 —河南靈井遺跡出土品の徹底分析—」, 114頁, 平成27年度~平成30年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(海外学術調査)研究成果報告書。国立文化財機構奈良文化財研究所(奈良)。
559. 加藤真二(2019)「中国の旧石器 —その石器群類型と編年—」『旧石器研究』15, 91-105。
560. 加藤真二(2020)「東アジアにおける細石刃石器群の出現と拡散 —西山頂・西沙河の衝撃—」『第21回 北アジア調査研究報告会要旨集』, 5-8. 北アジア調査研究報告会実行委員会(福岡)。
561. 加藤真二(2020)「華北地方における早期土器 —その出現と拡散—」『物質文化』100, 63-73。
562. 加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の動向」『第22回 北アジア調査研究報告会要旨集』, 13-16. 北アジア調査研究報告会実行委員会(江別)。
563. 加藤真二(2023)「下川遺跡群の石器群について —中国北部のEUP石器群—」『文化財論叢』V, 673-690. 奈良文化財研究所(奈良)。
564. 加藤真二(2023)「中国細石刃石器群の展開」『細石刃石器群発見70周年記念 日本列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の展開 予稿集』, 55-59. 明治大学黒耀石研究センター(長和)・ハヶ岳旧石器研究グループ(御代田)。
565. 加藤真二(2023)「二道梁—林富事件について」『九州旧石器』27, 143-152。
566. 加藤真二・李 占揚(2011)「河南省許昌市靈井遺跡の細石刃技術」『第12回 北アジア調査研究報告会要旨集』, 51-54. 北アジア調査研究報告会実行委員会(札幌)。
567. 加藤真二・李 占揚(2012)「河南省許昌市靈井遺跡の細石刃技術 —華北における角錐状細石核石器群—」『旧石器研究』8, 31-44。

568. 加藤晋平 (1976) 「北アジアの旧石器文化におけるクサビ形石核について」『歴史人類』2, 26-55。
569. 加藤晋平 (1984) 「日本細石器文化の出現」『駿台史学』60, 38-56。
570. 加藤晋平・松本美枝子 (1984) 「日本細石刃文化の源流」『史碑』25, 39-82。
571. 蓋 培 (加藤真二訳) (1993) 「中国の細石刃核について」『北方ユーラシアにおける細石刃石器群の起源と拡散』, 76-90, 国際シンポジウム実行委員会 (札幌)。
572. 川道 寛 (2005) 「日本列島最西端の細石器文化」『地域と文化の考古学 I』, 125-142, 六一書房 (東京)。
573. 佐川正敏 (1983) 「中国北方における旧石器時代晩期の石器群の変遷」『考古学論叢 I』, 137-170, 東出版寧楽社 (東京)。
574. 佐川正敏・大場正善 (2005) 「中国旧石器時代研究の動向 —学会動向, 生活面の認識, 植刃器を中心に—」『第 19 回 東北日本の旧石器文化を語る会 予稿集』, 82-86, 東北日本の旧石器文化を語る会 (札幌)。
575. 佐川正敏・衛 奇・大場正善・安倍奈々子・高橋 潤 (2007) 「中国河北省張家口市陽原県東園遺跡試掘調査報告 —泥河湾盆地東部における細石刃技術についての一考察—」『アジア文化史研究』7, 1-20。
576. 佐久間光平 (2018) 「東北地方の「北方系細石刃石器群」をめぐって」『東北日本の旧石器時代』, 475-488, 六一書房。
577. 佐藤宏之 (2010) 「東アジアにおける削片系細石刃石器群の伝播」『比較考古学の新天地』, 895-904, 同成社。
578. 佐藤宏之 (2011) 「荒川台型細石刃石器群の形成と展開 —後柱系細石刃石器群の生成プロセスを展望して—」『考古学研究』58(3), 51-68。
579. 下岡順直ほか (2011) 「中国泥河湾盆地における後期更新世の地形変遷の年代に関する予察 —華北地方における現生人類の出現と文化内容の解明を目指して—」『中国考古学』11, 91-100。
580. 芝康次郎 (2011) 「九州における細石刃石器群の研究」, 308 頁, 六一書房。
581. 芝康次郎 (2020) 「中国華北地方における細石刃石器群の出現と展開 —最新動向の整理からみた諸問題—」『木下尚子先生退任記念 先史学・考古学論叢』Ⅷ, 189-200, 龍田考古会 (熊本)。
582. 芝康次郎 (2023a) 「古本州島における細石刃石器群の出現と展開 —西からの視点—」『細石刃石器群発見 70 周年記念 日本列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の展開 予稿集』, 47-50, 明治大学黒曜石研究センター (長和)・ハヶ岳旧石器研究グループ (御代田)。
583. 芝康次郎 (2023b) 「古本州島における細石刃石器群の出現と展開 —古本州島と周辺地域での年代的整理を中心に—」『九州旧石器』27, 165-178。
584. 徐 淑彬・加藤真二 (1991) 「中国山東省沂河・沭河流域の細石器文化」『旧石器考古学』43, 17-24。
585. 白石典之 (1993) 「北東アジアの細石刃石器群」『筑波大学先史学・考古学研究』4, 1-30。
586. 白石典之 (1995) 「細石刃をもった環境激変期の狩人」『講座 [文明と環境] 13 農耕と文明』, 91-108, 朝倉書店 (東京)。
587. 白石典之 (2022) 『モンゴル考古学概説』, 280 頁, 同成社 (東京)。
588. 高倉 純 (2018) 「北アジアにおける細石刃技術の出現過程をめぐって」『東北日本の旧石器時代』443-457, 六一書房 (東京)。

589. 橋 昌信(2012)「九州島の「細石器文化」—九州島における細石刃石器(1)—」『西海考古』8, 17-26。
590. 橋 昌信(2016)「九州島における後期旧石器時代終末期の石器群—一端部整形小型剥片石器群と細石器文化—」『広島大学大学院文学研究科 考古学研究室 50周年記念論文集・文集』, 101-116, 広島大学考古学研究室50周年記念論文集・文集刊行会(広島)。
591. 橋 昌信・多田 仁(2013)「西南日本における船野系細石刃石器群の形成と展開」『明治大学博物館研究報告』18, 1-21, 明治大学博物館(東京)。
592. 橋 昌信(2017)「大野川流域における細石器文化の研究—旧大野郡大野町小牧遺跡の調査資料を中心に—」, 95頁, 橋 昌信(別府)。
593. 萩原博文・柳田裕三(2020)「九州における細石刃石器群の出現」『九州旧石器』24, 247-258, 九州旧石器文化研究会熊本大会実行委員会(熊本)。
594. 林 謙作(1970)「福井洞穴における細石刃技術とその東北アジア・北アジアにおける位置付け」『考古学研究』16(4), 37-60, 同17(2), 37-64。
595. 林 謙作(1974)「東北アジアの細石刃技術」『日本考古学・古代史論集』, 25-86, 吉川弘文館。
596. 山田 哲(2008)「北海道の細石刃石器群をめぐる伝播現象」『伝播を巡る構造変動—国府石器群と細石刃石器群—』, 60-77, 科学研究費補助金基盤研究(B)「日本列島北部の更新世/完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」グループ(東京)。
597. 山田 哲(2022)「日本列島における細石刃石器群の成立—特に稜柱系細石刃石器群の生成と特性について—」『旧石器研究』18, 11-27。
598. 李 占揚(加藤真二訳)(2009)「華北南部の細石器インダストリー」『旧石器考古学』72, 29-38。

補遺・その他参考文献

599. 黒龍江省文物考古研究所・饒河県文物管理所(2019)「黒龍江省饒河県小南山遺址 2015年Ⅲ区発掘簡報」『考古』2019(8), 3-20。
[黒龍江省文物考古研究所・饒河県文物管理所(2019)黒龍江省饒河県小南山遺址 2015年Ⅲ区発掘簡報, 考古2019(8), 3-20]
600. 李 霞(2008)「和龍崇善大洞旧石器遺址 07年発掘の石器研究」, 吉林大学修士論文, 59頁。
[李霞(2008)和龍崇善大洞旧石器遺址 07年発掘の石器研究, 吉林大学碩士論文, 59頁]
601. 陳全家・付永平・趙宇超・王晓陽・盧 悦(2013)「法庫五里山旧石器地点發見的石器研究」『文物春秋』2013(4), 20-31。
[陳全家・付永平・趙宇超・王晓陽・盧悦(2013)法庫五里山旧石器地点發見的石器研究, 文物春秋2013(4), 20-31]
602. 付永平・陳全家・王晓陽・盧 悦(2016)「瀋陽法庫后大屯二嶺山地点發見的旧石器研究」『北方文物』2016(2), 3-11。
[付永平・陳全家・王晓陽・盧悦(2013)瀋陽法庫后大屯二嶺山地点發見的旧石器研究, 北方文物2016(2), 3-11]

603. 盛立双・王春雪 (2013) 「天津蓟县野沟旧石器地点簡報」[*边疆考古研究* 2013(2), 13-20。
[盛立双・王春雪 (2013) 天津蓟县野沟旧石器地点調查簡報。 *边疆考古研究* 2013(2), 13-20]
604. 天津市文化遺產保護中心・吉林大学边疆考古研究中心 (2016) 「天津蓟县营坊旧石器地点調查簡報」[*北方文物* 2016(3), 3-8。
[天津市文化遺產保護中心・吉林大学边疆考古研究中心 (2016) 天津蓟县营坊旧石器地点調查簡報。 *北方文物* 2016(3), 3-8]
605. 高 磊 (2016) 「河北陽原馬鞍山遺址Ⅱ区第3、4層石製品分析」, 西北大学修士論文, 94頁。
[高 磊 (2016) 河北陽原馬鞍山遺址Ⅱ区第3、4層石製品分析」, 西北大学碩士論文, 94頁]
606. 宋艳花・申如夢 (2023) 「黄河中游山西吉县馮家坡遺址發掘簡報」[*人類學學報* 42(3), 381-389。
[宋艳花・申如夢 (2023) 黄河中游山西吉县馮家坡遺址發掘簡報。 *人類學學報* 42(3), 381-389]
607. 李超榮・任秀生 (1992) 「大同縣山自造地点旧石器研究」[*人類學學報* 11(1), 79-85。
[李超榮・任秀生 (1992) 大同縣山自造地点旧石器研究。 *人類學學報* 11(1), 79-85]
608. 宋艳花 (2013) 「山西旧石器時代考古」, 197頁, 山西人民出版社 (太原)。
[宋艳花 (2013) 山西旧石器時代考古。 197頁, 山西人民出版社 (太原)]
609. 西安半坡博物館・大荔縣文化館 (1983) 「陝西大荔沙苑地区考古調查報告」[*史前考古* 創刊号, 101-113。
[西安半坡博物館・大荔縣文化館 (1983) 陝西大荔沙苑地区考古調查報告。 *史前考古* 創刊号, 101-113]
610. 王幼平ほか (2022) 「中原地区晚更新世古人類文化發展研究」, 544頁, 科学出版社 (北京)。
[王幼平等 (2022) 中原地区晚更新世古人類文化發展研究。 544頁, 科学出版社 (北京)]
611. Terry K., Buvit I., Konstantinov M. V. 2016. Emergence of a microlithic complex in the Transbaikalian Region of southern Siberia. *Quaternary International* 425, 88-99.
612. Wu H., Li Q., Yanyan Yu Y., Sun A., Lin Y., Jiang W., Luo Y. 2019. Quantitative climatic reconstruction of the Last Glacial Maximum in China. *Science China: Earth Sciences* 62(8), 1269-1278.
613. 劉東生 (編) (2008) 「黄土与干旱環境」, 537頁, 安徽科学技术出版社 (合肥)。
[劉東生 (編) (2008) 黄土与干旱環境。 537頁, 安徽科学技术出版社 (合肥)]
614. 張蘭生・方修琦 (編) (2012) 「中国古地理—中国自然環境的形成」, 425頁, 科学出版社 (北京)。
[張蘭生・方修琦 (編) (2012) 中国古地理—中国自然環境的形成。 425頁, 科学出版社 (北京)]
615. Graf K. E. 2009. Modern Human Colonization of the Siberian Mammoth Steppe: A View from South-Central Siberia. In: *Sourcebook of Paleolithic Transitions: Methods, Theories, and Interpretations*, 479-500, Springer, New York.
616. Buvit I., Terry K., Izuhō M. 2022. Pathways along the Pacific: Using early stone tools to reconstruct coastal migration between Japan and the Americas. In: *Palaeolandscapes in Archaeology: Lessons for the Past and Future*, 39-81, Routledge, London.
617. Gómez Coutouly Y. A. 2016. Migrations and interactions in prehistoric Beringia: the evolution of Yakutian lithic technology. *Antiquity* 90(349), 9-31.
618. 佐藤宏之 (2008) 「環日本海地域における細石刃石器群の<伝播>と構造変動」[*伝播を巡る構造変動—国府石器群と細石刃石器群—*], 96-109, 科学研究費補助金基盤研究 (B) 「日本列島北部の更新世/完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」グループ (東京)。

619. 趙益超・孫倩倩・饒宗岳・張海 (2023) 「山東臨淄趙家徐姚遺址」[2022 中国重要考古发现], 16-21, 文物出版社 (北京)。
 [赵益超・孙倩倩・饶宗岳・张海 (2023) 山东临淄赵家徐姚遗址. 2022 中国重要考古发现. 16-21, 文物出版社 (北京)]
620. 任美鏗 (編) (1985) 「中国自然地理綱要」, 412 頁, 商務印書館。
 [任美鏗 (編) (1985) 中国自然地理綱要. 412 頁, 商务印书馆 (北京)]
621. 中国科学院「中国自然地理」編集委員会 (編) (朝日稔・三浦慎悟・森美保子・権藤眞禎訳) (1981) 「中国の動物地理」, 366 頁, 日中出版 (東京)。
622. Yi M., Gao X., Li F., Chen F., 2015 Rethinking the origin of microblade technology: A chronological and ecological perspective. *Quaternary International* 400, 130-139.
623. Buvit I., Izuho M., Terry K., Konstantinov M.V., Konstantinov A. V. 2016. Radiocarbon dates, microblades and Late Pleistocene human migrations in the Transbaikai, Russia and the Paleo-Sakhalin-Hokkaido-Kuril Peninsula. *Quaternary International* 425, 100-119.
624. 加藤真二 (2019) 「ユーラシア東部における EUP 期の小石刃石器群の展開」[天山山脈から古日本列島へ] 中央アジア旧石器研究報告第 3 冊, 42-46, 奈良文化財研究所 (奈良)。
625. Yue J., Li Y., Yan X., Du X., Yang S. 2023. Late Glacial lithic industry of the Xiaonanshan site: implications for the Neolithisation in the Amur River basin. *Antiquity* 2023, pp.8. Published online: 13 December 2023. <https://doi.org/10.15184/aqy.2023.181>
626. 加藤晋平 (1988) 「日本人はどこから来たか—東アジアの旧石器文化—」岩波新書, 208 頁, 岩波書店 (東京)。
627. 朱之勇 (2023) 「華北地区細石葉組合演变与生态适应研究」[考古学報] 2023(4), 435-458。
 [朱之勇 (2023) 华北地区细石叶组合演变与生态适应研究] [考古学报] 2023(4), 435-458]
628. 加藤晋平 (1985) 「ブレチ遺跡の石器群について」[シベリアの先史文化と日本], 56-82, 六興出版 (東京)。
629. 王春雪・趙海龍・徐廷・陳全家・魏天旭・王家琪 (2023) 「吉林旧石器時代考古」, 479 頁, 上海古籍出版社 (上海)。
 [王春雪・赵海龙・徐廷・陈全家・魏天旭・王家琪 (2023) 吉林旧石器時代考古. 479 頁, 上海古籍出版社 (上海)]。
630. 馮玥・梅惠傑・謝飛・孫秀麗・王幼平 (2024) 「河北陽原馬鞍山遺址 1997-1998 年發掘基本材料与初步認識」[人類学學報] 43 (1), 67-80。
 [馮玥・梅惠杰・谢飞・孙秀丽・王幼平 (2024) 河北阳原马鞍山遗址 1997-1998 年发掘基本材料与初步认识] [人类学学报] 43 (1), 67-80]

2020年度～2023年度日本学術振興会科学研究費補助金
基盤研究(B)研究成果報告書

ユーラシア東部における
細石刃石器群の出現と拡散

—中国北部クロスロード仮説の検証—

Emergence and Diffusion of Microblade industries in Eastern Eurasia
—Verification of the Northern China Crossroads Hypothesis—

発行日：令和6年3月31日

編集：加藤 真二

発行：独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1

電話：0742-304733

印刷所：能登印刷株式会社

ISBN : 978-4-911002-41-4

©Shinji KATO 2024 Printed in Japan

